

## 5. 暮らし向き

### 5-1 暮らし向きの変化

問12 あなたの暮らし向きは、今年の今ごろと比べてどうですか。

- ・「変わらない」が5割を超え、「非常に苦しくなった」と「苦しくなった」を合わせた『苦しくなった』はほぼ4割となっている。
- ・『苦しくなった』は男性が女性に比べて8ポイント高く、男性の40代から60代で高くなっている。また、自営業・事業主とパート・アルバイト、入学前の乳幼児がいる人と小・中学生がいる人、一戸建借家と賃貸の木造アパートに居住の人で高くなっている。

#### (1) 全体

- ・「変わらない」が53.6%で最も多くなっている。
- ・「非常に苦しくなった」7.3%と「苦しくなった」33.4%を合わせた『苦しくなった』は40.7%となっている。
- ・暮らし向きの変化の推移をみると、前回（平成21年）とほぼ同じ傾向となっている。

図5-1-1 暮らし向きの変化（全体）

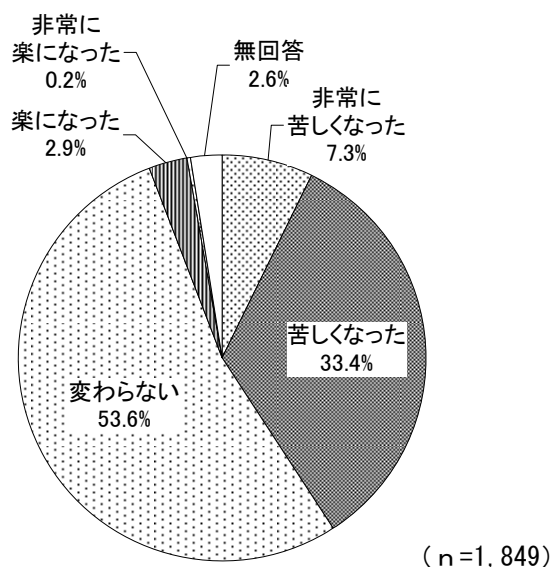
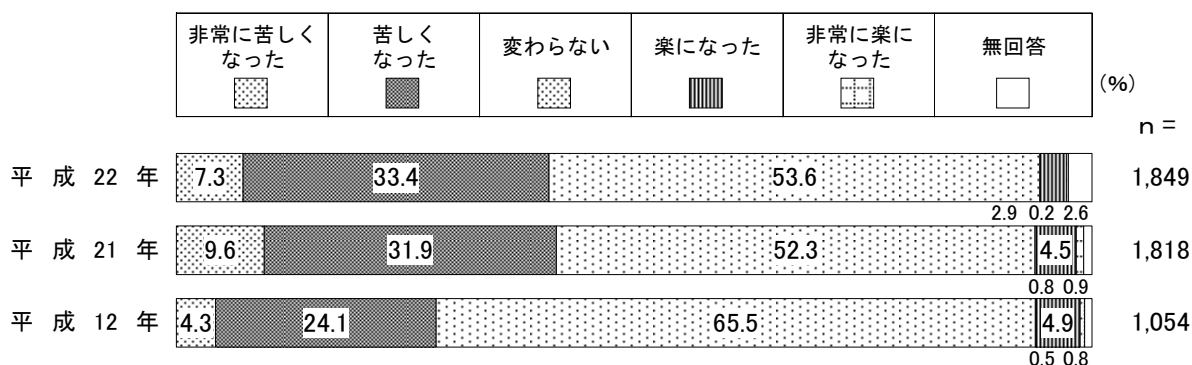


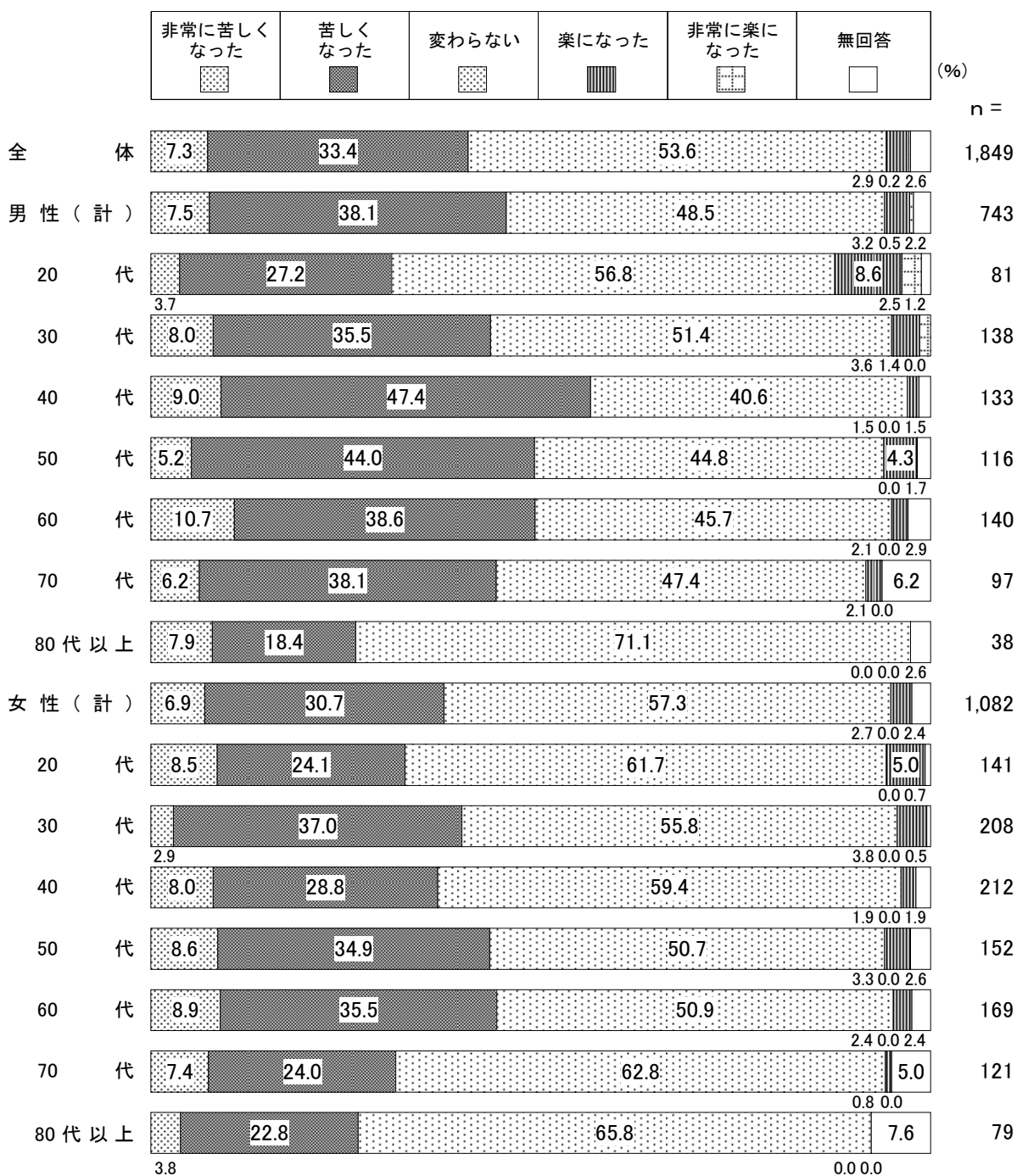
図5-1-2 暮らし向きの変化の推移（全体）



(2) 性・年代別

- ・「変わらない」は女性（57.3%）が男性（48.5%）に比べて9ポイント高く、『苦しくなった』は男性（45.6%）が女性（37.6%）に比べて8ポイント高くなっている。
- ・『苦しくなった』は男性の40代から60代（40代56.4%、50代49.2%、60代49.3%）で全体（40.7%）に比べて高くなっている。
- ・「変わらない」は男女ともに80代以上（男性71.1%、女性65.8%）で全体（53.6%）に比べて高くなっている。

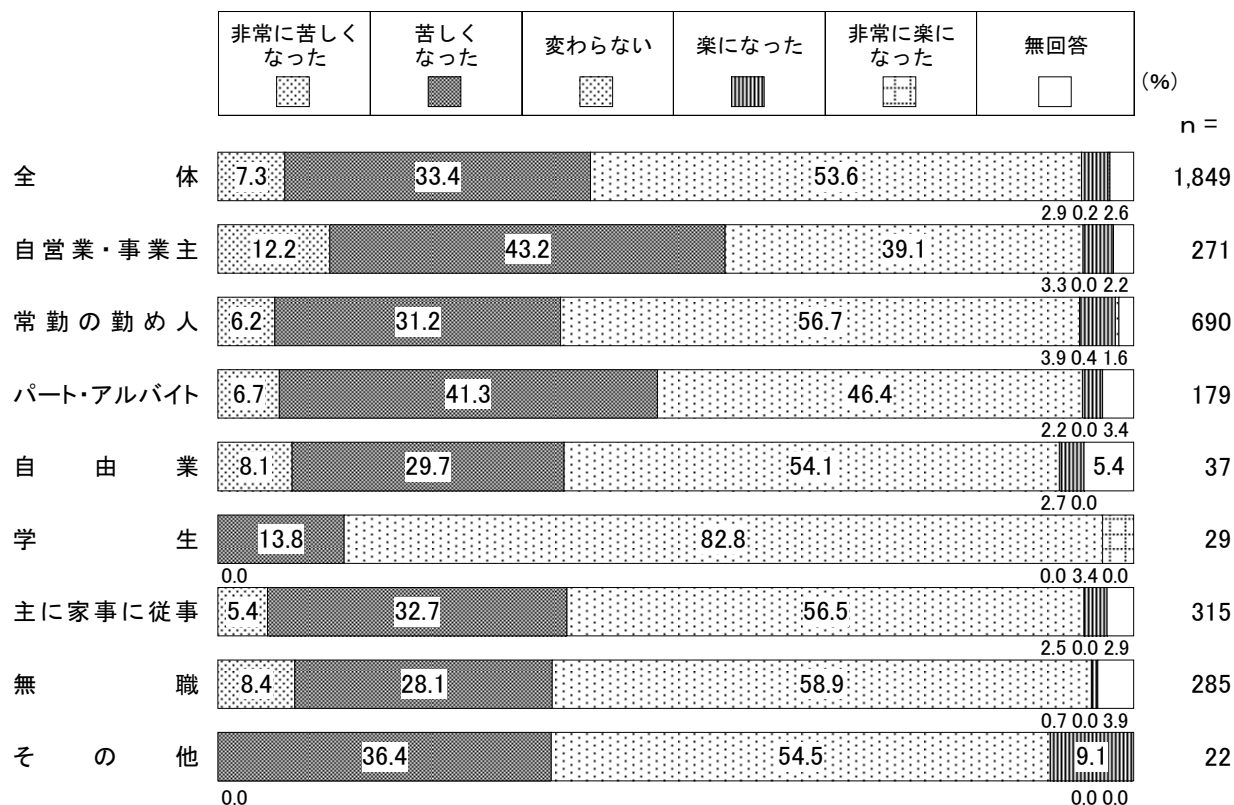
図5-1-3 暮らし向きの変化（性・年代別）



### (3) 職業別

- ・『苦しくなった』は自営業・事業主 (55.4%)、パート・アルバイト (48.0%) で全体 (40.7%) に比べて高くなっている。
- ・「変わらない」は学生 (82.8%) で全体 (53.6%) に比べて高くなっている。

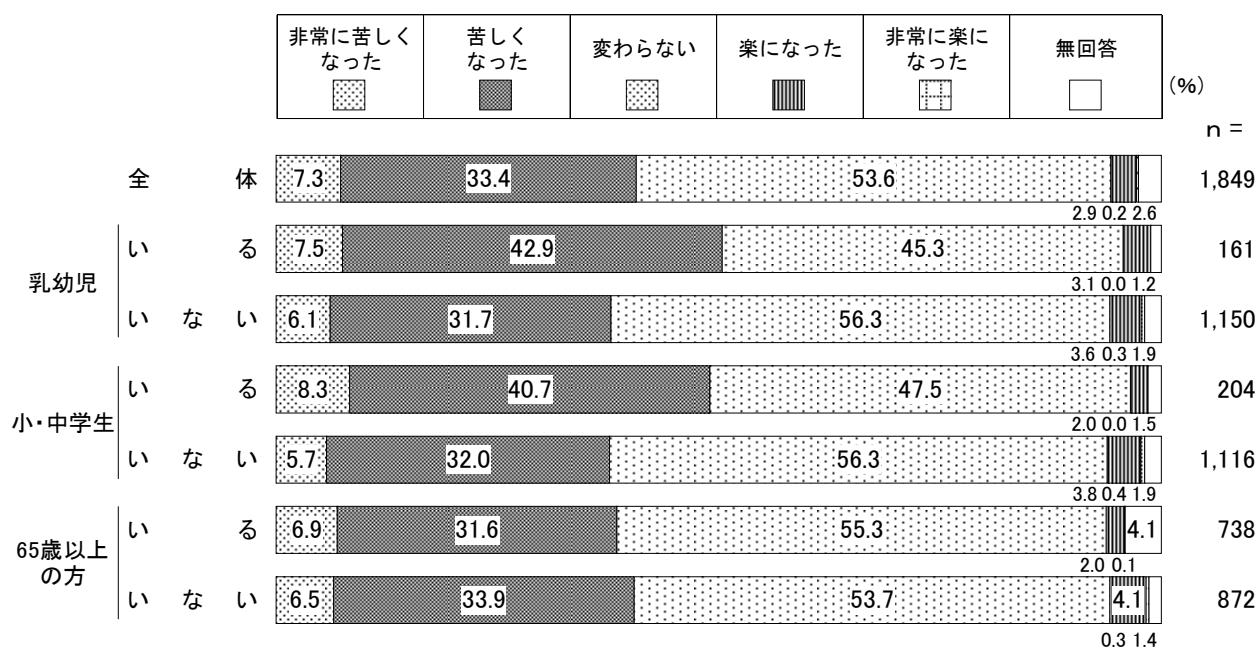
図5-1-4 暮らし向きの変化 (職業別)



### (4) 家族構成別

- ・『苦しくなった』は入学前の乳幼児がいる人 (50.4%) がいない人 (37.8%) に比べて13ポイント高く、小・中学生がいる人 (49.0%) がいない人 (37.7%) に比べて11ポイント高くなっている。

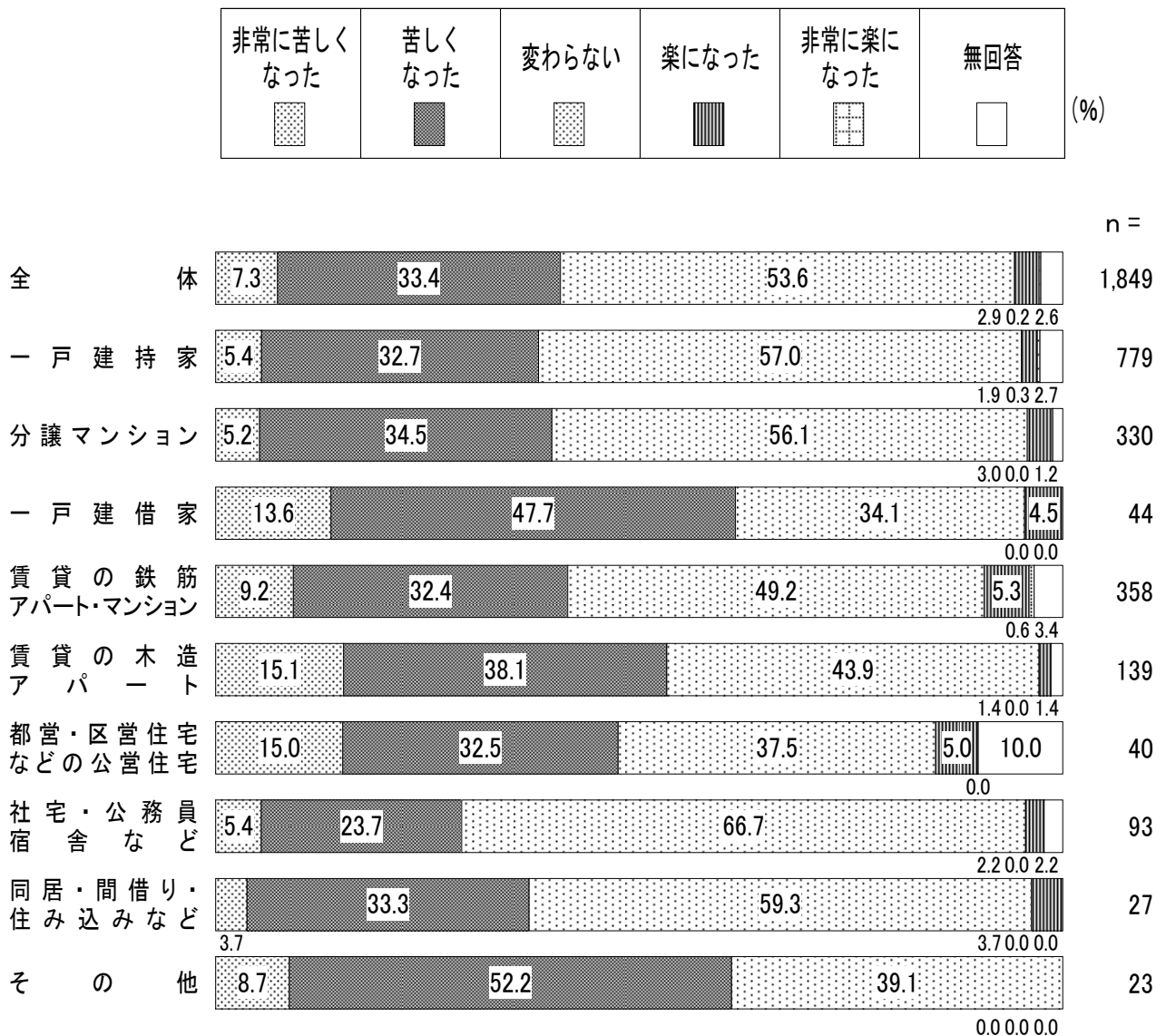
図5-1-5 暮らし向きの変化 (家族構成別)



(5) 居住形態別

- ・『苦しくなった』は一戸建借家 (61.3%)、賃貸の木造アパート (53.2%)、都営・区営住宅などの公営住宅 (47.5%) で全体 (40.7%) に比べて高くなっている。
- ・「変わらない」は社宅・公務員宿舎など (66.7%)、同居・間借り・住み込みなど (59.3%)、一戸建持家 (57.0%) で全体 (53.6%) に比べて高くなっている。

図5-1-6 暮らし向きの変化 (居住形態別)



## 5-2 暮らし向きが苦しくなった理由

(問12で、暮らし向きが「非常に苦しくなった」「苦しくなった」のいずれかに回答した方にお尋ねします)

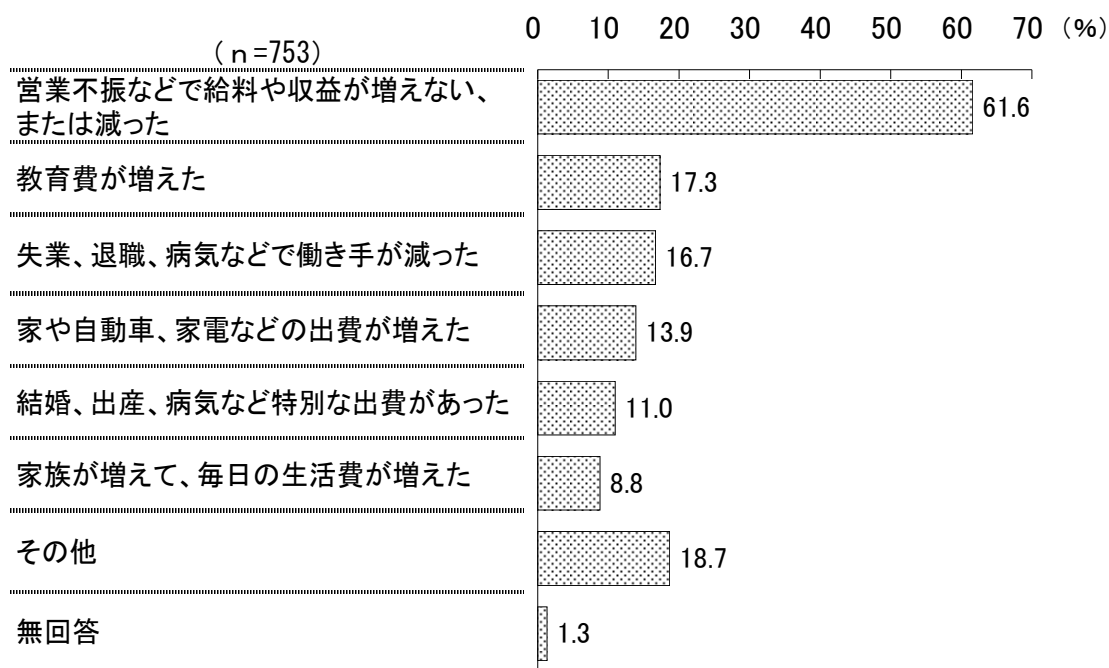
問12-1 暮らし向きが苦しくなったのは、どのような理由からですか。(〇はいくつでも)

- ・「営業不振などで給料や収益が増えない、または減った」が最も多く、次いで「教育費が増えた」、「失業、退職、病気などで働き手が減った」、「家や自動車、家電などの出費が増えた」の順となっている。
- ・「営業不振などで給料や収益が増えない、または減った」は男性が女性に比べて12ポイント高く、男性の30代と40代、女性50代で高くなっている。また、自営業・事業主と常勤の勤め人で高くなっている。
- ・「教育費が増えた」は男女ともに40代で高くなっている。
- ・「失業、退職、病気などで働き手が減った」は女性60代、無職で高くなっている

### (1) 全体

- ・「営業不振などで給料や収益が増えない、または減った」が61.6%で最も多く、次いで「教育費が増えた」17.3%、「失業、退職、病気などで働き手が減った」16.7%、「家や自動車、家電などの出費が増えた」13.9%の順となっている。

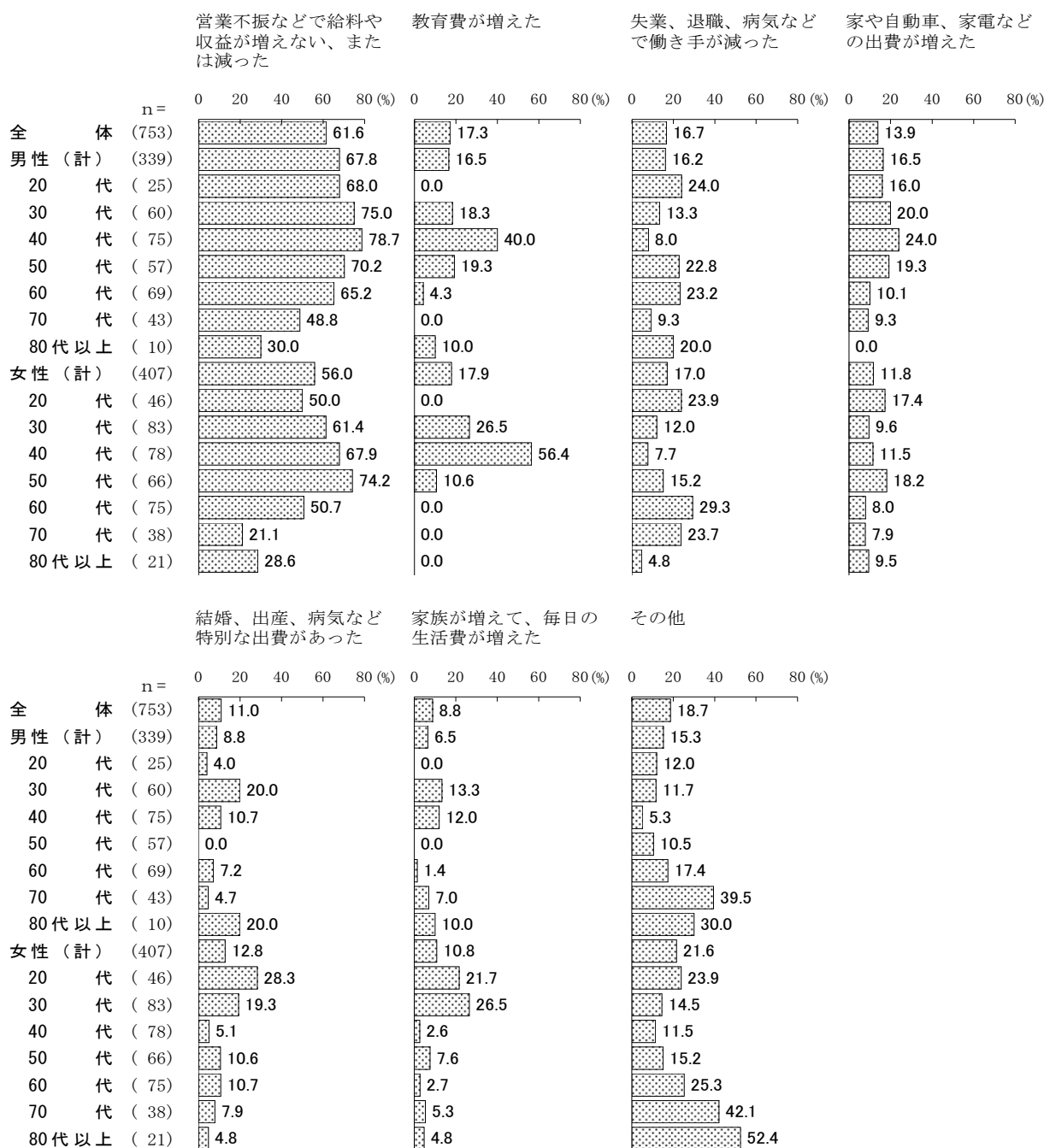
図5-2-1 暮らし向きが苦しくなった理由 (全体)



## (2) 性・年代別

- ・「営業不振などで給料や収益が増えない、または減った」は男性（67.8%）が女性（56.0%）に比べて12ポイント高くなっている。
- ・「営業不振などで給料や収益が増えない、または減った」は男性の30代（75.0%）と40代（78.7%）、女性50代（74.2%）で全体（61.6%）に比べて高くなっている。
- ・「教育費が増えた」は男女ともに40代（男性40.0%、女性56.4%）で全体（17.3%）に比べて高く、「失業、退職、病気などで働き手が減った」は女性60代（29.3%）で全体（16.7%）に比べて高くなっている。
- ・「結婚、出産、病気など特別な出費があった」は女性20代（28.3%）で全体（11.0%）に比べて高く、「家族が増えて、毎日の生活費が増えた」は女性の20代（21.7%）と30代（26.5%）で全体（8.8%）に比べて高くなっている。

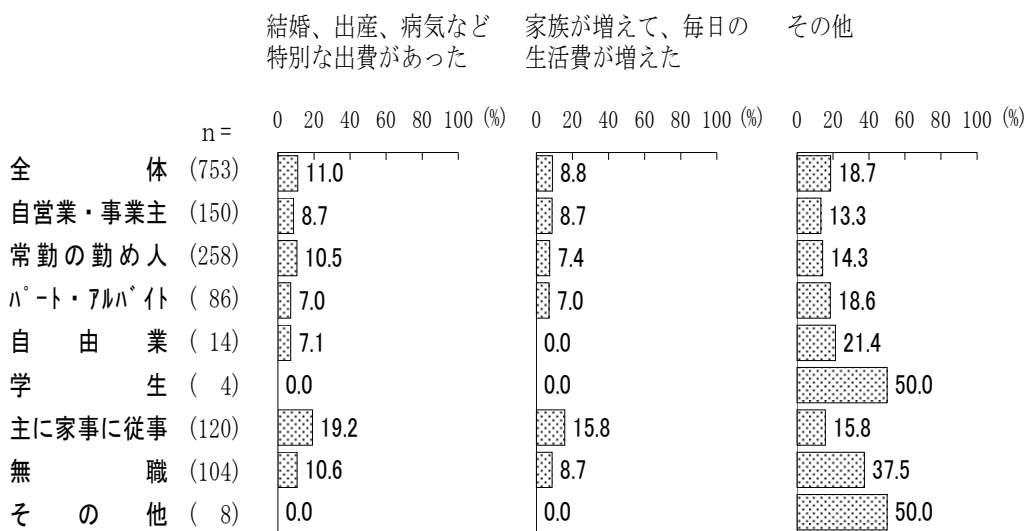
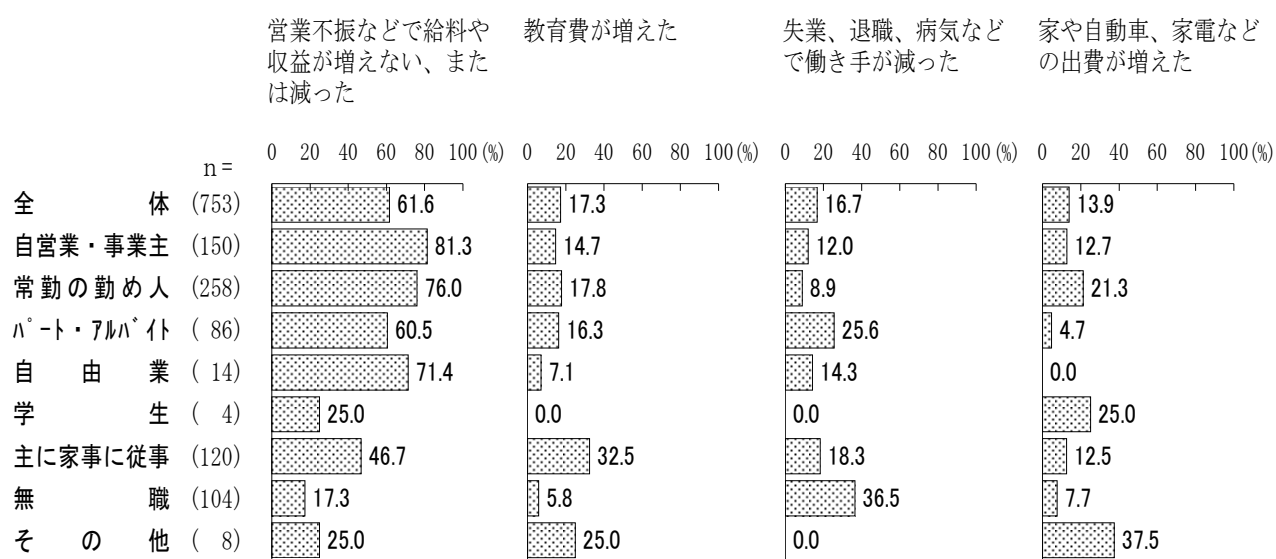
図5-2-2 暮らし向きが苦しくなった理由（性・年代別）



### (3) 職業別

- ・「営業不振などで給料や収益が増えない、または減った」は自営業・事業主 (81.3%) と常勤の勤め人 (76.0%) で全体 (61.6%) に比べて高くなっている。
- ・「教育費が増えた」は主に家事に従事 (32.5%) で全体 (17.3%) に比べて高く、「失業、退職、病気などで働き手が減った」は無職 (36.5%) で全体 (16.7%) に比べて高くなっている。

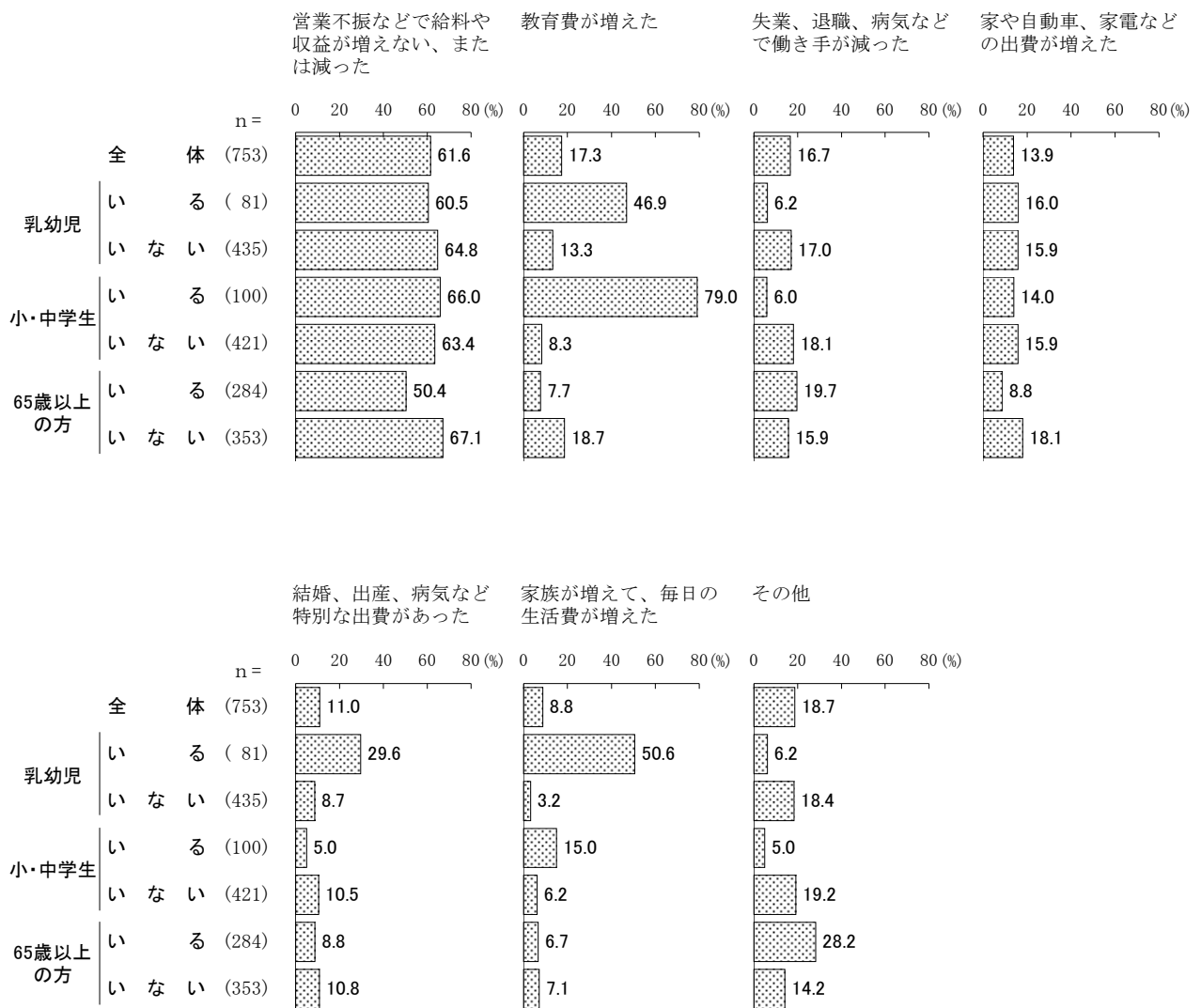
図5-2-3 暮らし向きが苦しくなった理由 (職業別)



#### (4) 家族構成別

- ・「教育費が増えた」は小・中学生がいる人(79.0%)と乳幼児がいる人(46.9%)で全体(17.3%)に比べて高くなっている。
- ・「結婚、出産、病気など特別な出費があった」は乳幼児がいる人(29.6%)で全体(11.0%)に比べて高く、「家族が増えて、毎日の生活費が増えた」は乳幼児がいる人(50.6%)で全体(8.8%)に比べて高くなっている。

図5-2-4 暮らし向きが苦しくなった理由(家族構成別)





## 6. 地域・日常生活

### 6-1 住んでいる地域・日常生活について

問13 あなたの住んでいる地域、日常生活について、お尋ねします。

—住んでいる地域について—

- ・“目黒区は安全で安心して暮らせる街であると思いますか”は「はい」が8割近くで、男性の20代と30代、女性30代で高くなっている。
- ・“目黒区は、安心して子どもを産み育てることができる地域だと思いますか”は「はい」が3割半ばで、男性の20代、40代、50代と女性20代で高くなっている。

—日常生活について—

- ・“日常生活で、環境負荷への軽減に配慮した行動をとっていますか”は「はい」が7割半ばで、男性40代、女性の30代と40代で高くなっている。
- ・“自らの「健康づくり」に向けて行動・活動していますか”は「はい」が6割で、男性の40代と70代、女性50代で高くなっている。

#### (1) 全体

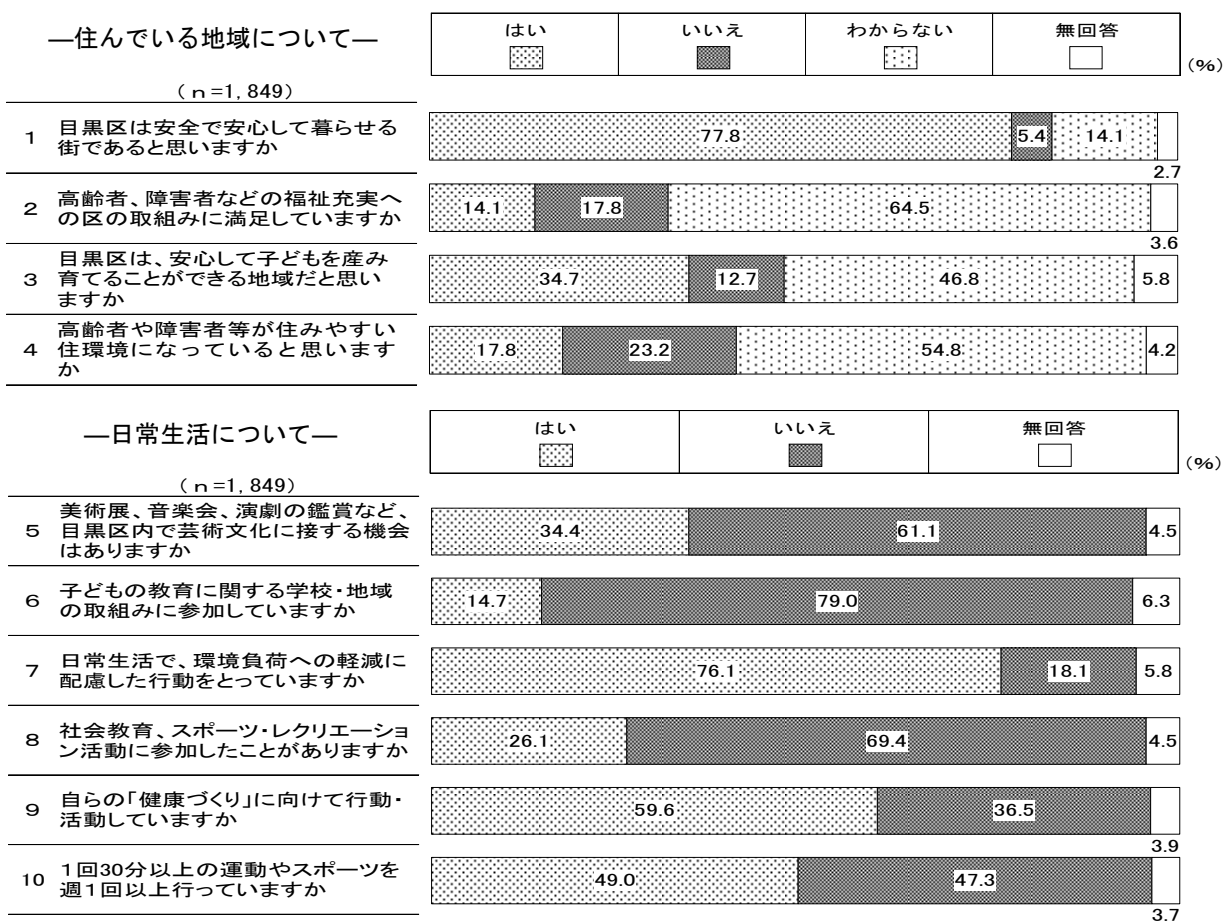
—住んでいる地域について—

- ・“目黒区は安全で安心して暮らせる街であると思いますか”で「はい」が77.8%となっている。
- ・“目黒区は、安心して子どもを産み育てることができる地域だと思いますか”で「はい」が34.7%となっている。

—日常生活について—

- ・“日常生活で、環境負荷への軽減に配慮した行動をとっていますか”で「はい」が76.1%となっている。
- ・“自らの「健康づくり」に向けて行動・活動していますか”で「はい」が59.6%となっている。

図6-1-1 住んでいる地域・日常生活について（全体）



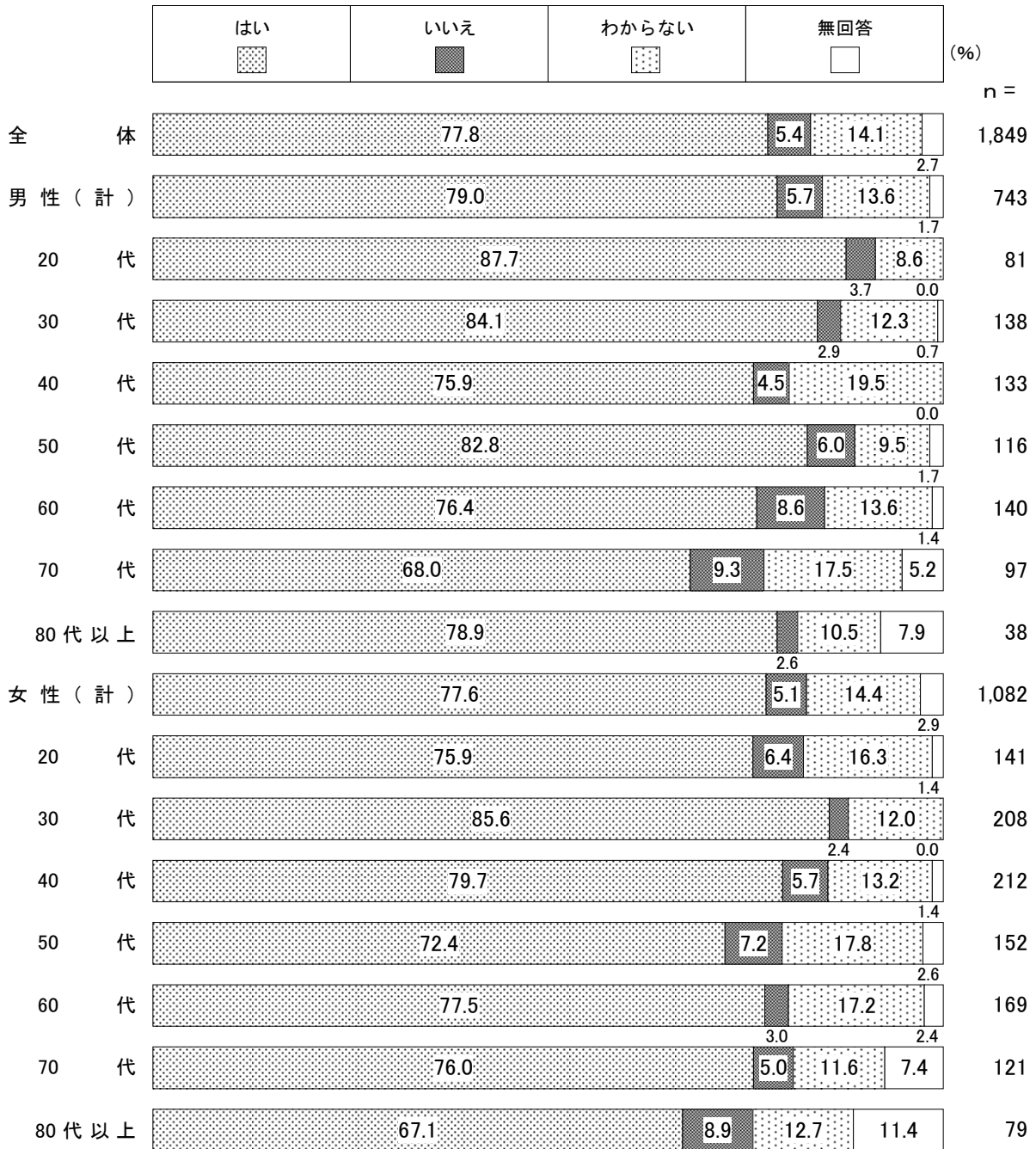
(2) 性・年代別

1. 目黒区は安全で安心して暮らせる街であると思いますか

- ・「はい」は男性の20代(87.7%)と30代(84.1%)、女性30代で(85.6%)で全体(77.8%)に比べて高くなっている。

図6-1-2 住んでいる地域・日常生活について

1. 目黒区は安全で安心して暮らせる街であると思いますか(性・年代別)

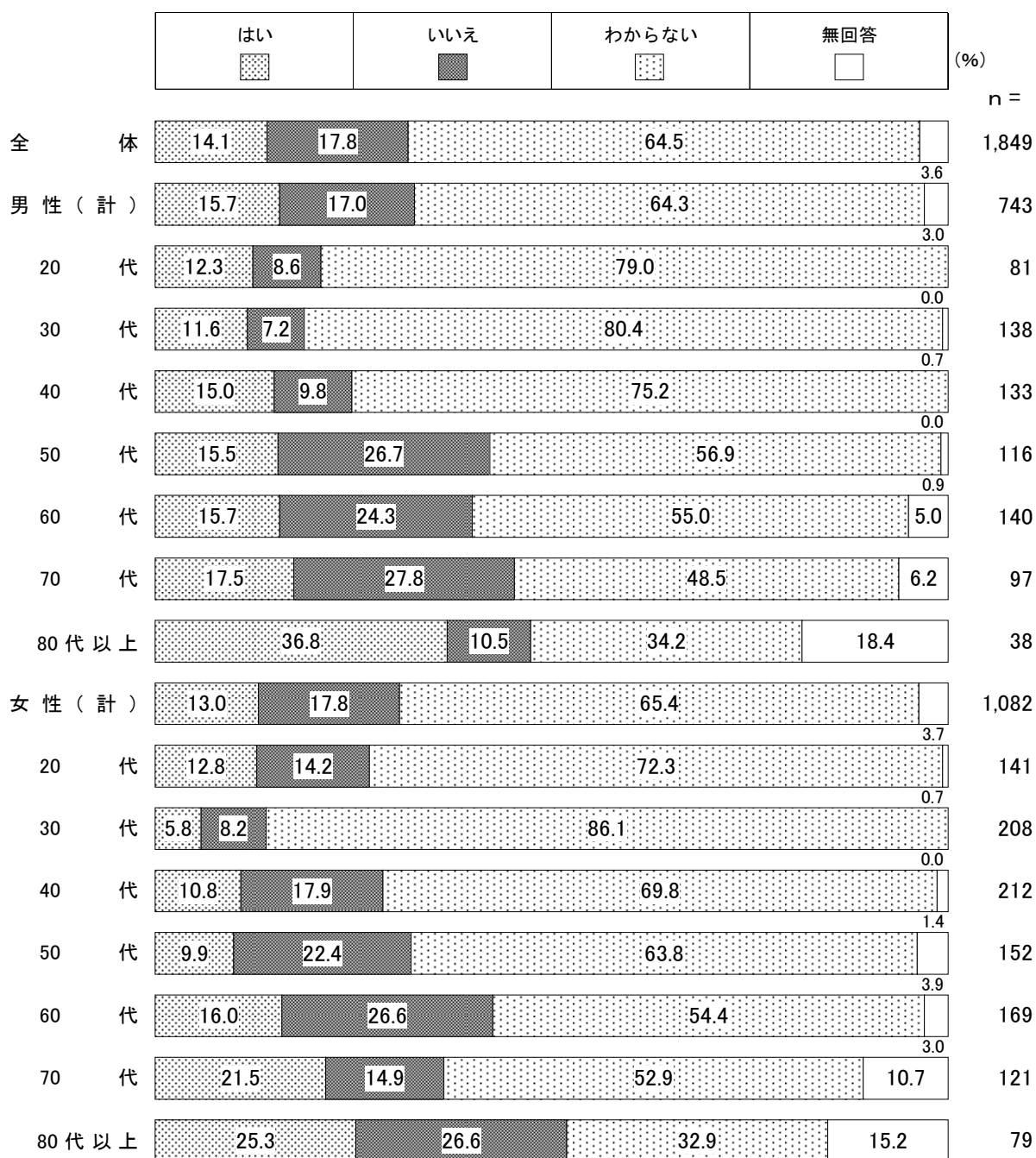


## 2. 高齢者、障害者などの福祉充実への区の実施に満足していますか

- ・「はい」は男性 80 代以上 (36.8%)、女性の 70 代 (21.5%) と 80 代以上 (25.3%) で全体 (14.1%) に比べて高くなっている。
- ・「いいえ」は男性の 50 代 (26.7%) と 70 代 (27.8%)、女性の 60 代 (26.6%) と 80 代以上 (26.6%) で全体 (17.8%) に比べて高くなっている。

図 6-1-3 住んでいる地域・日常生活について

### 2. 高齢者、障害者などの福祉充実への区の実施に満足していますか (性・年代別)

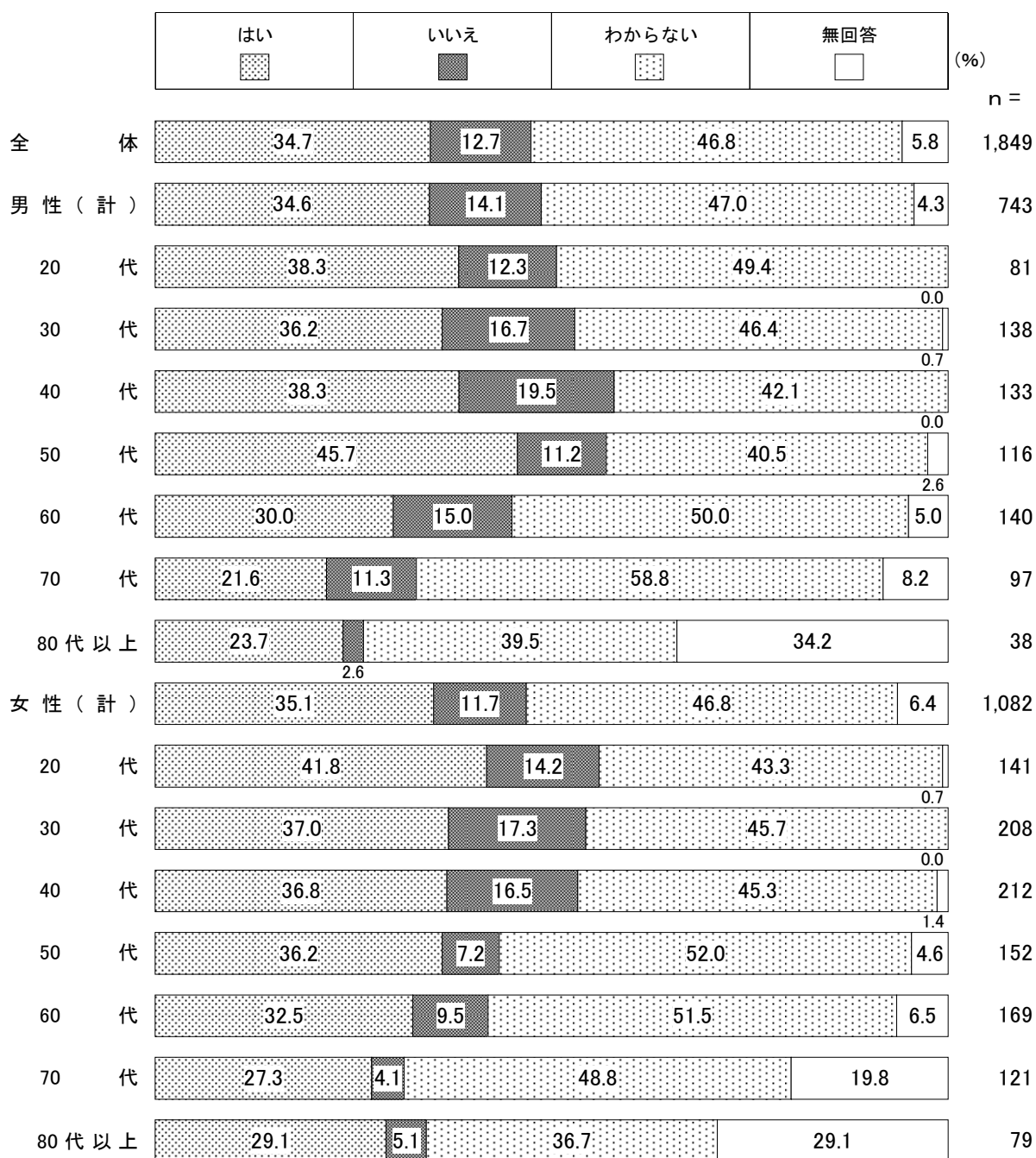


3. 目黒区は、安心して子どもを産み育てることができる地域だと思いますか

- ・「はい」は男性の20代(38.3%)、40代(38.3%)、50代(45.7%)と女性20代(41.8%)で全体(34.7%)に比べて高くなっている。
- ・「いいえ」は男性の30代(16.7%)と40代(19.5%)、女性の30代(17.3%)で全体(12.7%)に比べて高くなっている。

図6-1-4 住んでいる地域・日常生活について

3. 目黒区は、安心して子どもを産み育てることができる地域だと思いますか(性・年代別)

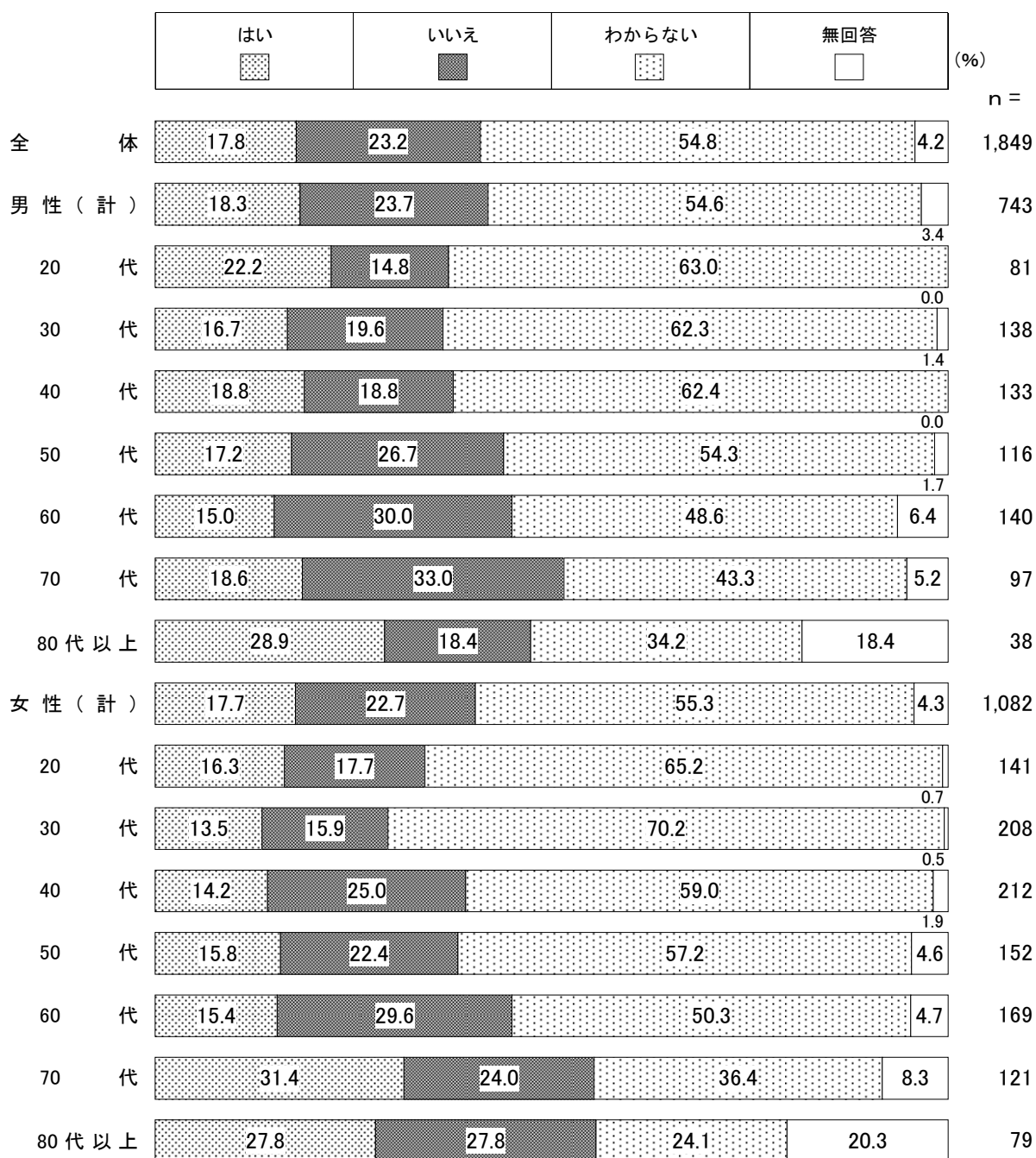


#### 4. 高齢者や障害者等が住みやすい住環境になっていると思いますか

- ・「はい」は男性 80 代以上 (28.9%)、女性の 70 代 (31.4%) と 80 代以上 (27.8%) で全体 (17.8%) に比べて高くなっている。
- ・「いいえ」は男性の 60 代 (30.0%) と 70 代 (33.0%)、女性 60 代 (29.6%) で全体 (23.2%) に比べて高くなっている。

図 6-1-5 住んでいる地域・日常生活について

#### 4. 高齢者や障害者等が住みやすい住環境になっていると思いますか (性・年代別)

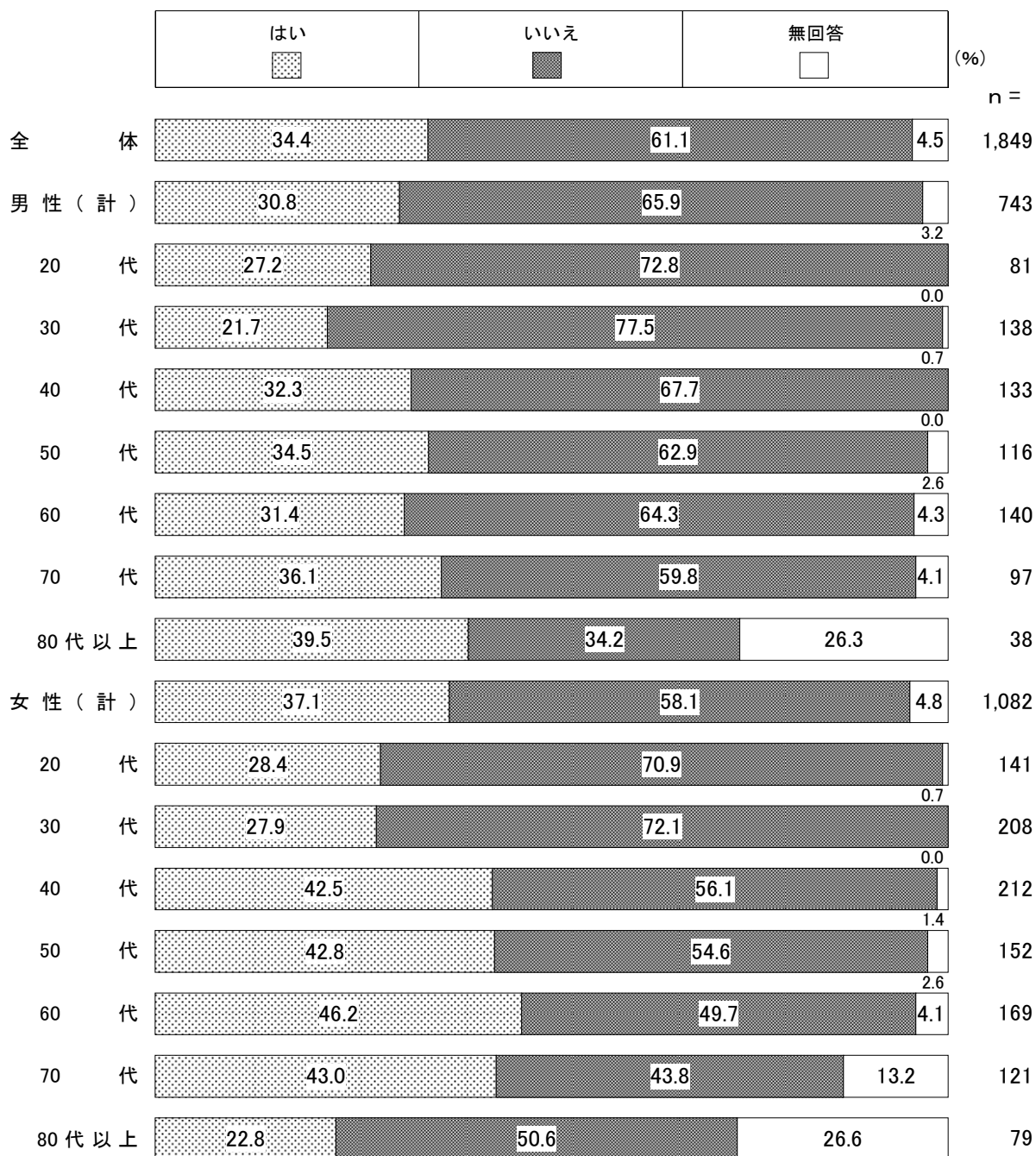


5. 美術展、音楽会、演劇の鑑賞など、目黒区内で芸術文化に接する機会がありますか

- ・「はい」は女性の50代から70代（50代42.8%、60代46.2%、70代43.0%）で全体（34.4%）に比べて高くなっている。
- ・「いいえ」は男性の20代（72.8%）と30代（77.5%）、女性30代（72.1%）で全体（61.1%）に比べて高くなっている。

図6-1-6 住んでいる地域・日常生活について

5. 美術展、音楽会、演劇の鑑賞など、目黒区内で芸術文化に接する機会がありますか（性・年代別）

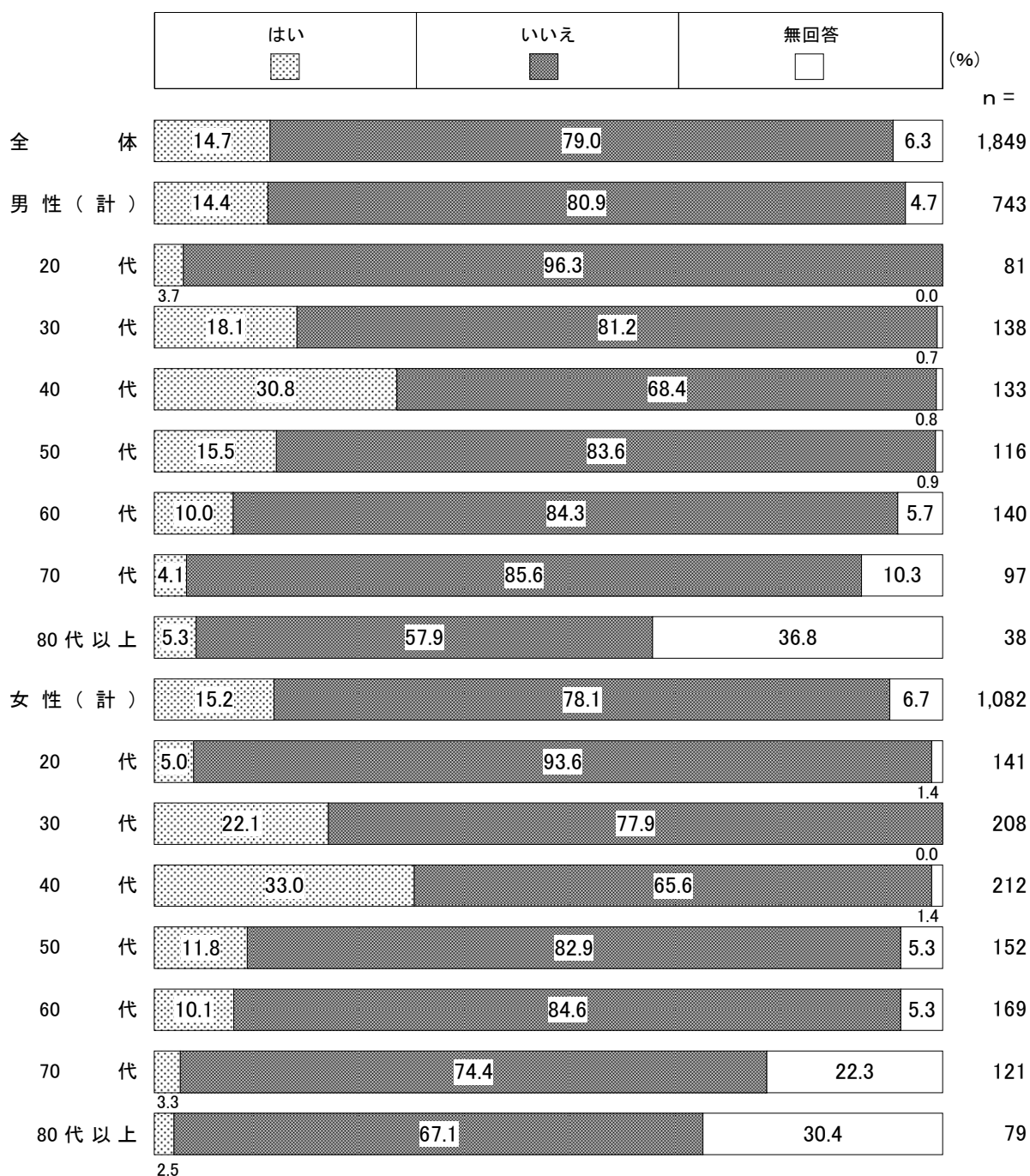


6. 子どもの教育に関する学校・地域の取組みに参加していますか

- ・「はい」は男性40代（30.8%）、女性の30代（22.1%）と40代（33.0%）で全体（14.7%）に比べて高くなっている。
- ・「いいえ」は男女ともに20代（男性96.3%、女性93.6%）で全体（79.0%）に比べて高くなっている。

図6-1-7 住んでいる地域・日常生活について

6. 子どもの教育に関する学校・地域の取組みに参加していますか（性・年代別）

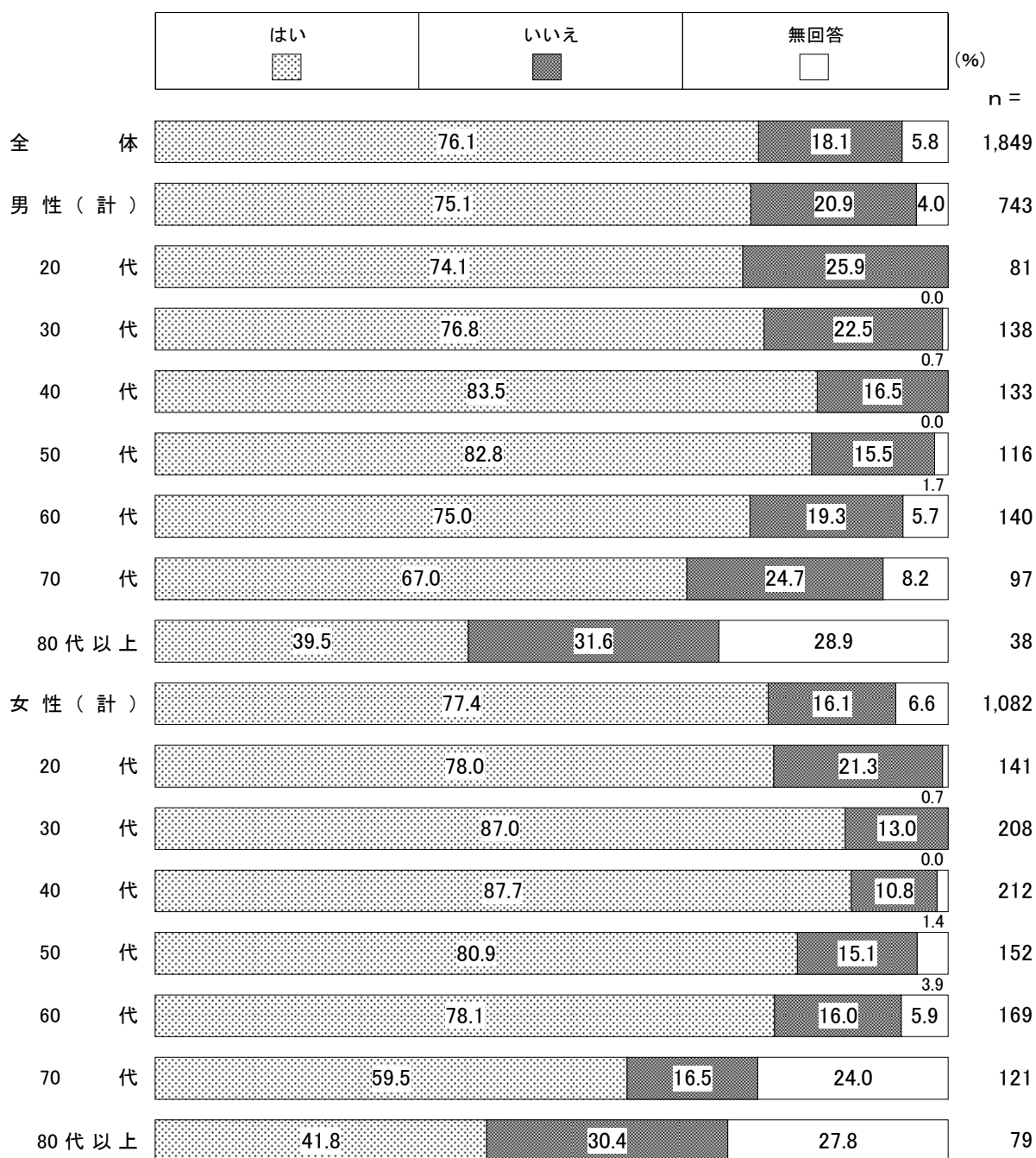


7. 日常生活で、環境負荷への軽減に配慮した行動をとっていますか

- ・「はい」は男性40代（83.5%）、女性の30代（87.0%）と40代（87.7%）で全体（76.1%）に比べて高くなっている。
- ・「いいえ」は男女ともに80代以上（男性31.6%、女性30.4%）で全体（18.1%）に比べて高くなっている。

図6-1-8 住んでいる地域・日常生活について

7. 日常生活で、環境負荷への軽減に配慮した行動をとっていますか（性・年代別）



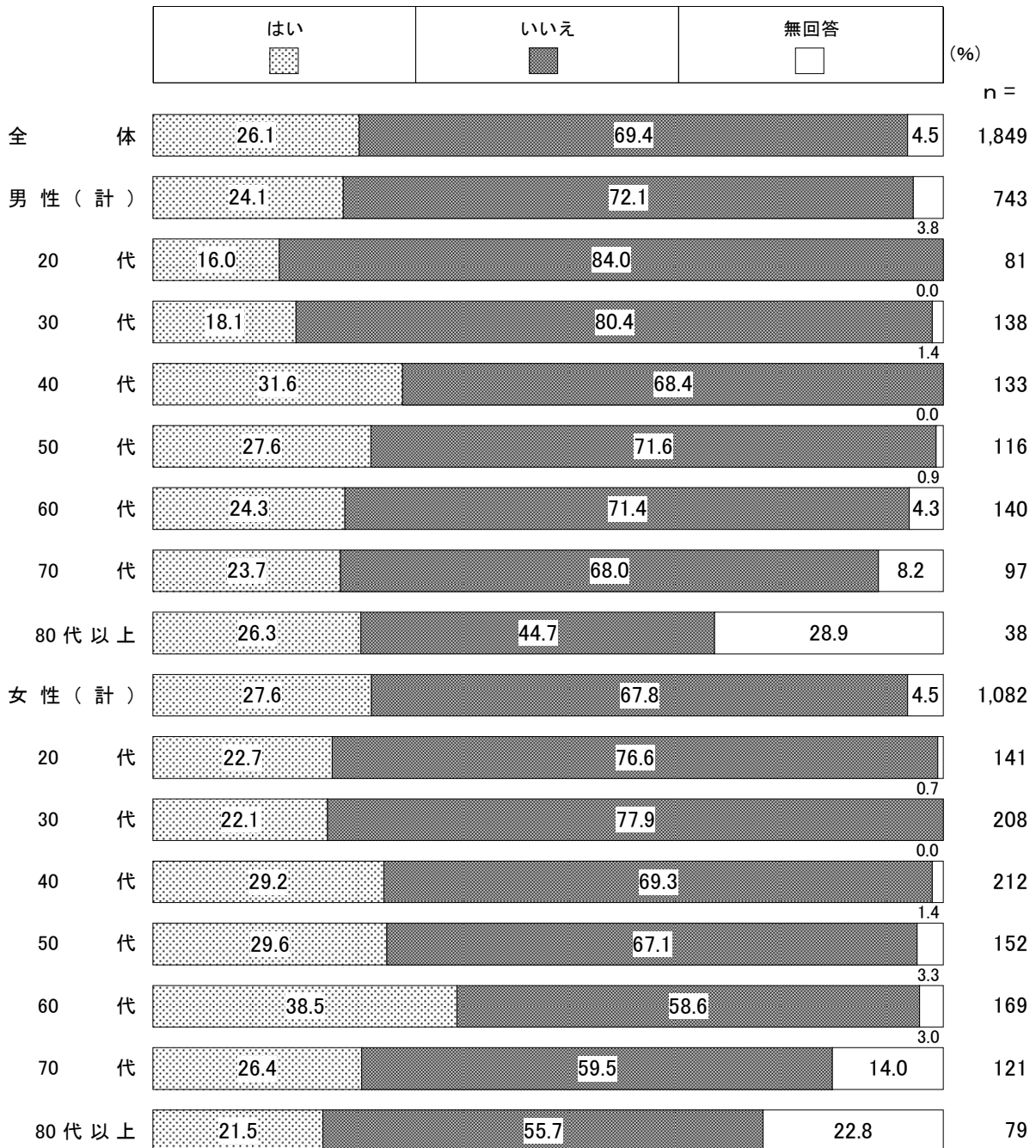


8. 社会教育、スポーツ・レクリエーション活動に参加したことがありますか

- ・「はい」は男性40代（31.6%）、女性の50代（29.6%）と60代（38.5%）で全体（26.1%）に比べて高くなっている。
- ・「いいえ」は男性の20代（84.0%）と30代（80.4%）、女性30代（77.9%）で全体（69.4%）に比べて高くなっている。

図6-1-9 住んでいる地域・日常生活について

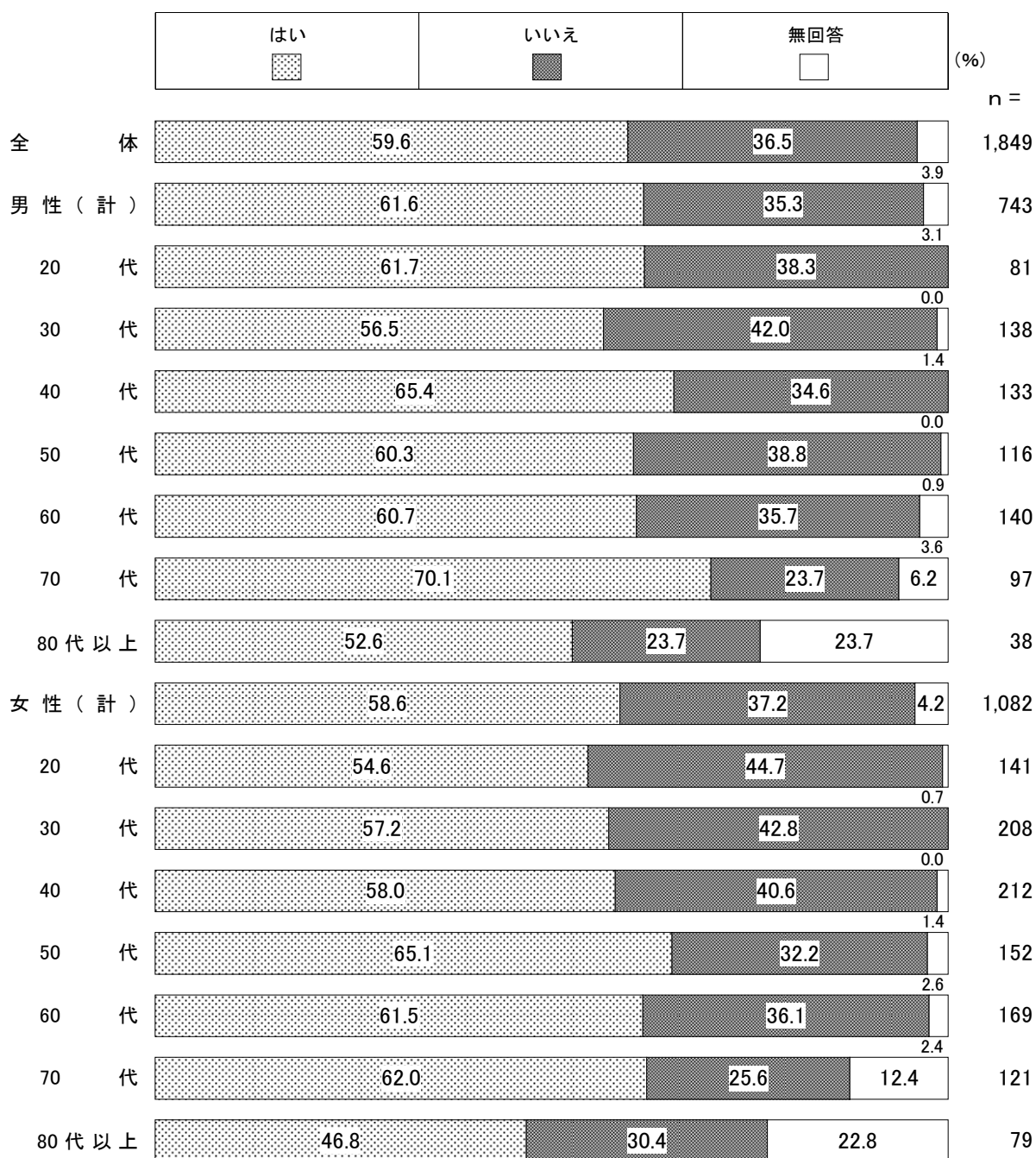
8. 社会教育、スポーツ・レクリエーション活動に参加したことがありますか（性・年代別）



9. 自らの「健康づくり」に向けて行動・活動していますか

- ・「はい」は男性の40代（65.4%）と70代（70.1%）、女性50代（65.1%）で全体（59.6%）に比べて高くなっている。
- ・「いいえ」は男性30代（42.0%）、女性の20代（44.7%）と30代（42.8%）で全体（36.5%）に比べて高くなっている。

図6-1-10 住んでいる地域・日常生活について  
9. 自らの「健康づくり」に向けて行動・活動していますか（性・年代別）

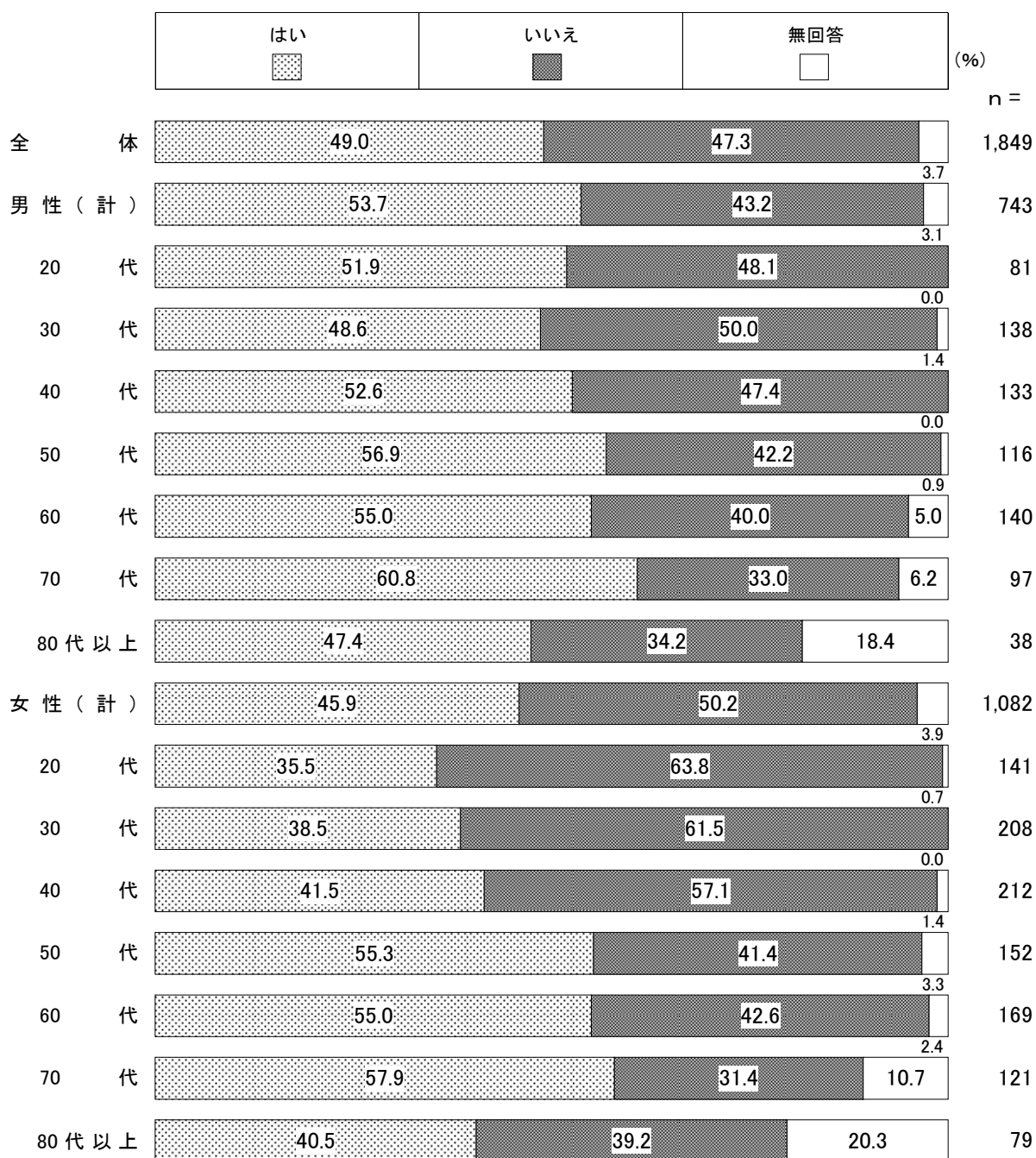


10. 1回30分以上の運動やスポーツを週1回以上行っていますか

- ・「はい」は男女ともに70代（男性60.8%、女性57.9%）で全体（49.0%）に比べて高くなっている。
- ・「いいえ」は女性の20代から40代（20代63.8%、30代61.5%、40代57.1%）で全体（47.3%）に比べて高くなっている。

図6-1-11 住んでいる地域・日常生活について

10. 1回30分以上の運動やスポーツを週1回以上行っていますか（性・年代別）



## 7. 子どもの人権

### 7-1 「めぐろ はあと ねっと」の認知度

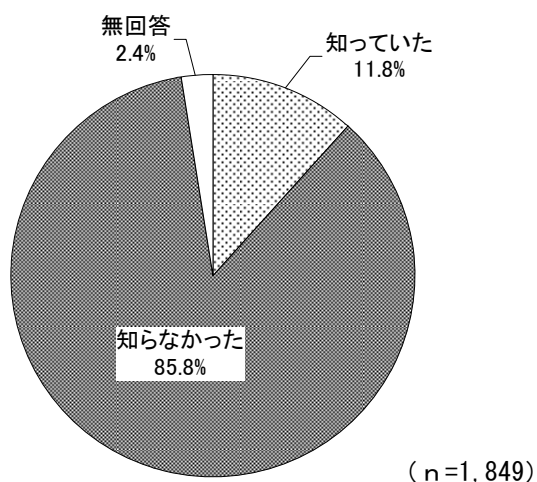
問14 あなたは、「めぐろ はあと ねっと」について、知っていましたか。

- ・「知らなかった」が8割半ばとなっている。
- ・「知っていた」は入学前の乳幼児がいる人と小・中学生がいる人で高くなっている。

#### (1) 全体

- ・「知らなかった」が85.8%となっている。

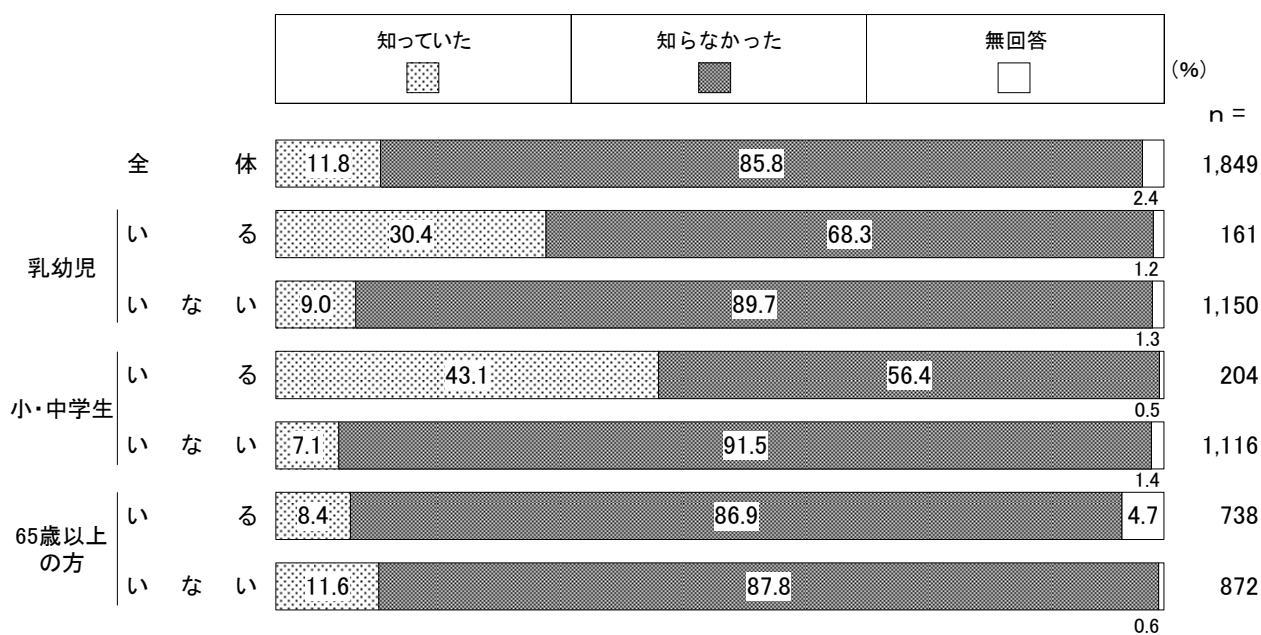
図7-1-1 「めぐろ はあと ねっと」の認知度（全体）



#### (2) 家族構成別

- ・「知っていた」は入学前の乳幼児がいる人（30.4%）がいない人（9.0%）に比べて21ポイント高くなっている。
- ・「知っていた」は小・中学生がいる人（43.1%）がいない人（7.1%）に比べて36ポイント高くなっている。

図7-1-2 「めぐろ はあと ねっと」の認知度（家族構成別）



7-2 「めぐろ はあと ねっと」を利用する状況

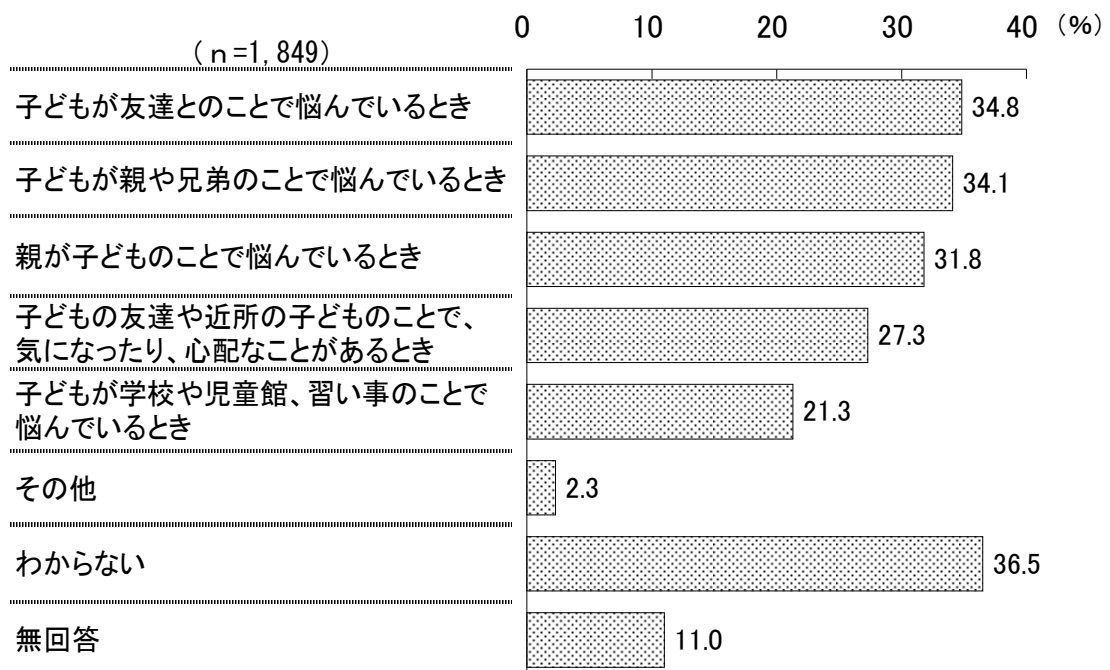
問15 「めぐろ はあと ねっと」は、どのような時に利用するものだと思いますか。

- ・「子どもが友達とのことで悩んでいるとき」が最も多く、次いで「子どもが親や兄弟のことで悩んでいるとき」、「親が子どものことで悩んでいるとき」の順となっている。
- ・「子どもが友達とのことで悩んでいるとき」と「子どもが親や兄弟のことで悩んでいるとき」は小・中学生がいる人で高くなっている。
- ・「親が子どものことで悩んでいるとき」は乳幼児がいる人と小・中学生がいる人で高くなっている。

(1) 全体

- ・「子どもが友達とのことで悩んでいるとき」が34.8%で最も多く、次いで「子どもが親や兄弟のことで悩んでいるとき」34.1%、「親が子どものことで悩んでいるとき」31.8%の順となっている。また、「わからない」が36.5%となっている。

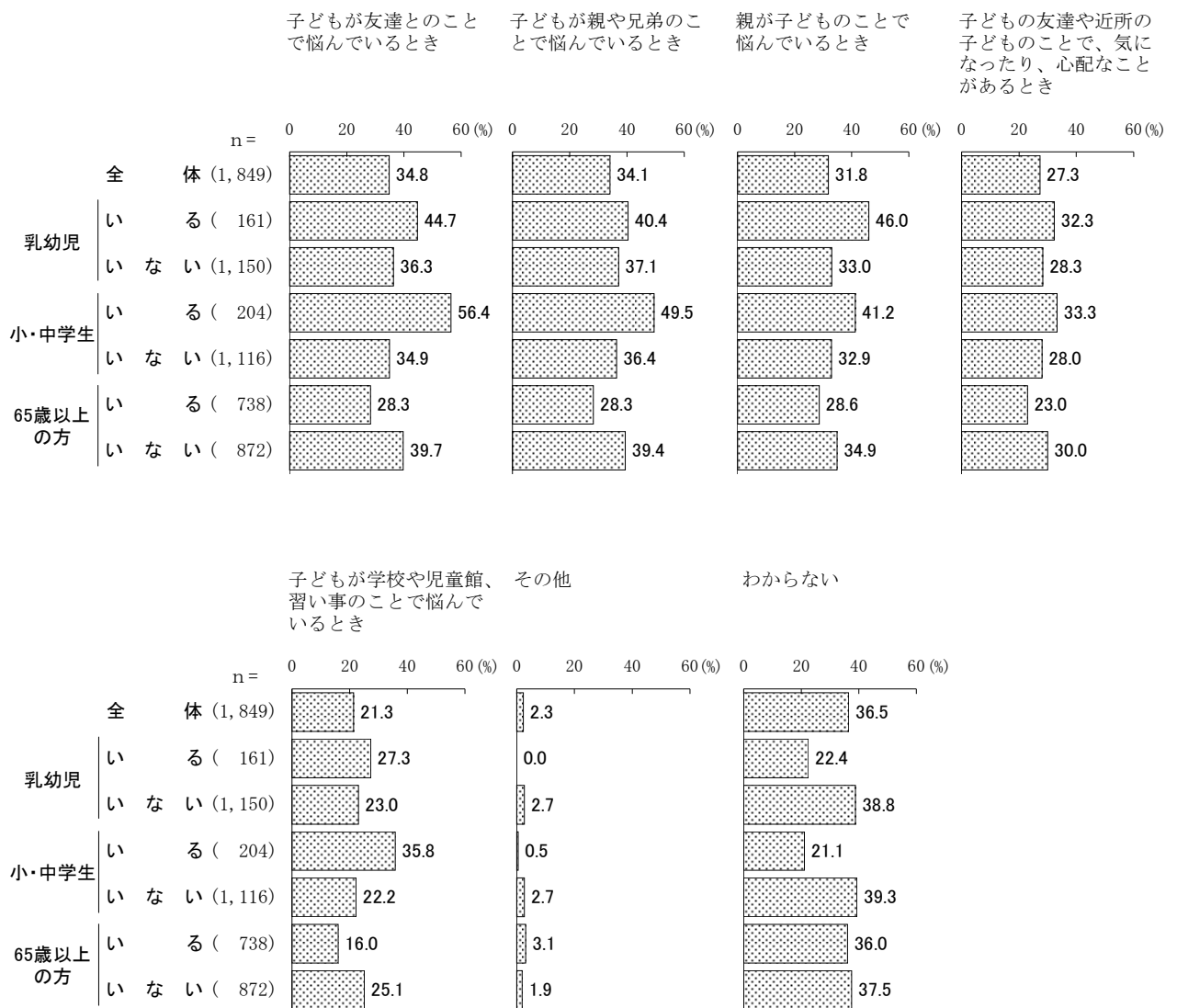
図7-2-1 「めぐろ はあと ねっと」を利用する状況（全体）



(2) 家族構成別

- ・小・中学生がいる人では「子どもが友達とのことで悩んでいるとき」(56.4%)で5割半ば、「子どもが親や兄弟のことで悩んでいるとき」(49.5%)で高くなっている。
- ・「親が子どものことで悩んでいるとき」は乳幼児がいる人(46.0%)と小・中学生がいる人(41.2%)で全体(31.8%)に比べて高くなっている。

図7-2-2 「めぐろ はあと ネット」を利用する状況(家族構成別)



### 7-3 「めぐろ はあと ネット」の利用意向

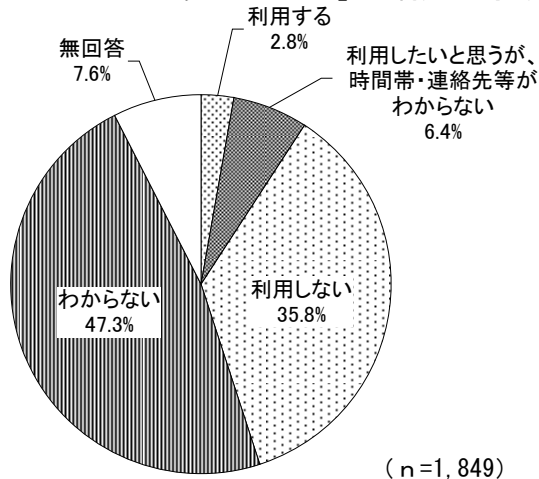
問16 あなたは、「めぐろ はあと ネット」を、利用しますか。

- ・「わからない」が5割近く、「利用しない」が3割半ばとなっている。
- ・「利用する」は入学前の乳幼児がいる人と小・中学生がいる人で高くなっている。

#### (1) 全体

- ・「わからない」が47.3%、「利用しない」が35.8%となっている。

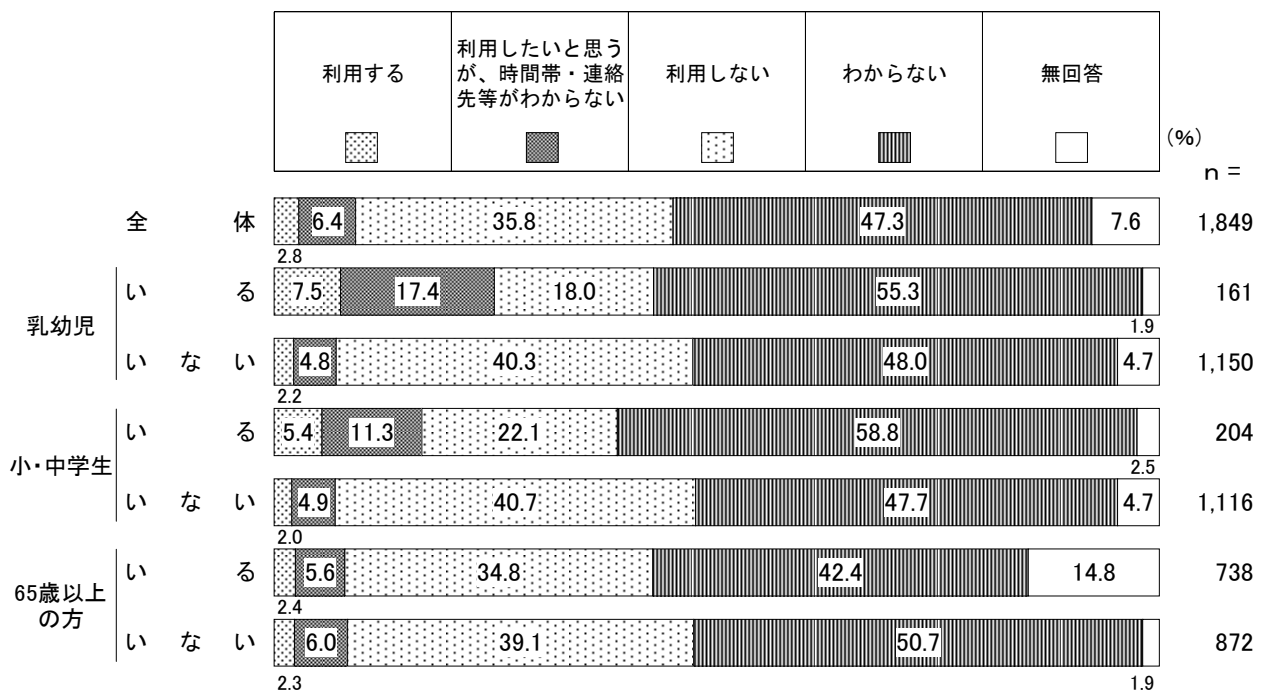
図7-3-1 「めぐろ はあと ネット」の利用意向（全体）



#### (2) 家族構成別

- ・入学前の乳幼児がいる人と小・中学生がいる人では「利用する」と「利用したいと思うが、時間帯・連絡先等がわからない」で高くなっている。
- ・「利用しない」は入学前の乳幼児がいない人（40.3%）、小・中学生がいない人（40.7%）、65歳以上の方がいない人（39.1%）で4割前後となっている。

図7-3-2 「めぐろ はあと ネット」の利用意向（家族構成別）



## 8. 地球温暖化対策

### 8-1 地球温暖化問題への意識

問17 あなたは、生活の中で地球温暖化の問題を意識していますか。

- ・「大いに意識している」と「意識している」を合わせた『意識している』はほぼ8割となっている。
- ・『意識している』は女性60代で高くなっている。
- ・「あまり意識していない」と「まったく意識していない」を合わせた『意識していない』は男性が女性に比べて6ポイント高く、男女ともに20代で高くなっている。

#### (1) 全体

- ・「大いに意識している」21.5%と「意識している」57.7%を合わせた『意識している』は79.2%となっている。
- ・地球温暖化問題への意識の推移をみると、前回（平成21年）とほぼ同じ傾向となっている。

図8-1-1 地球温暖化問題への意識（全体）

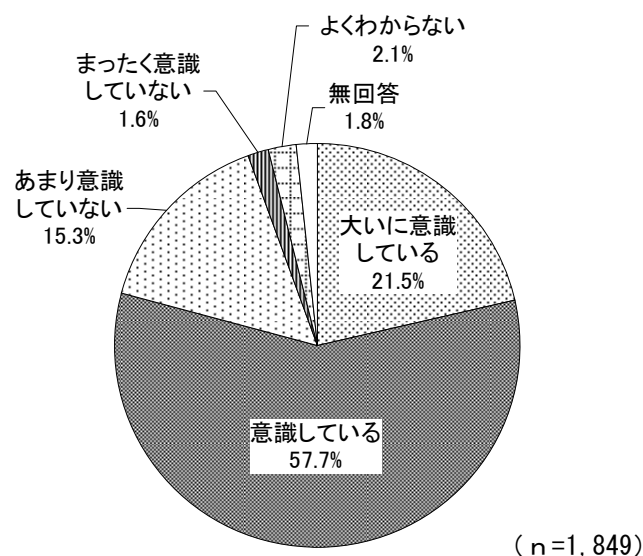
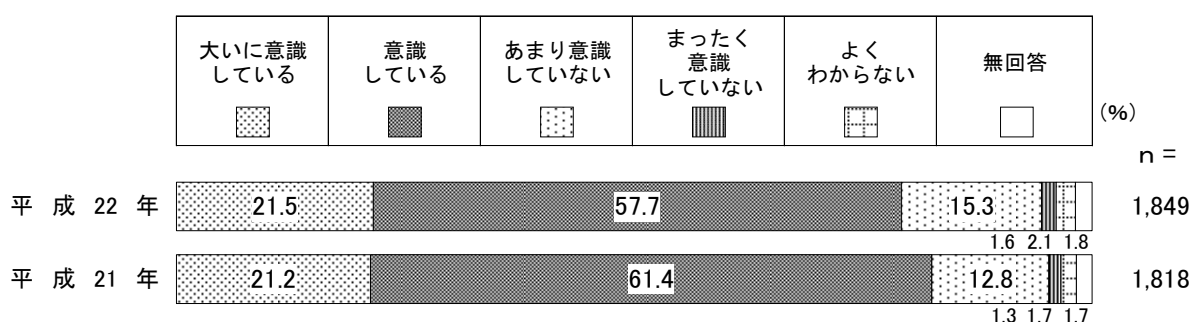


図8-1-2 地球温暖化問題への意識の推移（全体）

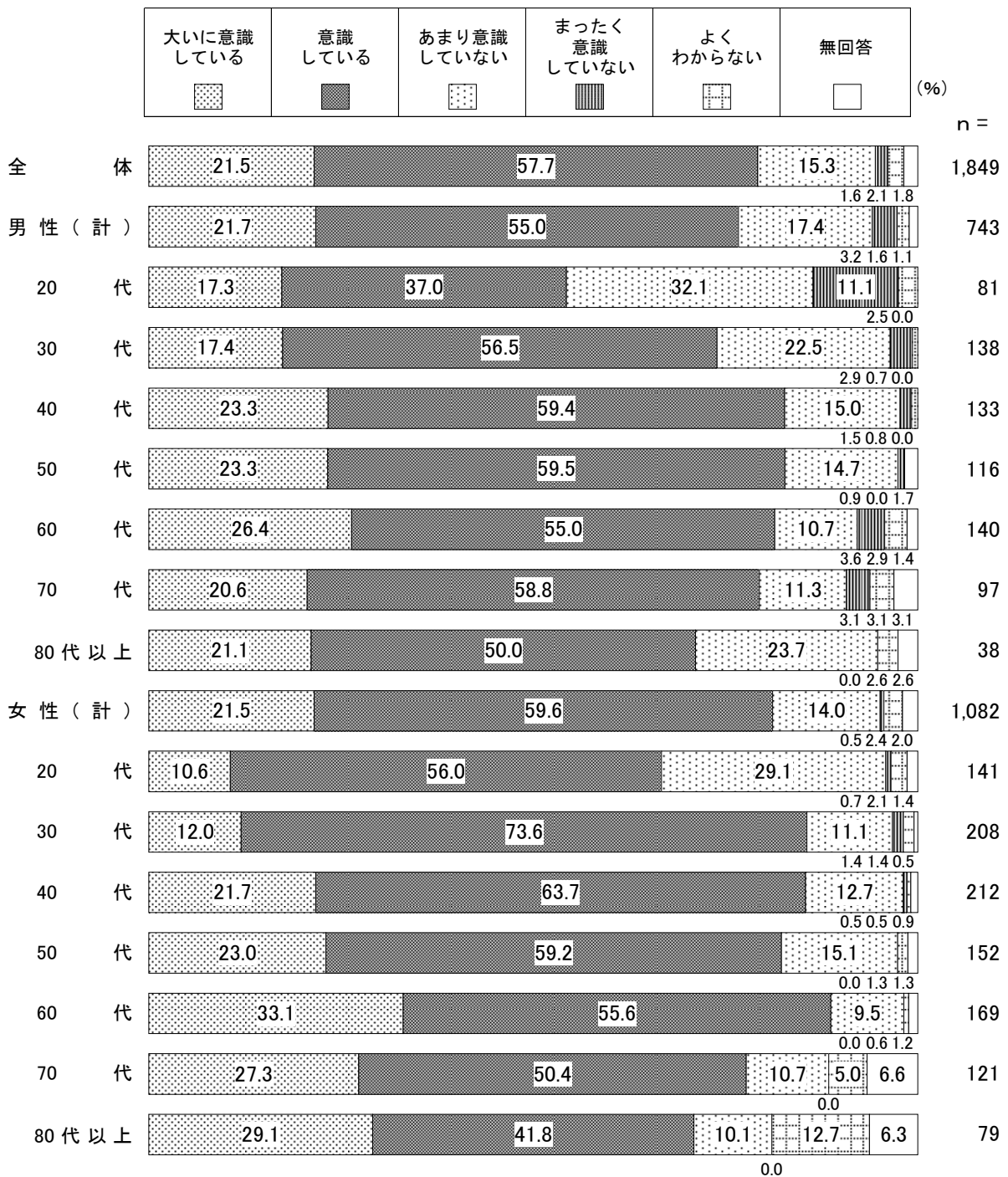




(2) 性・年代別

- ・『意識していない』は男性（20.6%）が女性（14.5%）に比べて6ポイント高くなっている。
- ・『意識している』は女性60代（88.7%）で全体（79.2%）に比べて高くなっている。
- ・『意識していない』は男女ともに20代（男性43.2%、女性29.8%）で全体（16.9%）に比べて高くなっている。

図8-1-3 地球温暖化問題への意識（性・年代別）



## 8-2 地球温暖化防止のために優先すること

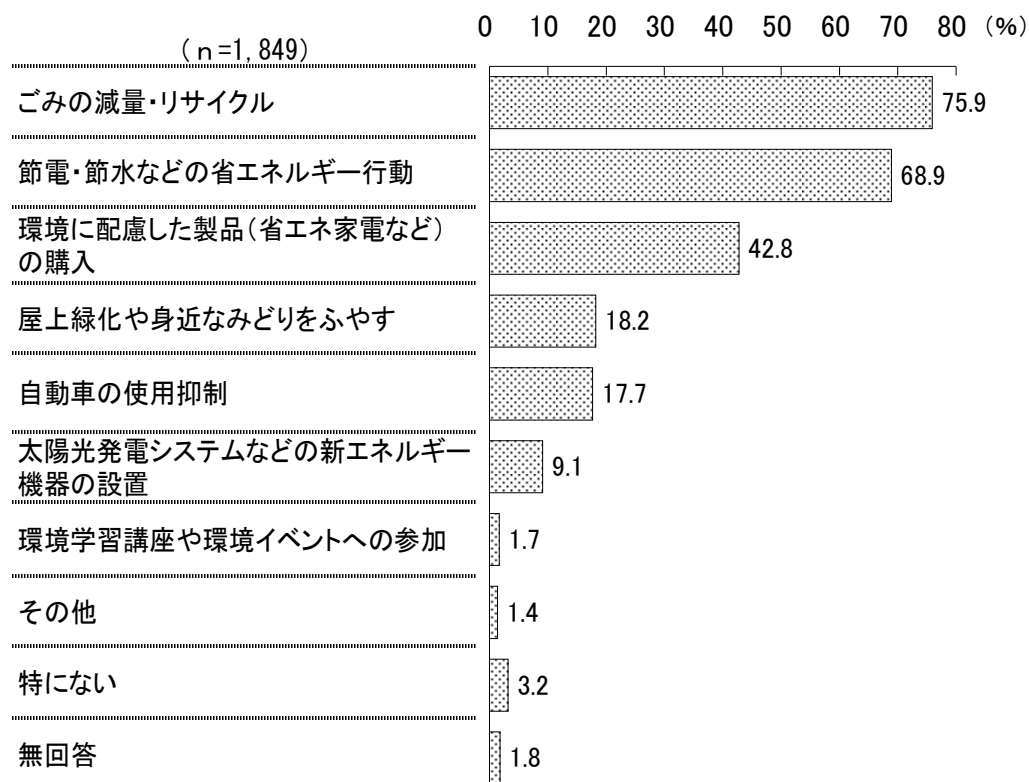
問18 あなたは、地球温暖化を防止するために、何を優先して行いたいと思いますか。  
(○は3つまで)

- ・「ごみの減量・リサイクル」が7割半ば、「節電・節水などの省エネルギー行動」が7割近くで、この2項目が多くなっている。
- ・「ごみの減量・リサイクル」は女性が男性に比べて11ポイント高く、女性の30代から60代で高くなっている。
- ・「節電・節水などの省エネルギー行動」は女性が男性に比べて7ポイント高く、女性50代で高くなっている。
- ・「環境に配慮した製品（省エネ家電など）の購入」は男性80代以上、女性50代で高くなっている。

### (1) 全体

- ・「ごみの減量・リサイクル」が75.9%、「節電・節水などの省エネルギー行動」が68.9%で、この2項目が多くなっている。

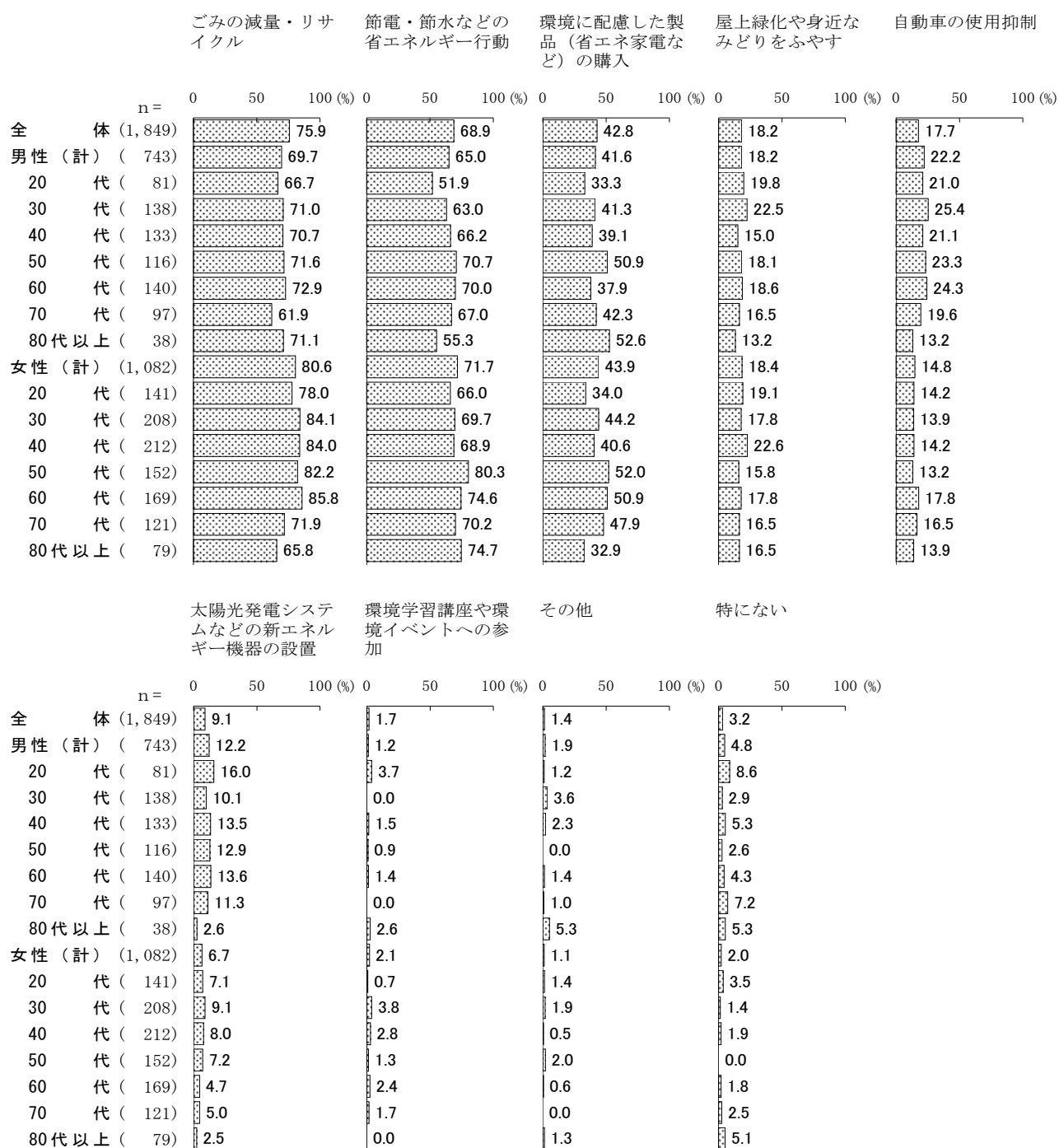
図8-2-1 地球温暖化防止のために優先すること（全体）



## (2) 性・年代別

- ・女性の方が「ごみの減量・リサイクル」で11ポイント、「節電・節水などの省エネルギー行動」で7ポイント高くなっている。一方、男性の方が「自動車の使用抑制」で7ポイント高くなっている。
- ・「ごみの減量・リサイクル」は女性の30代から60代(30代84.1%、40代84.0%、50代82.2%、60代85.8%)で全体(75.9%)に比べて高くなっている。
- ・「節電・節水などの省エネルギー行動」は女性50代(80.3%)で全体(68.9%)に比べて高くなっている。
- ・「環境に配慮した製品(省エネ家電など)の購入」は男性80代以上(52.6%)、女性50代(52.0%)で全体(42.8%)に比べて高くなっている。

図8-2-2 地球温暖化防止のために優先すること(性・年代別)



### 8-3 地球温暖化防止のために区に取り組んでほしいこと

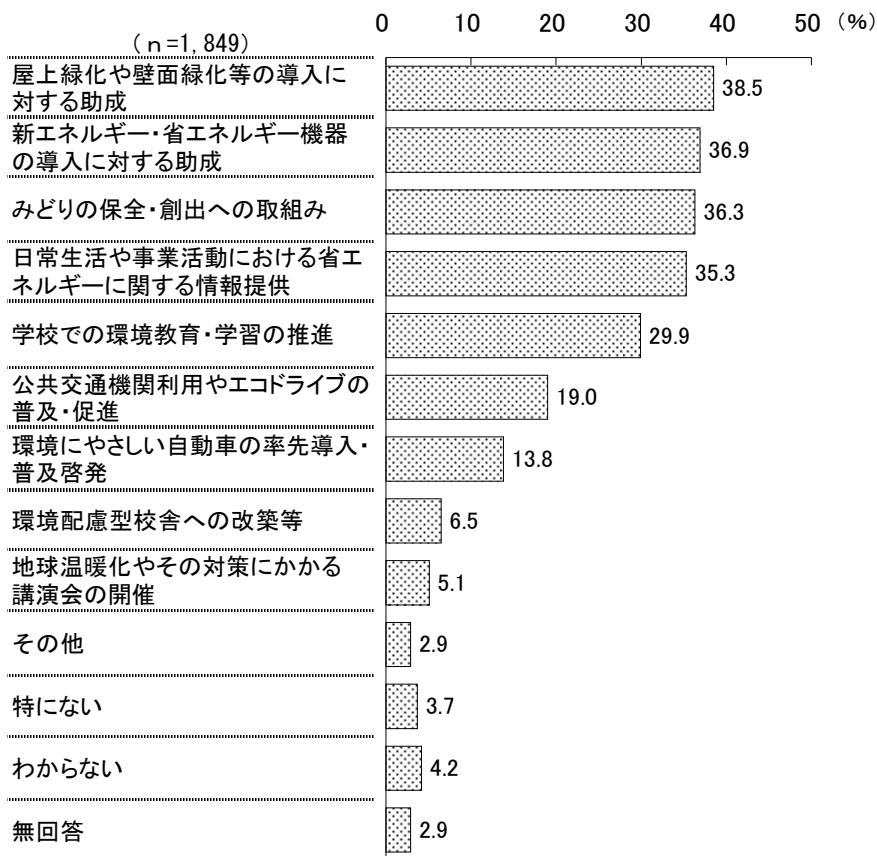
問19 地球温暖化を防止するために、区に特に力を入れて取り組んでほしいと思うことは何ですか。(〇は3つまで)

- ・「屋上緑化や壁面緑化等の導入に対する助成」が最も多く、次いで「新エネルギー・省エネルギー機器の導入に対する助成」、「みどりの保全・創出への取組み」、「日常生活や事業活動における省エネルギーに関する情報提供」の順となっている。
- ・「屋上緑化や壁面緑化等の導入に対する助成」は女性の20代から40代で高くなっている。
- ・「新エネルギー・省エネルギー機器の導入に対する助成」は男性40代で高くなっている。
- ・「日常生活や事業活動における省エネルギーに関する情報提供」は女性が男性に比べて9ポイント高く、女性の50代と60代で高くなっている。

#### (1) 全体

- ・「屋上緑化や壁面緑化等の導入に対する助成」が38.5%で最も多く、次いで「新エネルギー・省エネルギー機器の導入に対する助成」36.9%、「みどりの保全・創出への取組み」36.3%、「日常生活や事業活動における省エネルギーに関する情報提供」35.3%の順となっている。

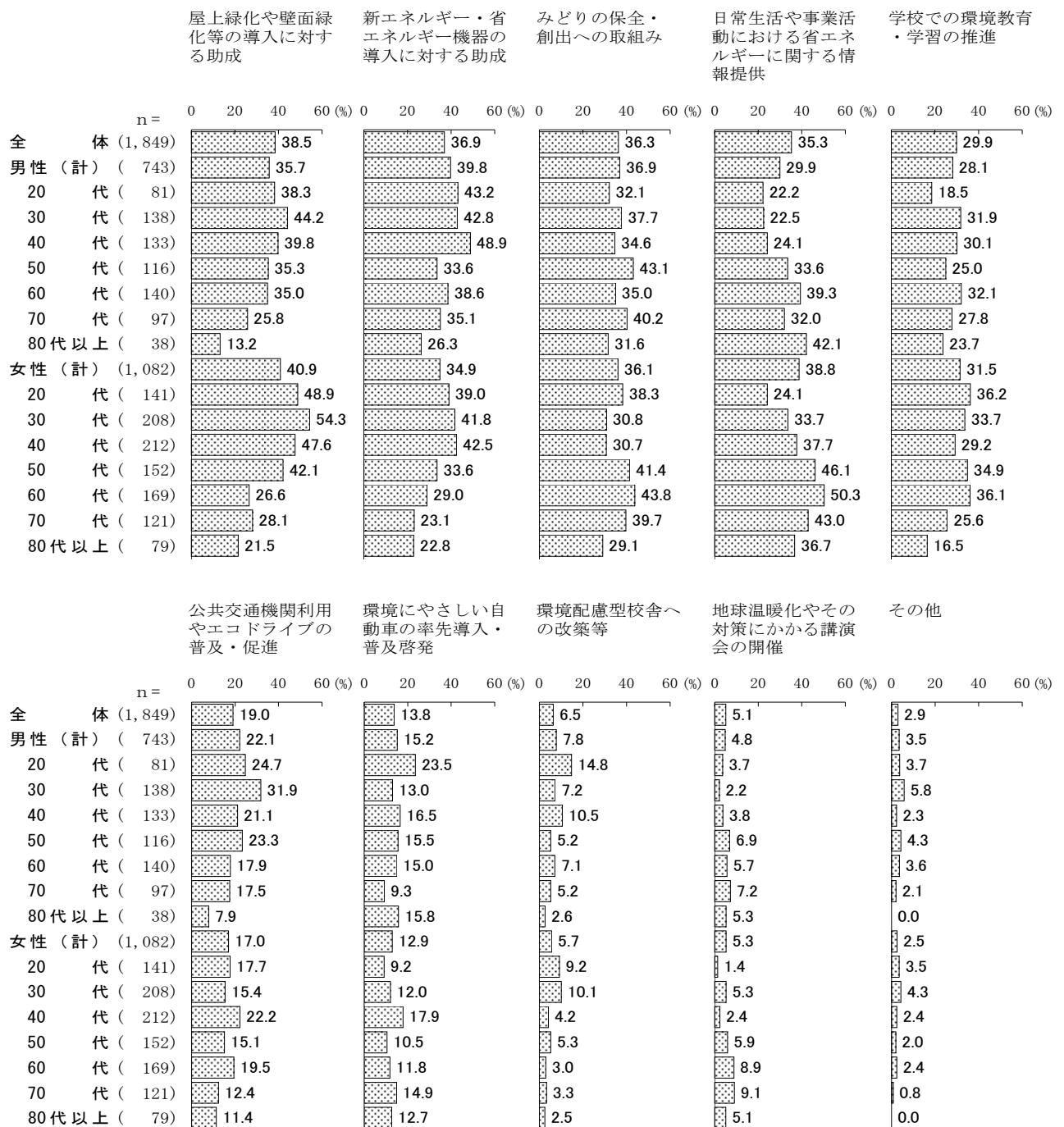
図8-3-1 地球温暖化防止のために区に取り組んでほしいこと（全体）



(2) 性・年代別

- ・「日常生活や事業活動における省エネルギーに関する情報提供」は女性（38.8%）が男性（29.9%）に比べて9ポイント高くなっている。一方、「公共交通機関利用やエコドライブの普及・促進」は男性（22.1%）が女性（17.0%）に比べて5ポイント高くなっている。
- ・「屋上緑化や壁面緑化等の導入に対する助成」は女性の20代から40代（20代48.9%、30代54.3%、40代47.6%）で全体（38.5%）に比べて高くなっている。
- ・「新エネルギー・省エネルギー機器の導入に対する助成」は男性40代（48.9%）で全体（36.9%）に比べて高くなっている。
- ・「日常生活や事業活動における省エネルギーに関する情報提供」は女性の50代（46.1%）と60代（50.3%）で全体（35.3%）に比べて高くなっている。

図8-3-2 地球温暖化防止のために区に取り組んでほしいこと（性・年代別）



## 9. 資源とごみの分別

### 9-1 分別区分変更の認知度

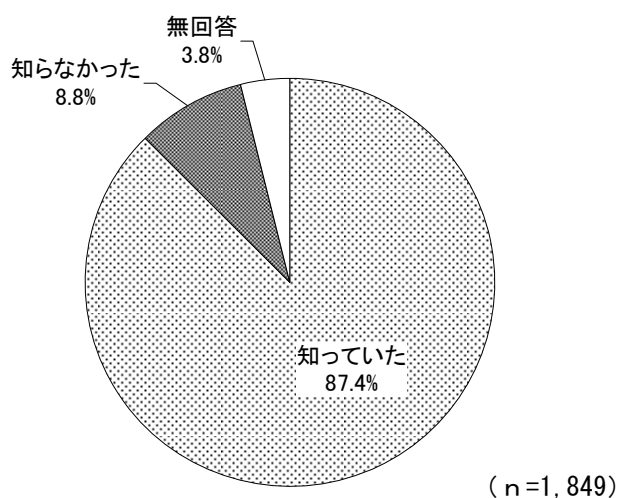
問20 あなたは、この分別区分の変更（平成20年10月）を知っていましたか。

- ・「知っていた」が9割近くとなっている。
- ・「知っていた」は女性が男性に比べて5ポイント高く、女性の30代から60代で高くなっている。また、三世代家族、居住年数が5年以上で高くなっている。
- ・「知らなかった」は男性の20代と80代以上で高くなっている。また、一人暮らし、居住年数5年未満で高くなっている。

#### (1) 全体

- ・「知っていた」が87.4%となっている。

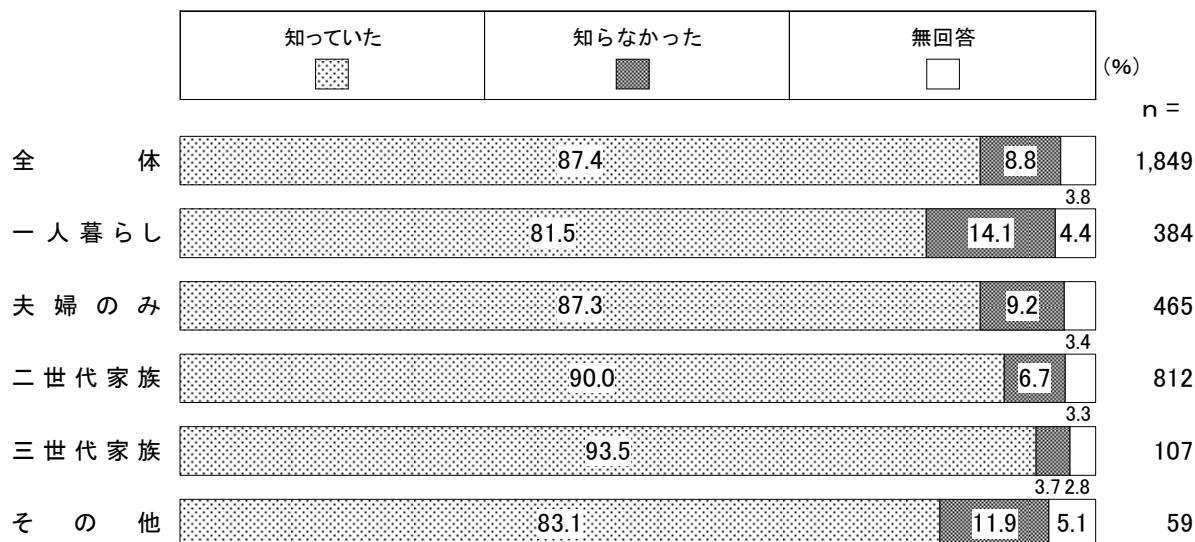
図9-1-1 分別区分変更の認知度（全体）



#### (2) 世帯構成別

- ・「知っていた」は三世代家族（93.5%）で全体（87.4%）に比べて高くなっている。
- ・「知らなかった」は一人暮らし（14.1%）で全体（8.8%）に比べて高くなっている。

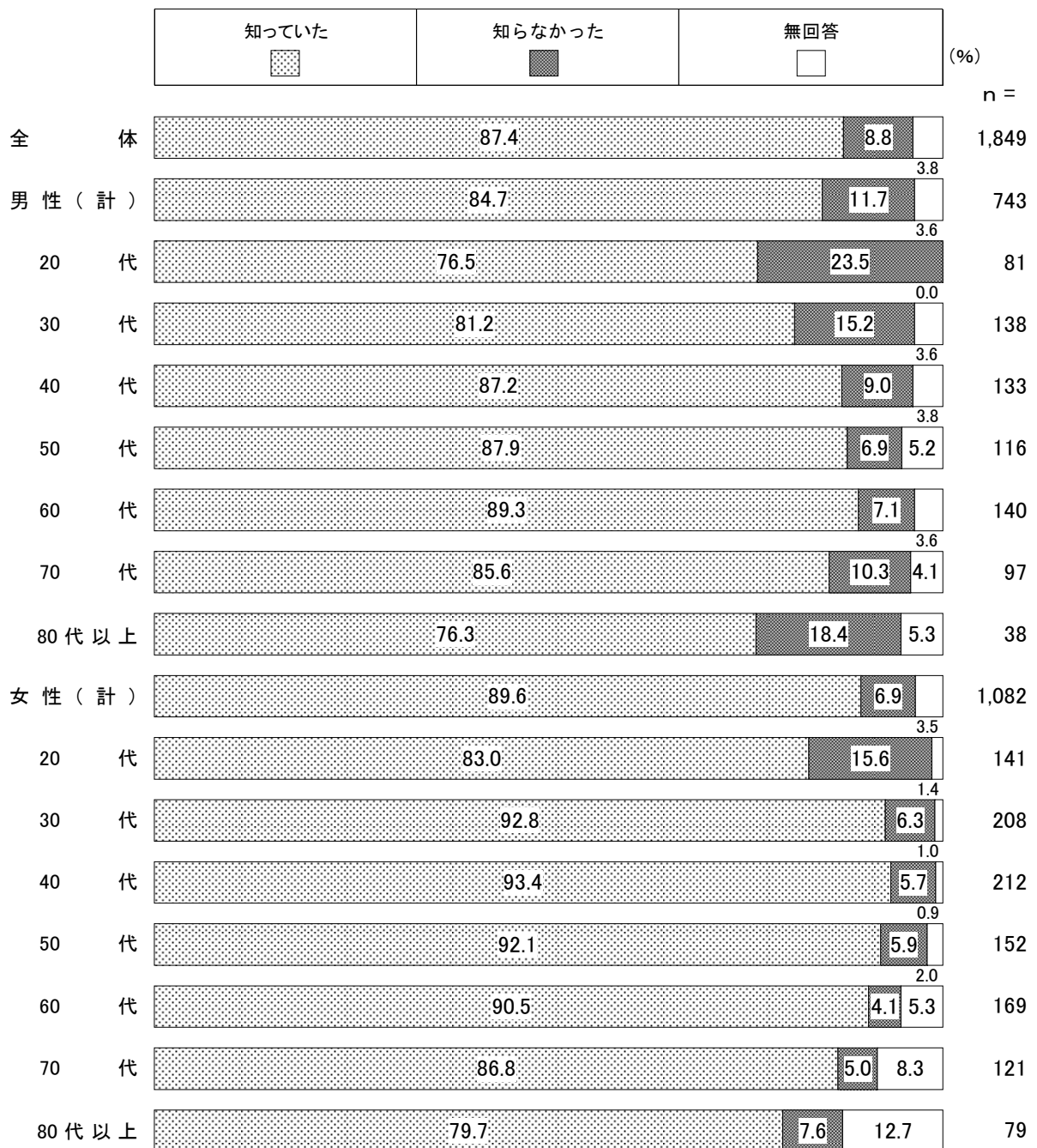
図9-1-2 分別区分変更の認知度（世帯構成別）



(3) 性・年代別

- ・「知っていた」は女性（89.6%）が男性（84.7%）に比べて5ポイント高くなっている。
- ・「知っていた」は女性の30代から60代（30代92.8%、40代93.4%、50代92.1%、60代90.5%）で全体（87.4%）に比べて高くなっている。
- ・「知らなかった」は男性の20代（23.5%）と80代以上（18.4%）で全体（8.8%）に比べて高くなっている。

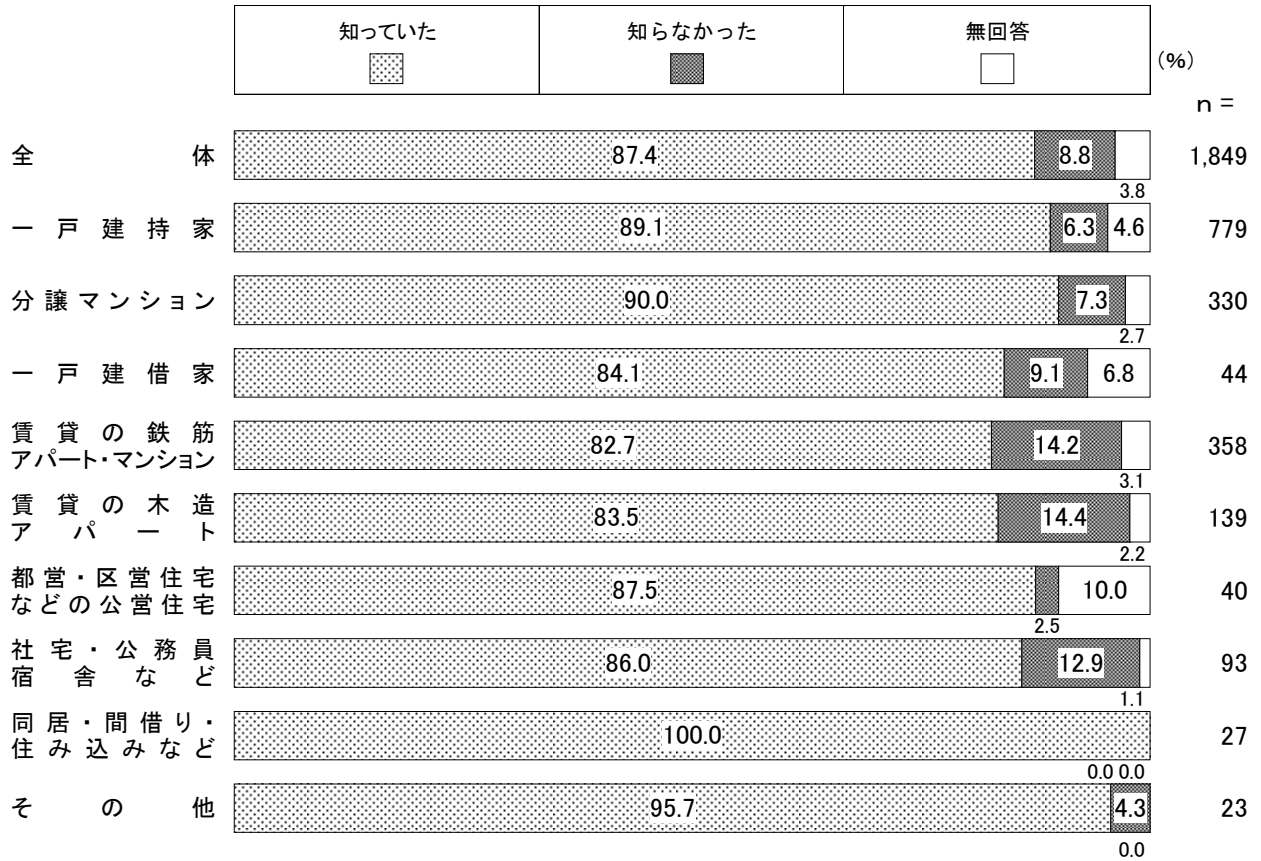
図9-1-3 分別区分変更の認知度（性・年代別）



(4) 居住形態別

- ・「知っていた」はいずれの居住形態でも8割以上を占めている。

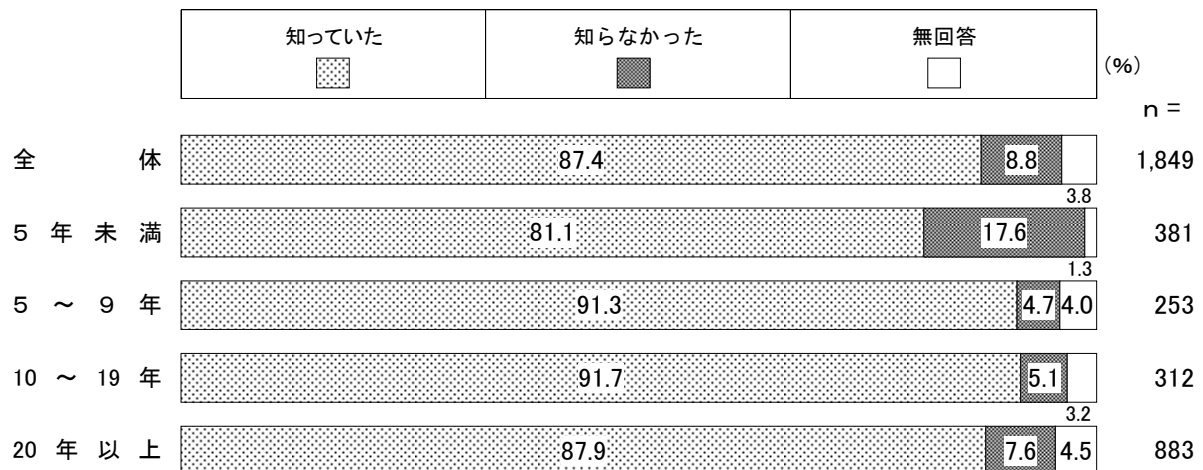
図9-1-4 分別区分変更の認知度（居住形態別）



(5) 居住年数別

- ・「知っていた」は5年以上の居住年数（5～9年91.3%、10～19年91.7%、20年以上87.9%）で9割前後を占めている。
- ・「知らなかった」は5年未満（17.6%）で全体（8.8%）に比べて高くなっている。

図9-1-5 分別区分変更の認知度（居住年数別）





9-2 プラスチック製容器・包装の分別回収状況

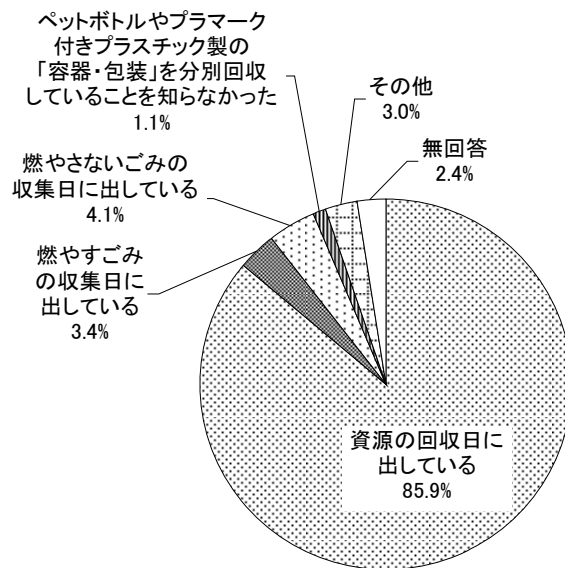
問21 あなたは、ペットボトルやプラマーク付きプラスチック製の「容器・包装」をどのように、分別回収に出していますか。

- ・「資源の回収日に出している」が8割半ばとなっている。
- ・「資源の回収日に出している」は男性50代、女性の30代から60代で高く、また二世世代家族で高くなっている。
- ・「燃やさないごみの収集日に出している」は女性の70代と80代以上で高くなっている。

(1) 全体

- ・「資源の回収日に出している」が85.9%となっている。

図9-2-1 プラスチック製容器・包装の分別回収状況（全体）

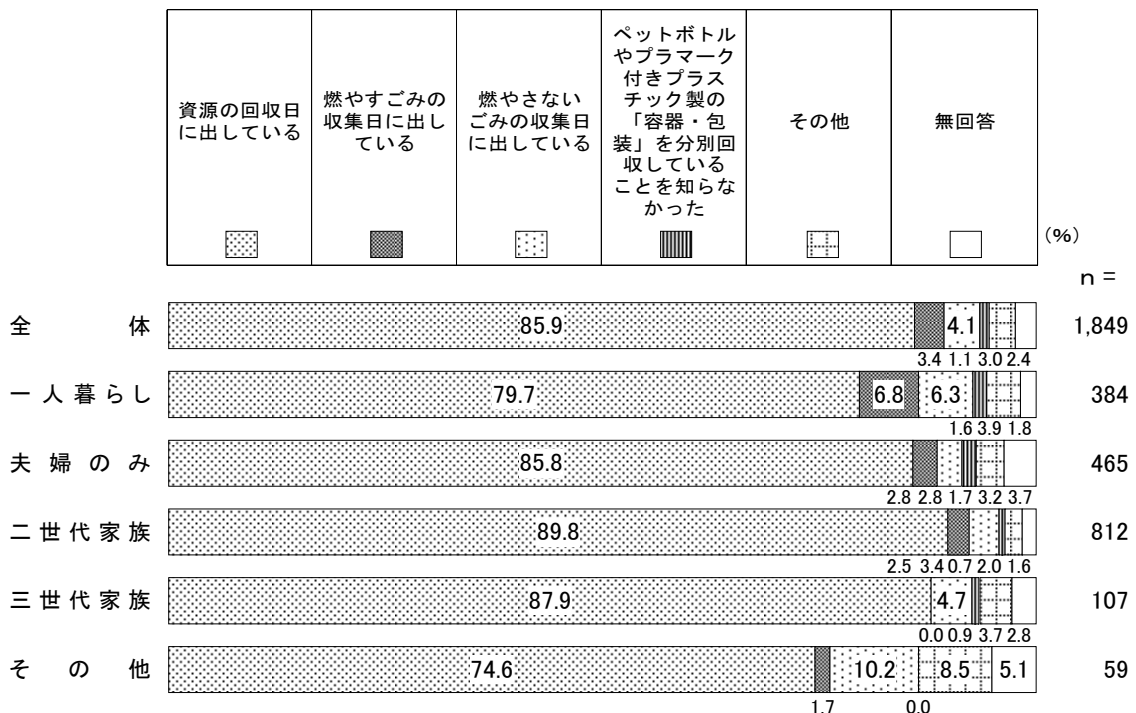


(n=1,849)

(2) 世帯構成別

- ・「資源の回収日に出している」は二世世代家族(89.8%)で全体(85.9%)に比べて高くなっている。

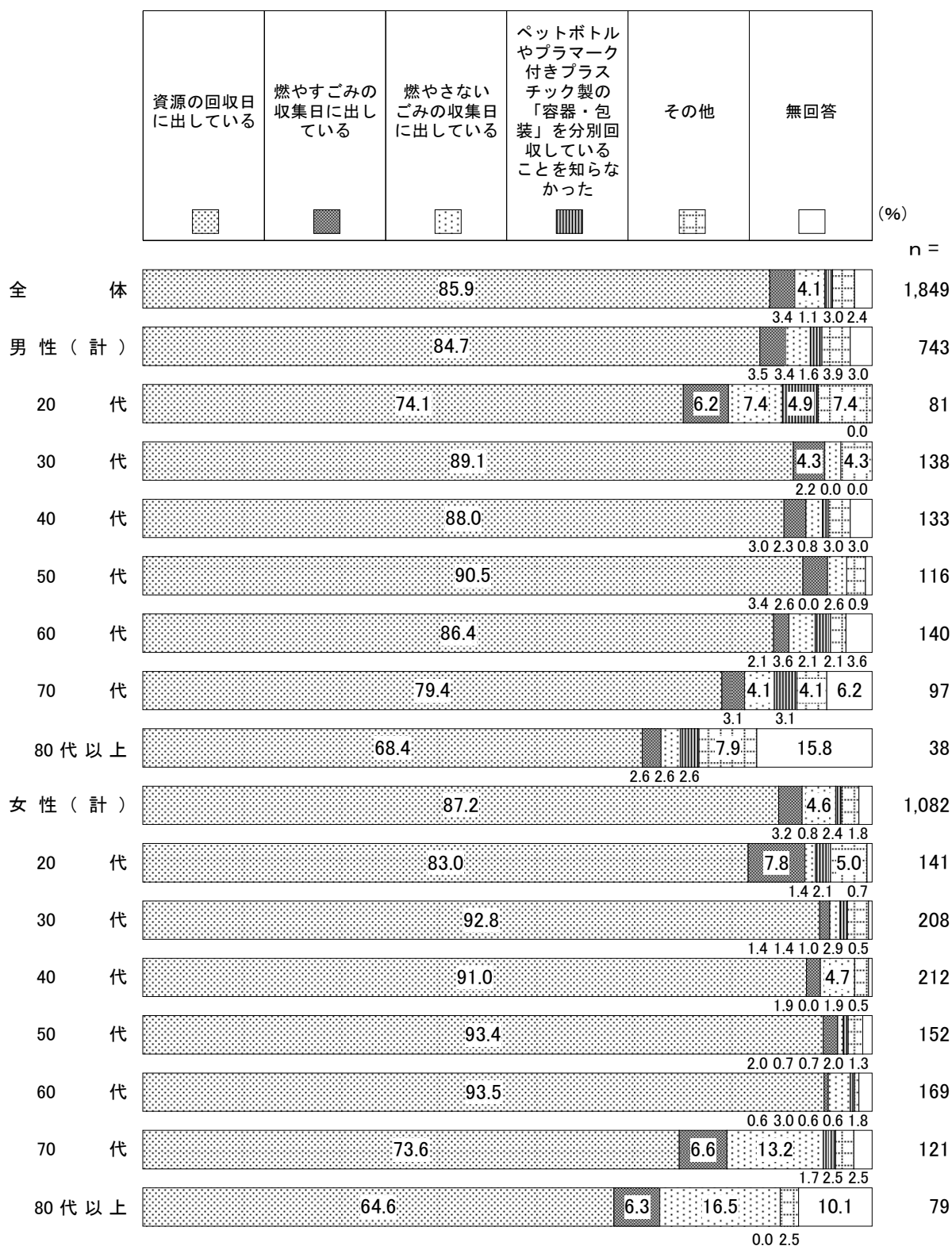
図9-2-2 プラスチック製容器・包装の分別回収状況（世帯構成別）



(3) 性・年代別

- ・「資源の回収日に出している」は男性 50 代 (90.5%)、女性の 30 代から 60 代 (30 代 92.8%、40 代 91.0%、50 代 93.4%、60 代 93.5%) で全体 (85.9%) に比べて高くなっている。
- ・「燃やさないごみの収集日に出している」は女性の 70 代 (13.2%) と 80 代以上 (16.5%) で全体 (4.1%) に比べて高くなっている。

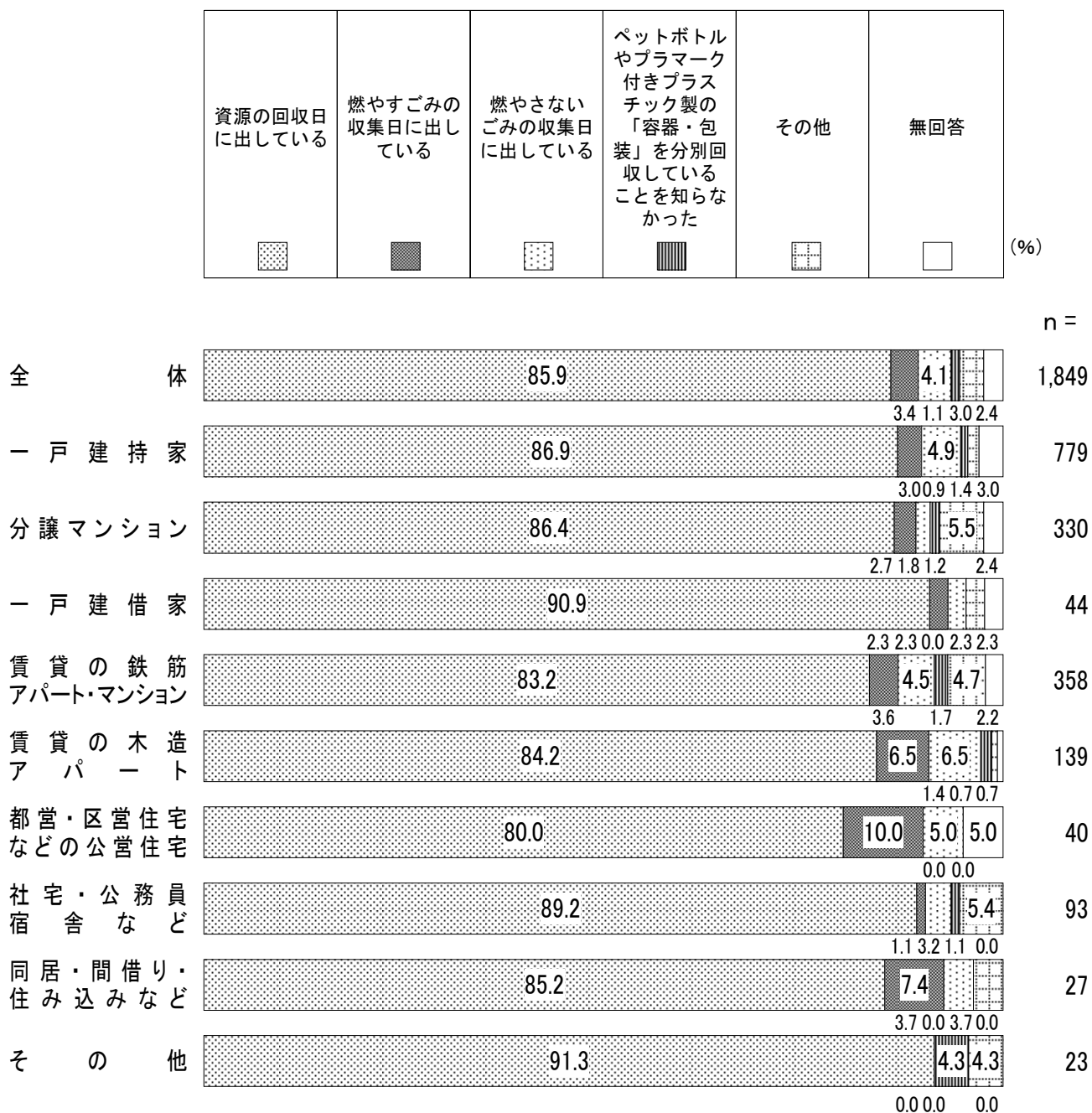
図 9-2-3 プラスチック製容器・包装の分別回収状況 (性・年代別)



(4) 居住形態別

- ・「資源の回収日に出している」はいずれの居住形態でも8割以上を占めている。

図9-2-4 プラスチック製容器・包装の分別回収状況（居住形態別）



### 9-3 汚れが付いたプラスチック製の容器の分別回収状況

(問21で、「資源の回収日に出している」と回答した方にお尋ねします)

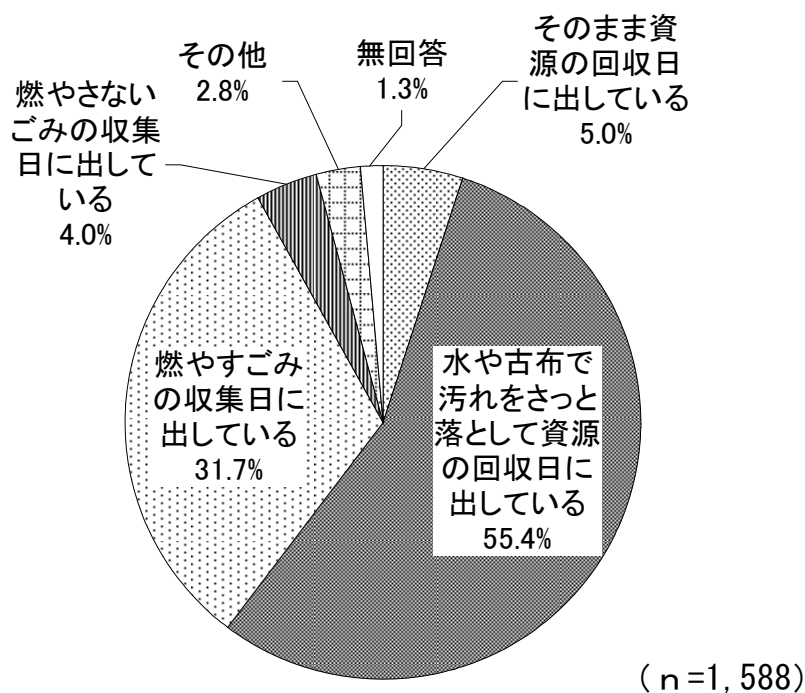
問21-1 あなたは、プラスチック製の使い捨て容器で、油や調味料の汚れが付いた状態のものなどをどのように分別回収に出していますか。

- ・「水や古布で汚れをさっと落として資源の回収日に出している」が5割半ば、「燃やすごみの収集日に出している」が3割を超えている。
- ・「そのまま資源の回収日に出している」は男性が女性に比べて5ポイント高く、男性20代で高くなっている。また、一人暮らしで高くなっている。
- ・「燃やすごみの収集日に出している」は女性が男性に比べて7ポイント高く、女性40代で高くなっている。また、三世帯家族で高くなっている。

#### (1) 全体

- ・「水や古布で汚れをさっと落として資源の回収日に出している」が55.4%、「燃やすごみの収集日に出している」が31.7%となっている。

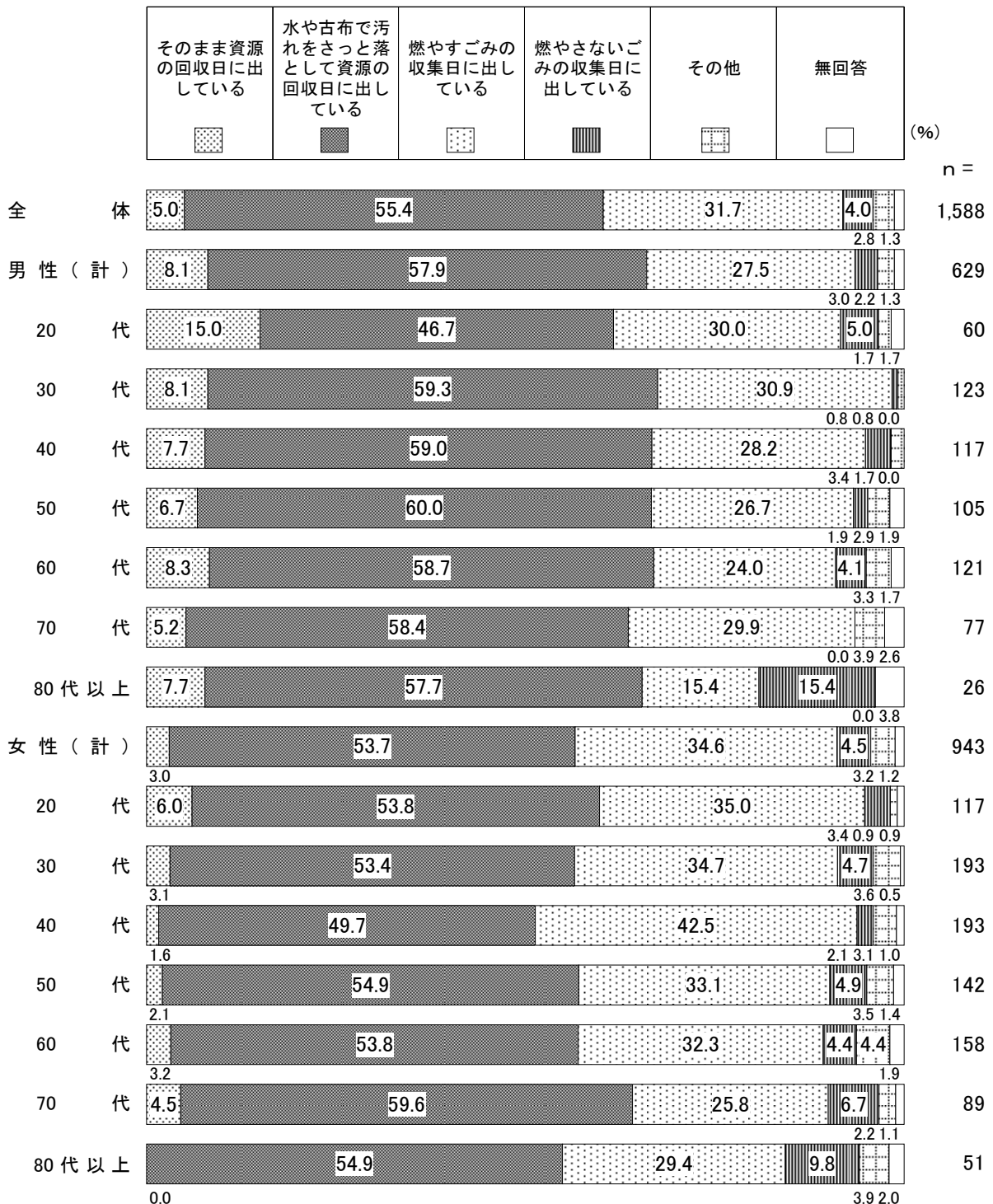
図9-3-1 汚れが付いたプラスチック製の容器の分別回収状況 (全体)



(2) 性・年代別

- ・「燃やすごみの収集日に出している」は女性（34.6%）が男性（27.5%）に比べて7ポイント高くなっている。一方、「そのまま資源の回収日に出している」は男性（8.1%）が女性（3.0%）に比べて5ポイント高くなっている。
- ・「そのまま資源の回収日に出している」は男性20代（15.0%）で全体（5.0%）に比べて高くなっている。
- ・「燃やすごみの収集日に出している」は女性40代（42.5%）で全体（31.7%）に比べて高くなっている。

図9-3-2 汚れが付いたプラスチック製の容器の分別回収状況（性・年代別）



### (3) 世帯構成別・居住形態別

- ・「そのまま資源の回収日に出している」は一人暮らし（10.5%）で全体（5.0%）に比べて高くなっている。
- ・「燃やすごみの収集日に出している」は三世代家族（41.5%）で全体（31.7%）に比べて高くなっている。
- ・水や古布で汚れをさっと落として資源の回収日に出している」は同居・間借り・住み込みなど（78.3%）で全体（55.4%）に比べて高くなっている。

図9-3-3 汚れが付いたプラスチック製の容器の分別回収状況（世帯構成別）

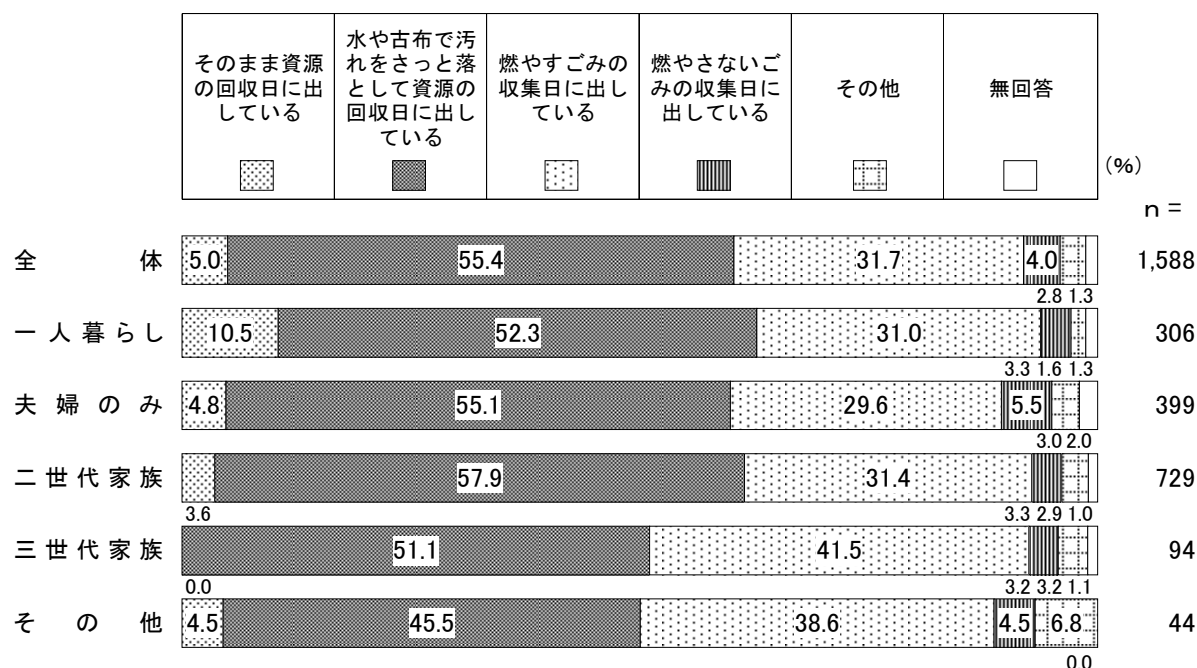
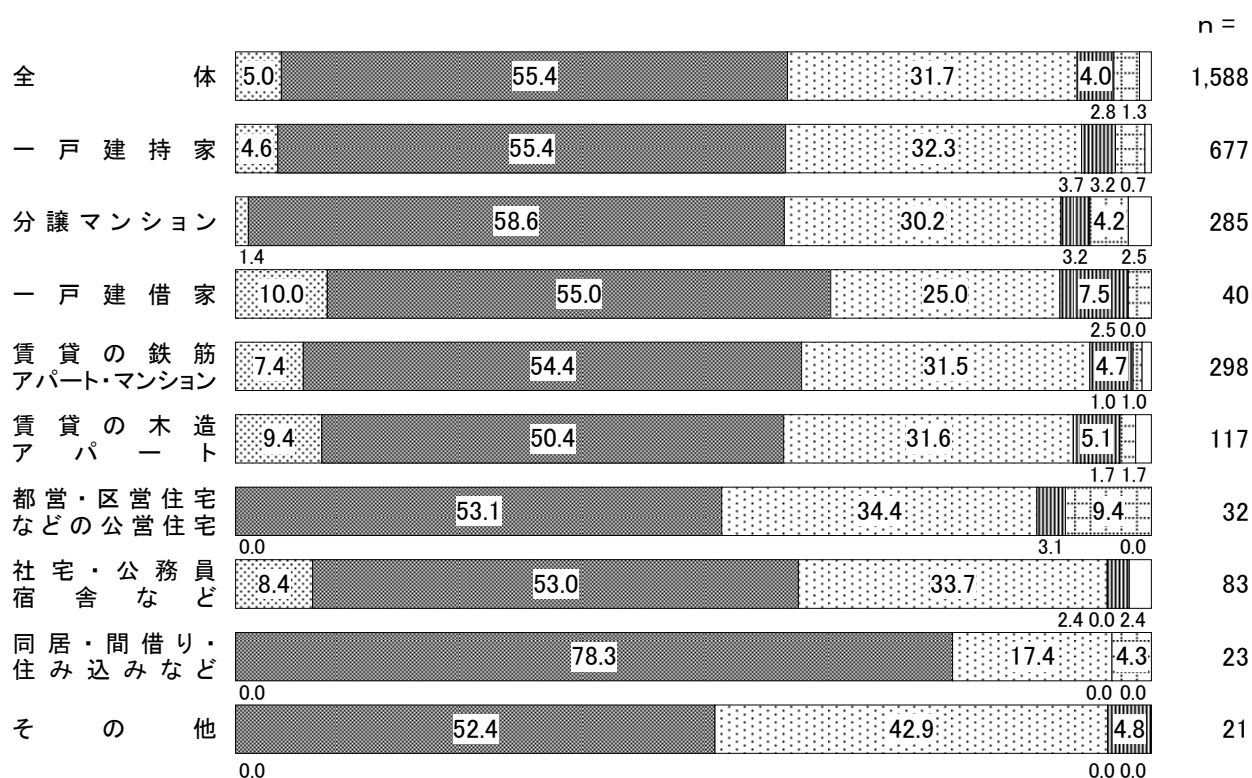


図9-3-4 汚れが付いたプラスチック製の容器の分別回収状況（居住形態別）



## 9-4 リサイクルやごみの処理について希望する情報

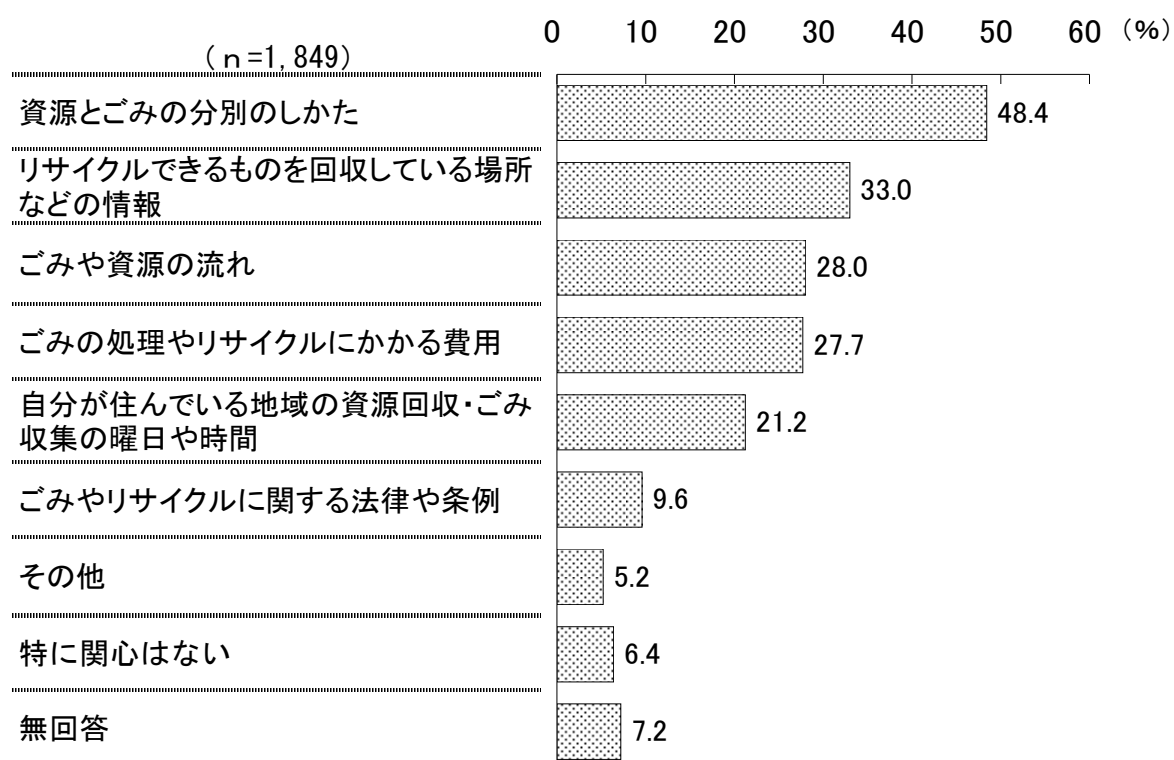
問22 あなたは、リサイクルやごみの処理についてどのような情報が知りたいですか。  
(〇はいくつでも)

- ・「資源とごみの分別のしかた」が最も多く、次いで「リサイクルできるものを回収している場所などの情報」、「ごみや資源の流れ」の順となっている。
- ・「資源とごみの分別のしかた」は男女ともに20代と30代で高くなっている。
- ・「リサイクルできるものを回収している場所などの情報」は女性が男性に比べて10ポイント高く、女性20代で高くなっている。
- ・「自分が住んでいる地域の資源回収・ごみ収集の曜日や時間」は男性80代以上、女性20代で高くなっている。

### (1) 全体

- ・「資源とごみの分別のしかた」が48.4%で最も多く、次いで「リサイクルできるものを回収している場所などの情報」33.0%、「ごみや資源の流れ」28.0%、「ごみの処理やリサイクルにかかる費用」27.7%の順となっている。

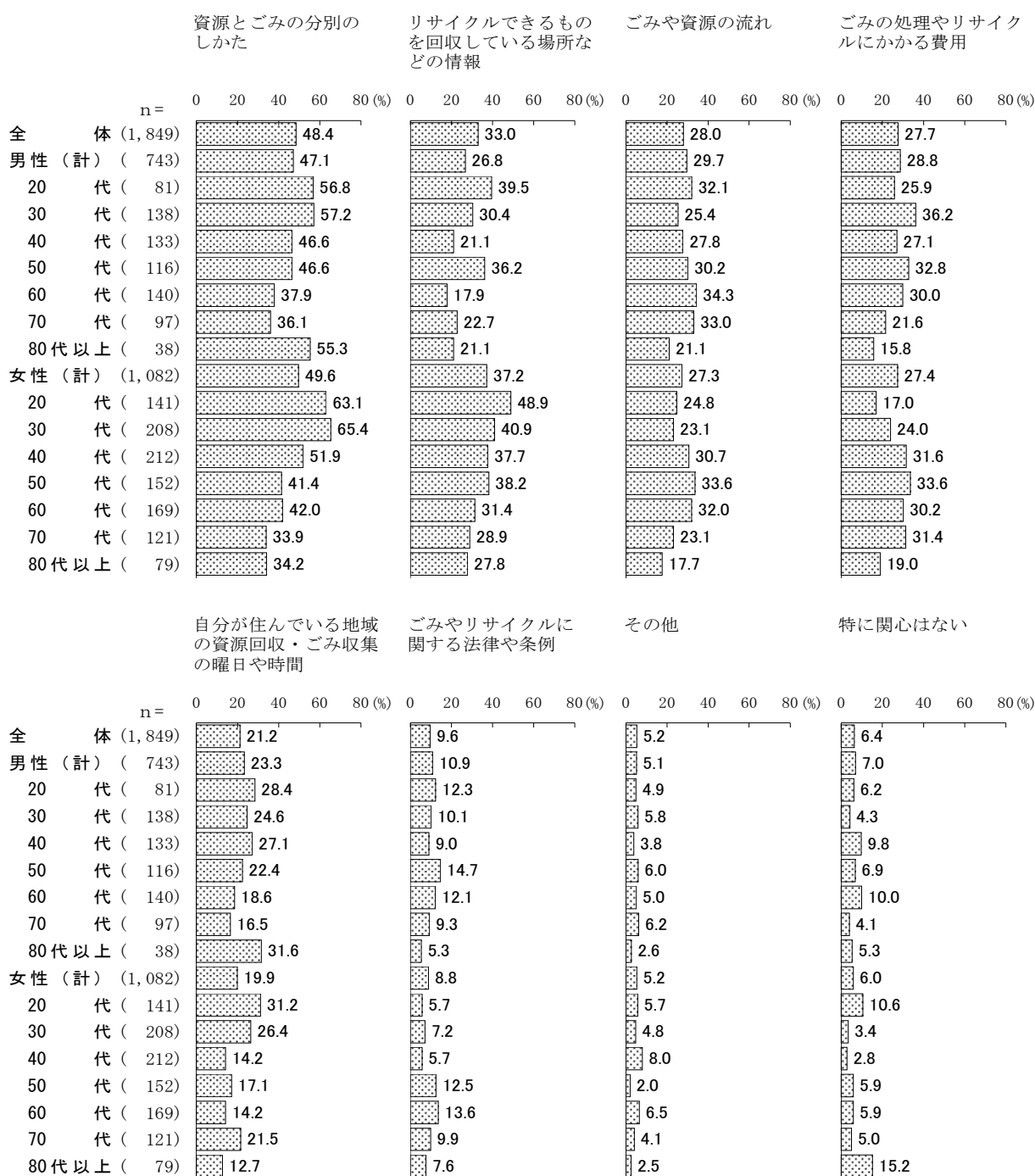
図9-4-1 リサイクルやごみの処理について希望する情報（全体）



## (2) 性・年代別

- ・「リサイクルできるものを回収している場所などの情報」は女性（37.2%）が男性（26.8%）に比べて10ポイント高くなっている。
- ・「資源とごみの分別のしかた」は男女ともに20代と30代(男性20代56.8%、男性30代57.2%、女性20代63.1%、女性30代65.4%)で全体（48.4%）に比べて高くなっている。
- ・「リサイクルできるものを回収している場所などの情報」は女性20代(48.9%)で全体(33.0%)に比べて高くなっている。
- ・「自分が住んでいる地域の資源回収・ごみ収集の曜日や時間」は男性80代以上（31.6%）、女性20代（31.2%）で全体（21.2%）に比べて高くなっている。

図9-4-2 リサイクルやごみの処理について希望する情報（性・年代別）





9-5 意識向上のために有効な施策

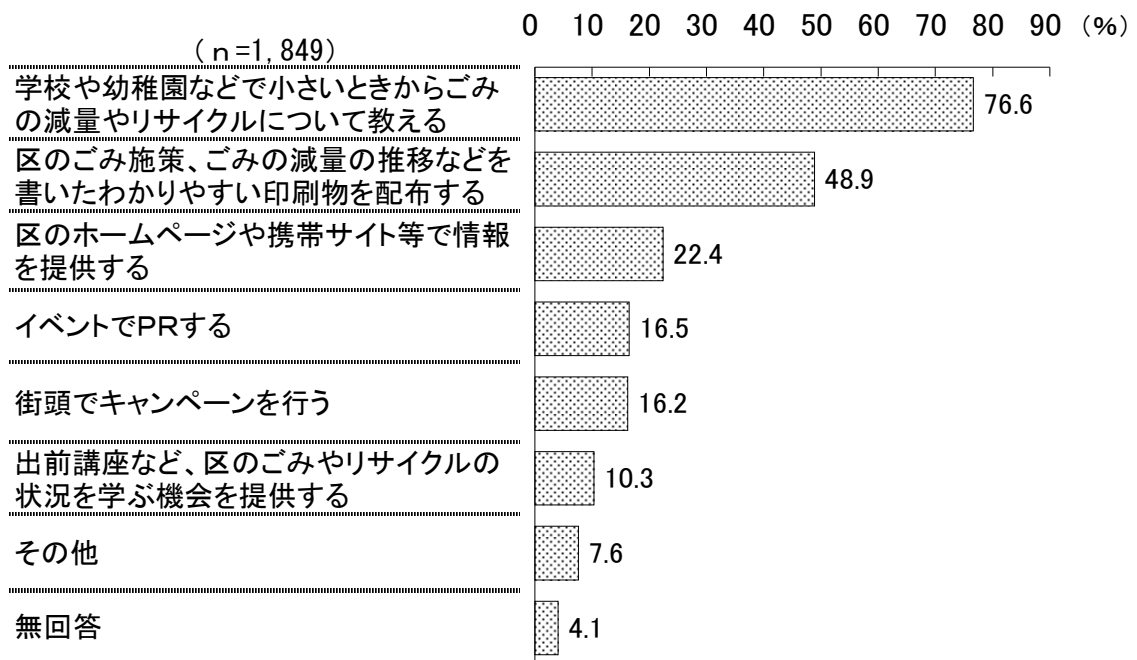
問23 資源のリサイクルやごみの減量をさらに進めるため、区民の皆さんに関心を持ってもらう有効な施策は何だと思えますか。（〇は3つまで）

- ・「学校や幼稚園などで小さいときからごみの減量やリサイクルについて教える」が最も多く、次いで「区のごみ施策、ごみの減量の推移などを書いたわかりやすい印刷物を配布する」、「区のホームページや携帯サイト等で情報を提供する」の順となっている。
- ・「学校や幼稚園などで小さいときからごみの減量やリサイクルについて教える」は女性の40代と50代で高くなっている。
- ・「区のごみ施策、ごみの減量の推移などを書いたわかりやすい印刷物を配布する」は女性が男性に比べて7ポイント高く、男性80代以上、女性の60代と70代で高くなっている。

(1) 全体

- ・「学校や幼稚園などで小さいときからごみの減量やリサイクルについて教える」が76.6%で最も多く、次いで「区のごみ施策、ごみの減量の推移などを書いたわかりやすい印刷物を配布する」48.9%、「区のホームページや携帯サイト等で情報を提供する」22.4%の順となっている。

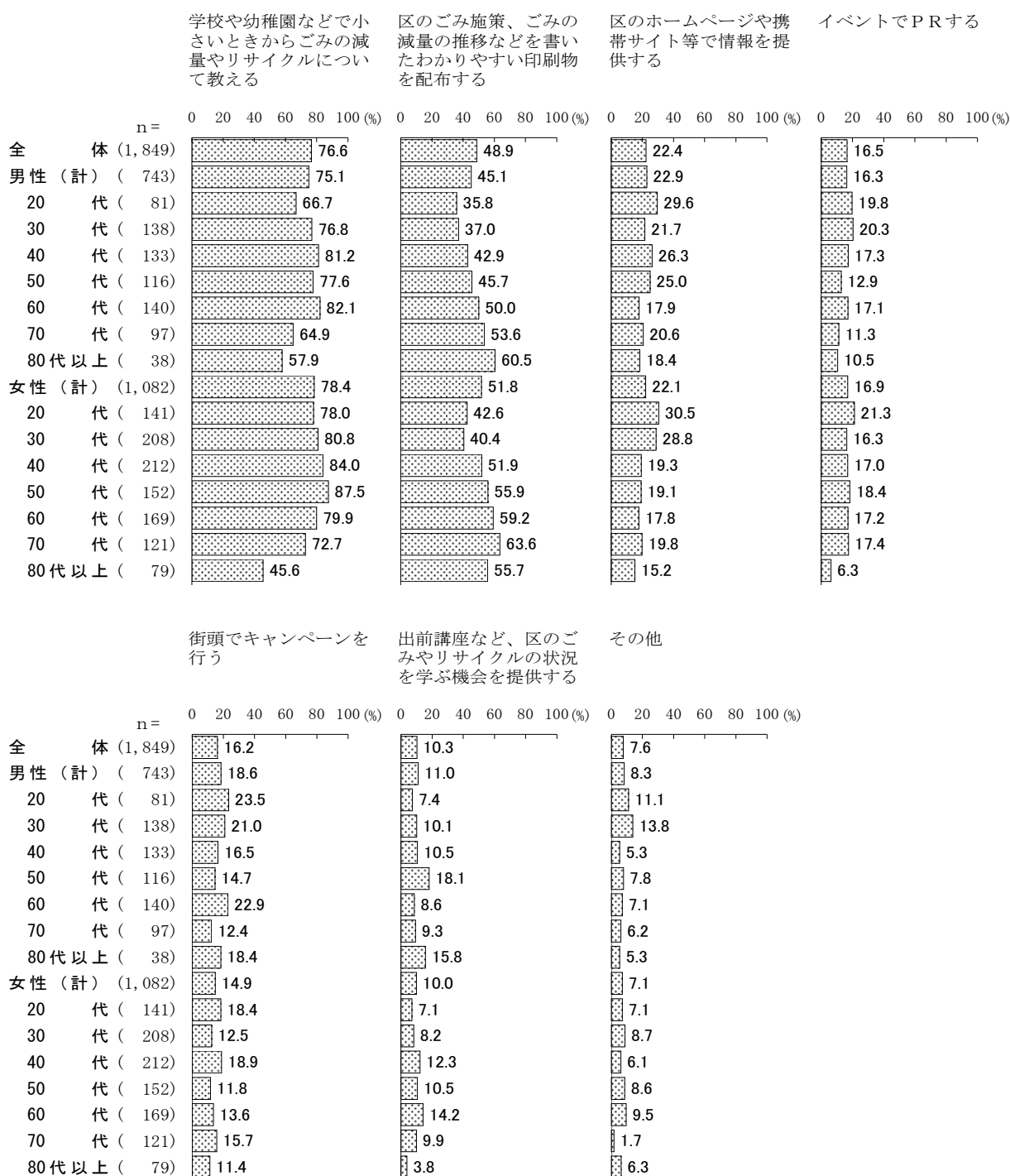
図9-5-1 意識向上のために有効な施策（全体）



## (2) 性・年代別

- ・「区のごみ施策、ごみの減量の推移などを書いたわかりやすい印刷物を配布する」は女性 (51.8%) が男性 (45.1%) に比べて7ポイント高くなっている。
- ・「学校や幼稚園などで小さいときからごみの減量やリサイクルについて教える」は女性の40代 (84.0%) と50代 (87.5%) で全体 (76.6%) に比べて高くなっている。
- ・「区のごみ施策、ごみの減量の推移などを書いたわかりやすい印刷物を配布する」は男性80代以上 (60.5%)、女性の60代 (59.2%) と70代 (63.6%) で全体 (48.9%) に比べて高くなっている。

図9-5-2 意識向上のために有効な施策（性・年代別）



## 10. 生物多様性

### 10-1 生物多様性の認知度

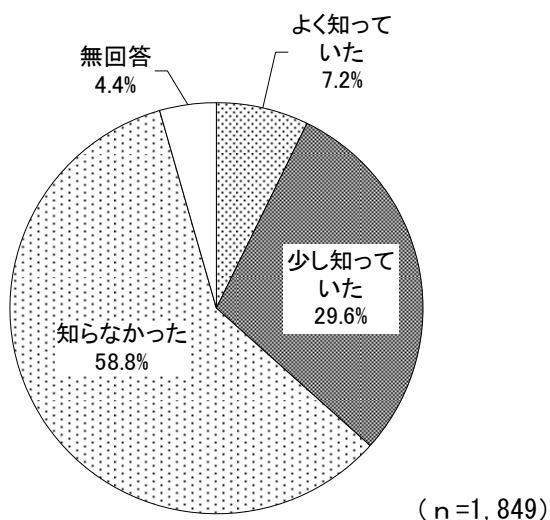
問24 今年は国連の定める「国際生物多様性年」ですが「生物多様性」について、知っていましたか。

- ・「よく知っていた」と「少し知っていた」を合わせた『知っていた』は4割近く、「知らなかった」は6割近くとなっている。
- ・『知っていた』は男性が女性に比べて7ポイント高く、男性30代で高くなっている。また、西部地区、北部地区、東部地区で高くなっている。
- ・「知らなかった」は女性30代で高くなっている。また、居住年数が5年未満で高くなっている。

#### (1) 全体

- ・「よく知っていた」7.2%と「少し知っていた」29.6%を合わせた『知っていた』は36.8%、「知らなかった」は58.8%となっている。

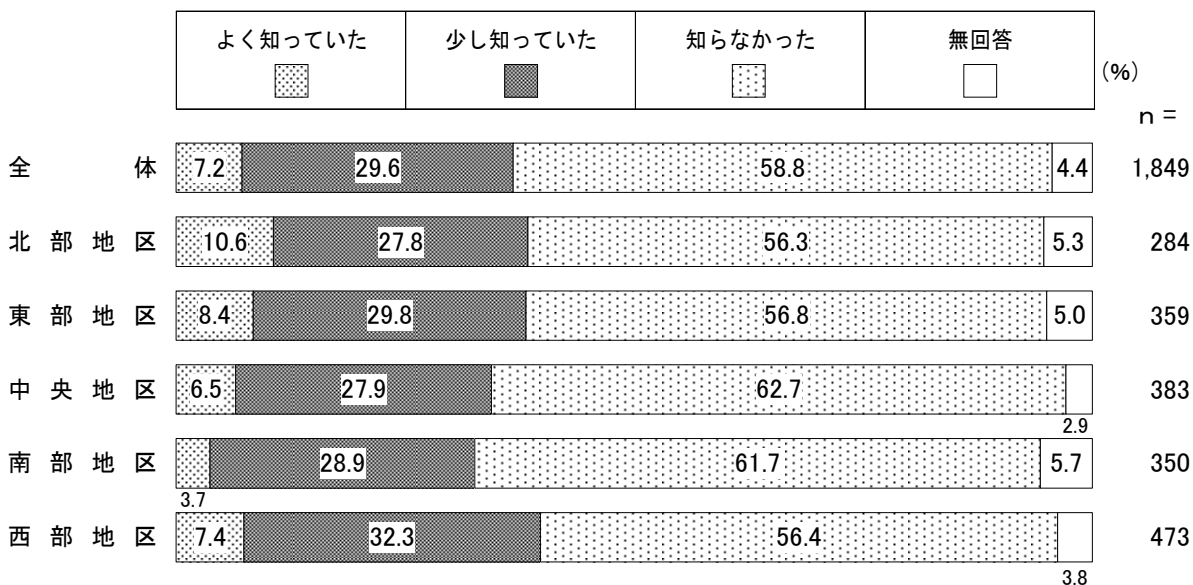
図10-1-1 生物多様性の認知度（全体）



#### (2) 地区別

- ・『知っていた』は西部地区 (39.7%)、北部地区 (38.4%)、東部地区 (38.2%) で全体 (36.8%) に比べて高くなっている。

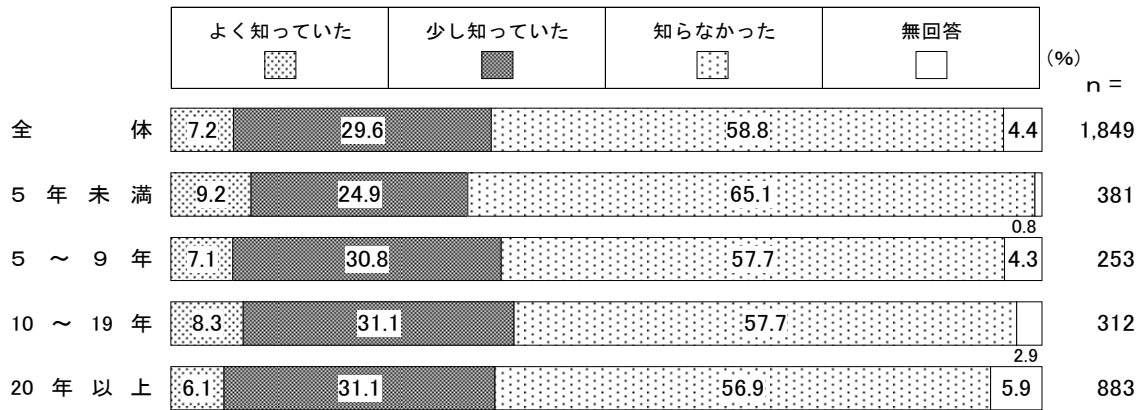
図10-1-2 生物多様性の認知度（地区別）



(3) 居住年数別

- ・「知らなかった」は5年未満（65.1%）で全体（58.8%）に比べて高くなっている。

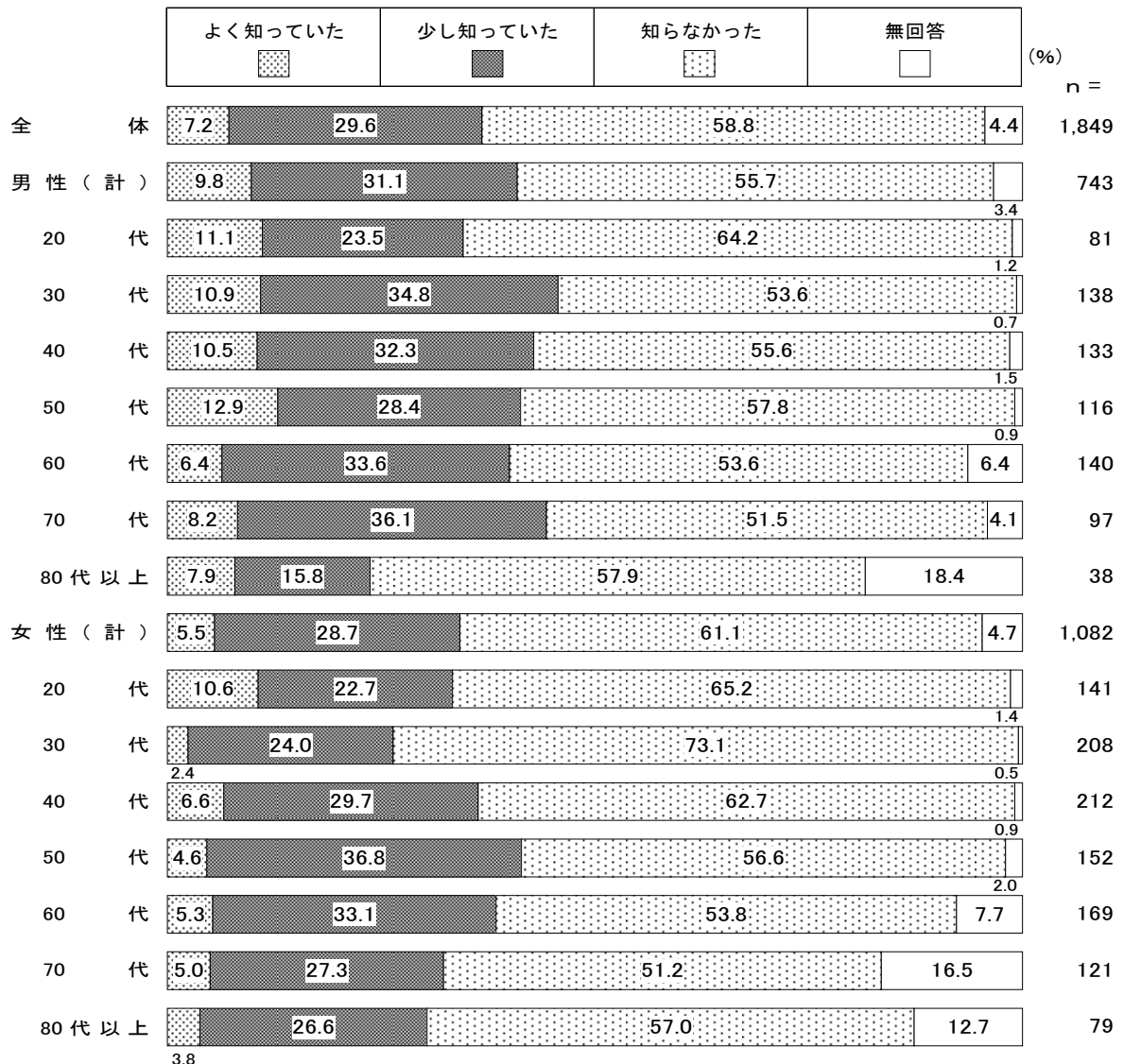
図 10-1-3 生物多様性の認知度（居住年数別）



(4) 性・年代別

- ・『知っていた』は男性（40.9%）が女性（34.2%）に比べて7ポイント高くなっている。
- ・『知っていた』は男性30代（45.7%）で全体（36.8%）に比べて高くなっている。
- ・「知らなかった」は女性30代（73.1%）で全体（58.8%）に比べて高くなっている。

図 10-1-4 生物多様性の認知度（性・年代別）



## 10-2 生物多様性に対する区の配慮への評価

(問24で、生物多様性を「よく知っていた」「少し知っていた」のいずれかに回答した方にお尋ねします)

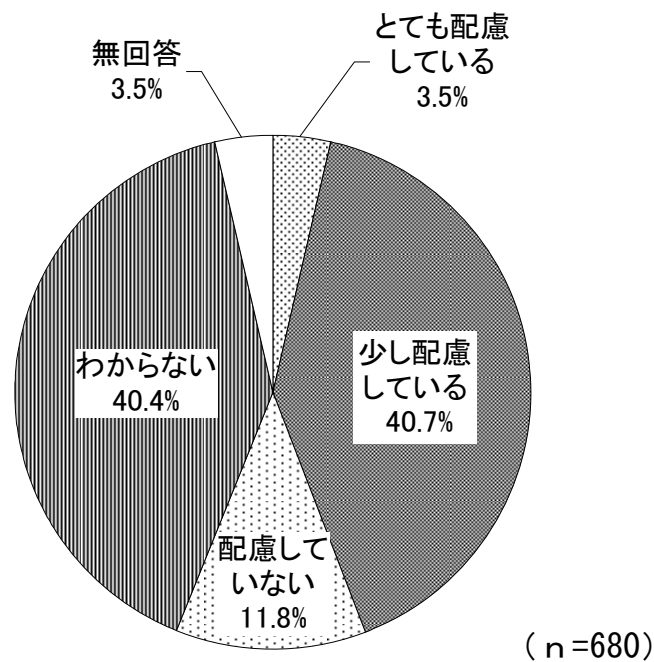
問24-1 目黒区の「公共施設(学校・公園・道路等)の建設や改修」、「まちづくり施策」や「自然の保全・回復」については、「生物多様性」に配慮していると思いますか。

- ・「とても配慮している」と「少し配慮している」を合わせた『配慮している』は4割半ばとなっている。
- ・「わからない」が4割となっている。
- ・『配慮している』は、南部地区、西部地区、居住年数が長いほど割合が高い傾向になっている。

### (1) 全体

- ・「とても配慮している」3.5%と「少し配慮している」40.7%を合わせた『配慮している』は44.2%、「わからない」が40.4%となっている。

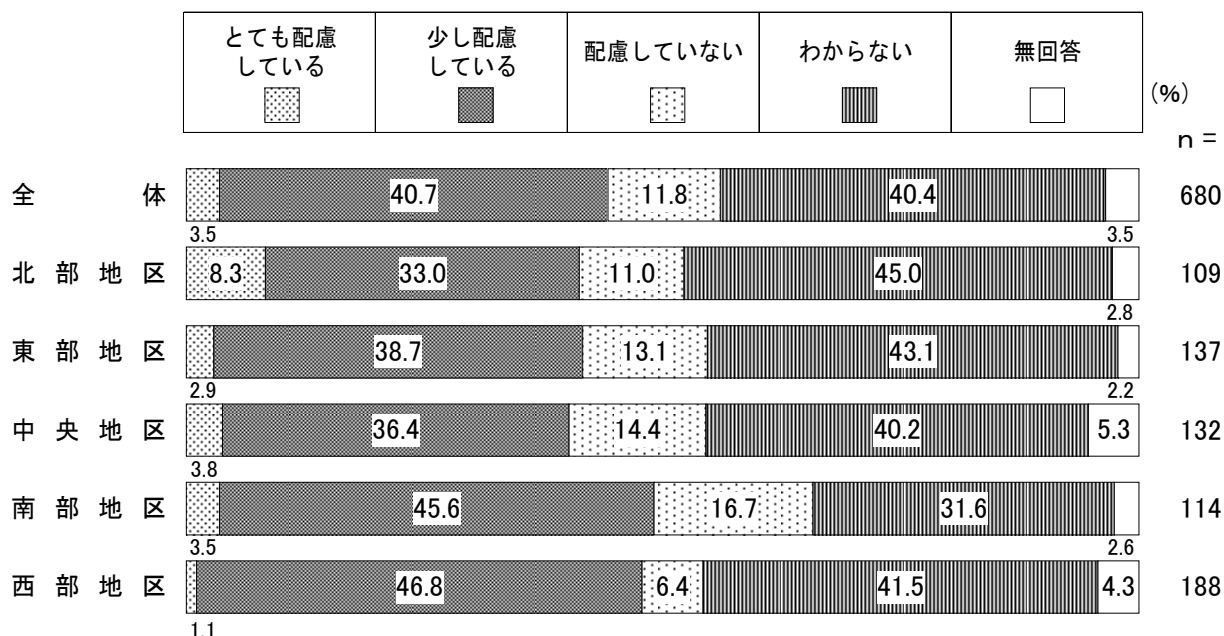
図10-2-1 生物多様性に対する区の配慮への評価(全体)



(2) 地区別

- ・『配慮している』は南部地区（49.1%）、西部地区（47.9%）で全体（44.2%）に比べて高くなっている。

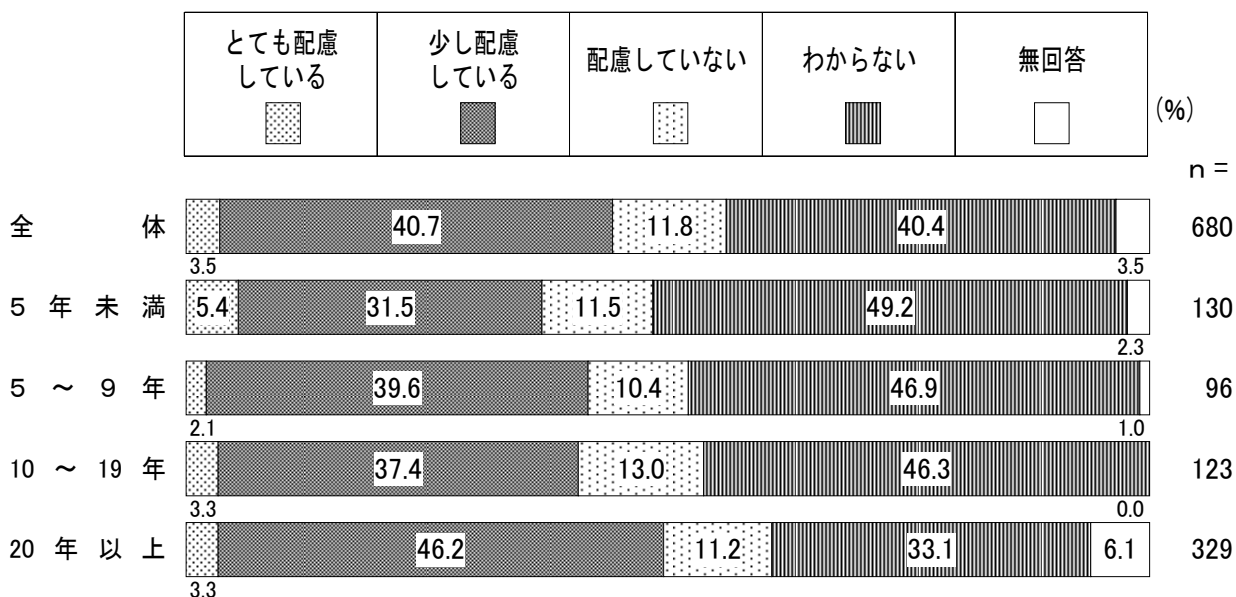
図 10-2-2 生物多様性に対する区の配慮への評価（地区別）



(3) 居住年数別

- ・『配慮している』は居住年数が長いほど割合が高い傾向にあり、20 年以上（49.5%）で全体（44.2%）に比べて高くなっている。

図 10-2-3 生物多様性に対する区の配慮への評価（居住年数別）



### 10-3 生物多様性関連事業で重要なこと

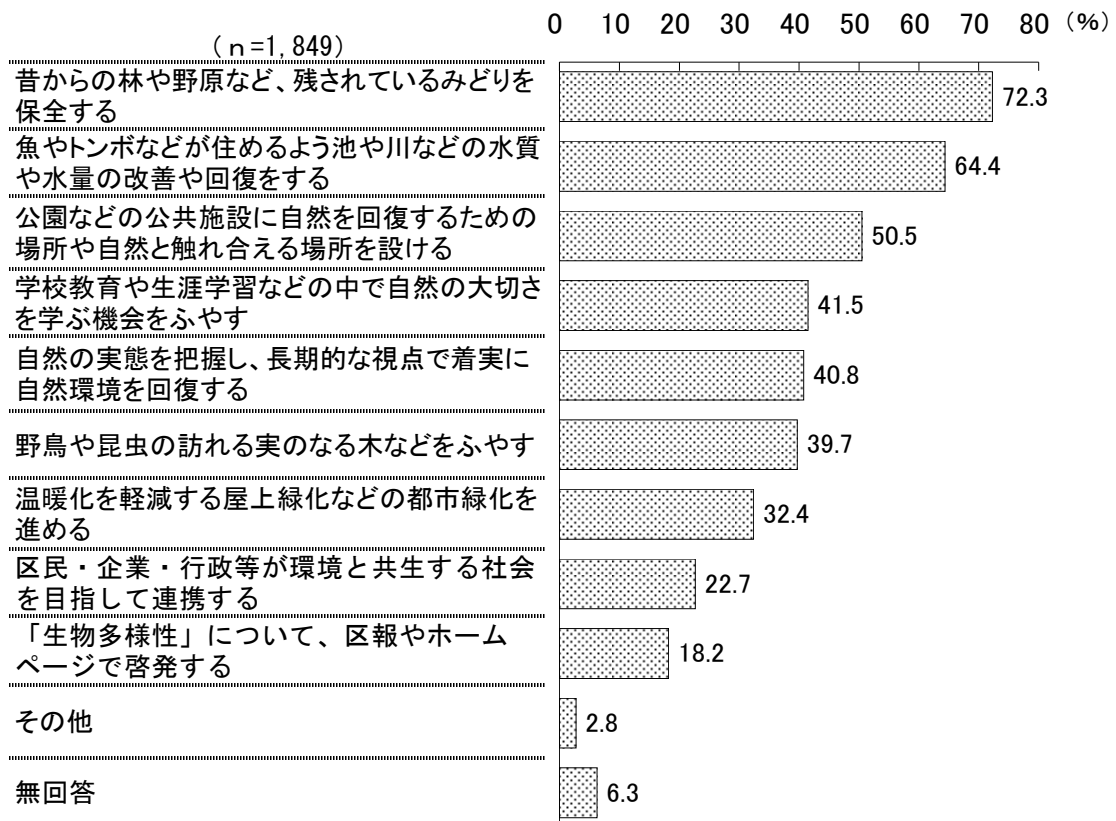
問25 区が「生物多様性」の保全や回復などの事業を行う場合、次のどの項目に重点を置くべきと思いますか。（〇はいくつでも）

- ・「昔からの林や野原など、残されているみどりを保全する」が最も多く、次いで「魚やトンボなどが住めるよう池や川などの水質や水量の改善や回復をする」、「公園などの公共施設に自然を回復するための場所や自然と触れ合える場所を設ける」の順となっている。
- ・「昔からの林や野原など、残されているみどりを保全する」は、西部地区で高くなっている。
- ・「魚やトンボなどが住めるよう池や川などの水質や水量の改善や回復をする」は、東部地区、居住年数が5年未満で高くなっている。
- ・「公園などの公共施設に自然を回復するための場所や自然と触れ合える場所を設ける」は居住年数が5～9年で高くなっている。

#### (1) 全体

- ・「昔からの林や野原など、残されているみどりを保全する」が72.3%で最も多く、次いで「魚やトンボなどが住めるよう池や川などの水質や水量の改善や回復をする」64.4%、「公園などの公共施設に自然を回復するための場所や自然と触れ合える場所を設ける」50.5%の順となっている。

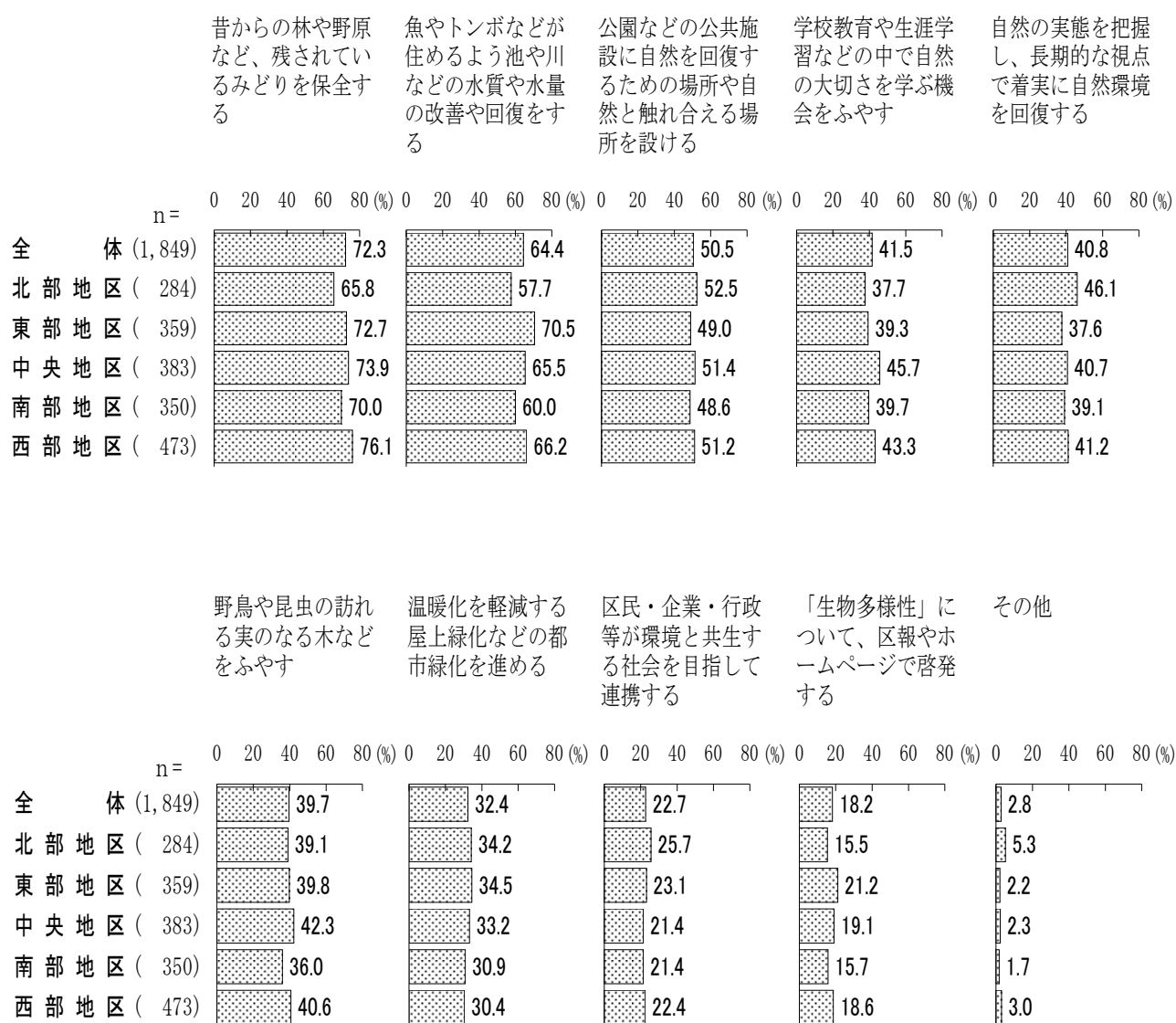
図 10-3-1 生物多様性関連事業で重要なこと（全体）



## (2) 地区別

- ・「昔からの林や野原など、残されているみどりを保全する」は西部地区(76.1%)で全体(72.3%)に比べて高くなっている。
- ・「魚やトンボなどが住めるよう池や川などの水質や水量の改善や回復をする」は東部地区(70.5%)で全体(64.4%)に比べて高くなっている。
- ・「自然の実態を把握し、長期的な視点で着実に自然環境を回復する」は北部地区(46.1%)で全体(40.8%)に比べて高くなっている。

図 10-3-2 生物多様性関連事業で重要なこと（地区別）

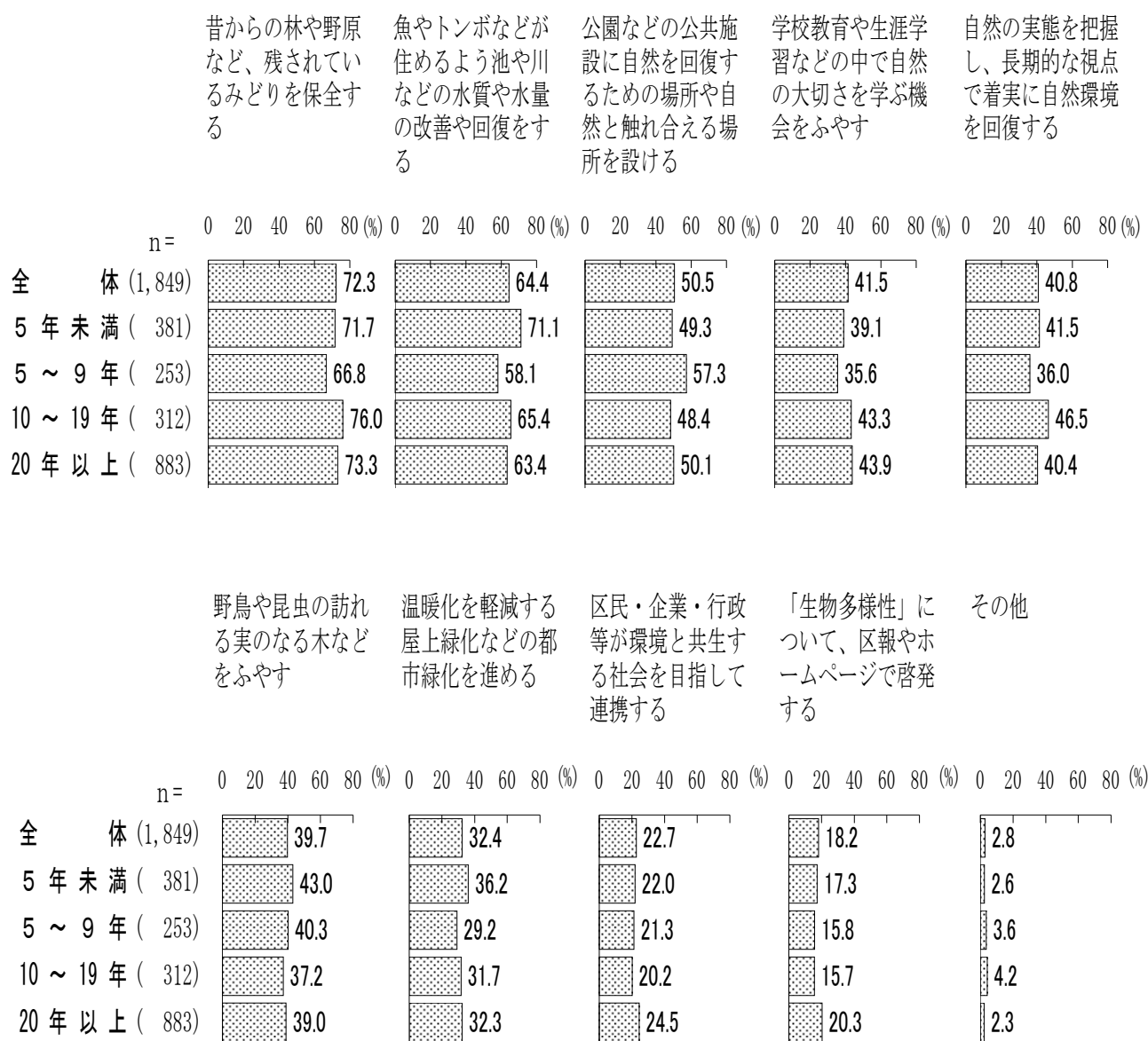




### (3) 居住年数別

- ・「魚やトンボなどが住めるよう池や川などの水質や水量の改善や回復をする」は5年未満(71.1%)で全体(64.4%)に比べて高くなっている。
- ・「公園などの公共施設に自然を回復するための場所や自然と触れ合える場所を設ける」は5～9年(57.3%)で全体(50.5%)に比べて高くなっている。
- ・「自然の実態を把握し、長期的な視点で着実に自然環境を回復する」は10～19年(46.5%)で全体(40.8%)に比べて高くなっている。

図 10-3-3 生物多様性関連事業で重要なこと (居住年数別)



## 11. 住民参加の公園づくり

### 11-1 公園でのボランティア活動で参加してみたい活動

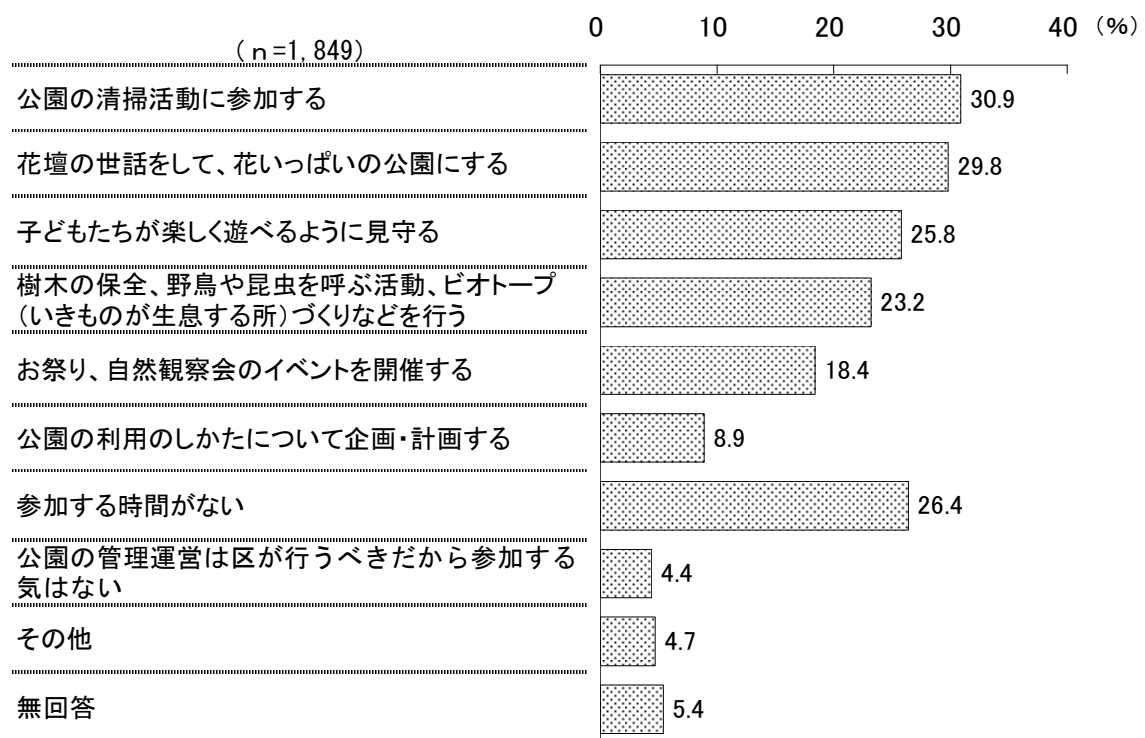
問26 あなたは、公園でのボランティア活動に参加するとしたらどのような活動をしてみたいですか。（〇はいくつでも）

- ・「公園の清掃活動に参加する」が最も多く、次いで「花壇の世話をして、花いっぱい公園にする」の順となっている。また、「参加する時間がない」が2割半ばとなっている。
- ・「公園の清掃活動に参加する」は男性30代で高くなっている。
- ・「花壇の世話をして、花いっぱい公園にする」は女性が男性に比べて12ポイント高く、女性の20代と70代で高くなっている。また、主に家事に従事で高くなっている。
- ・「子どもたちが楽しく遊べるように見守る」は男性80代以上で高く、また南部地区で高くなっている。
- ・「お祭り、自然観察会のイベントを開催する」は男女ともに20代、女性30代で高くなっている。また、学生で高くなっている。

#### (1) 全体

- ・「公園の清掃活動に参加する」が30.9%で最も多く、次いで「花壇の世話をして、花いっぱい公園にする」29.8%の順となっている。また、「参加する時間がない」が26.4%となっている。

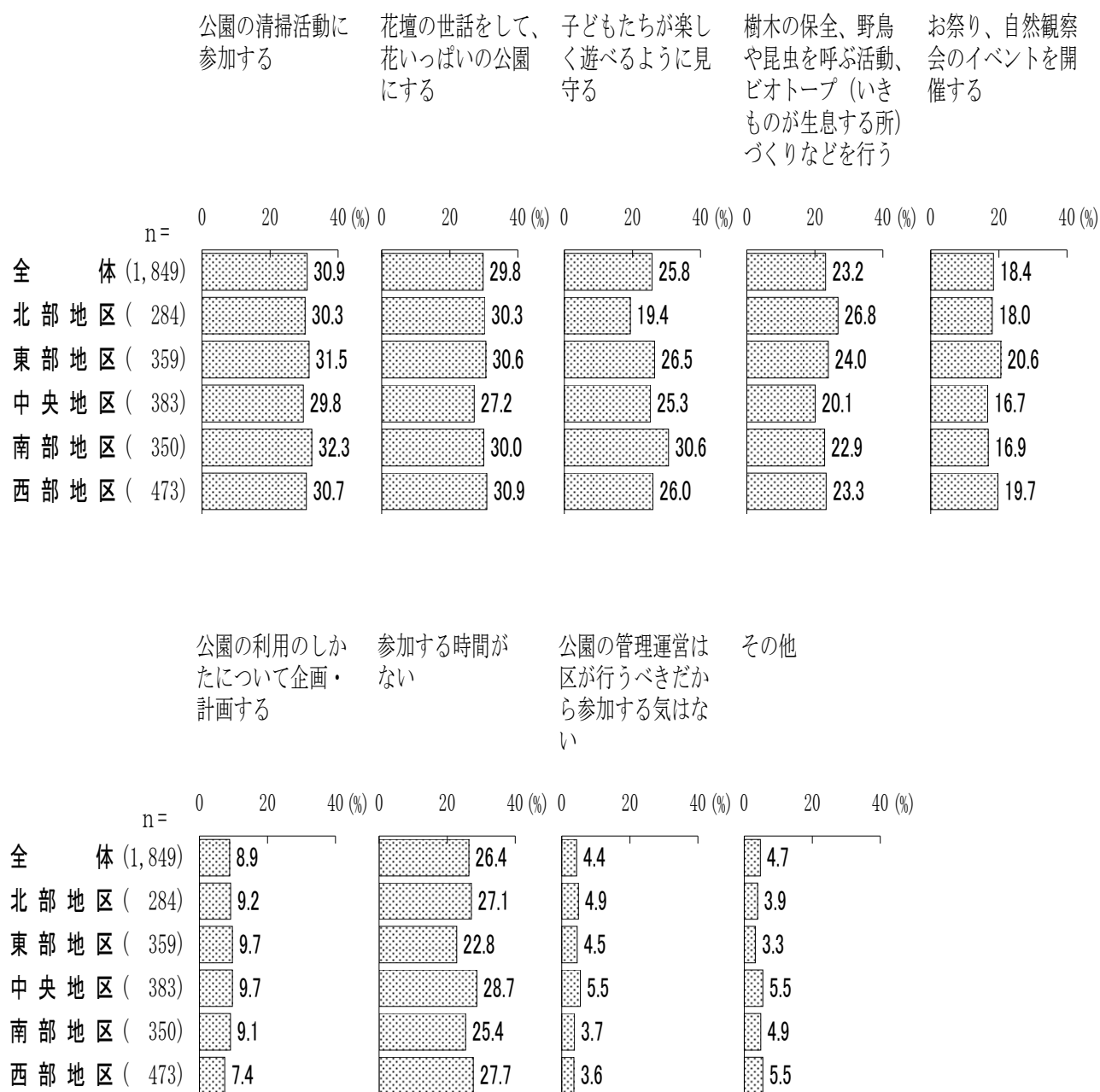
図 11-1-1 公園でのボランティア活動で参加してみたい活動（全体）



(2) 地区別

- ・「子どもたちが楽しく遊べるように見守る」は南部地区（30.6%）で全体（25.8%）に比べて高くなっている。

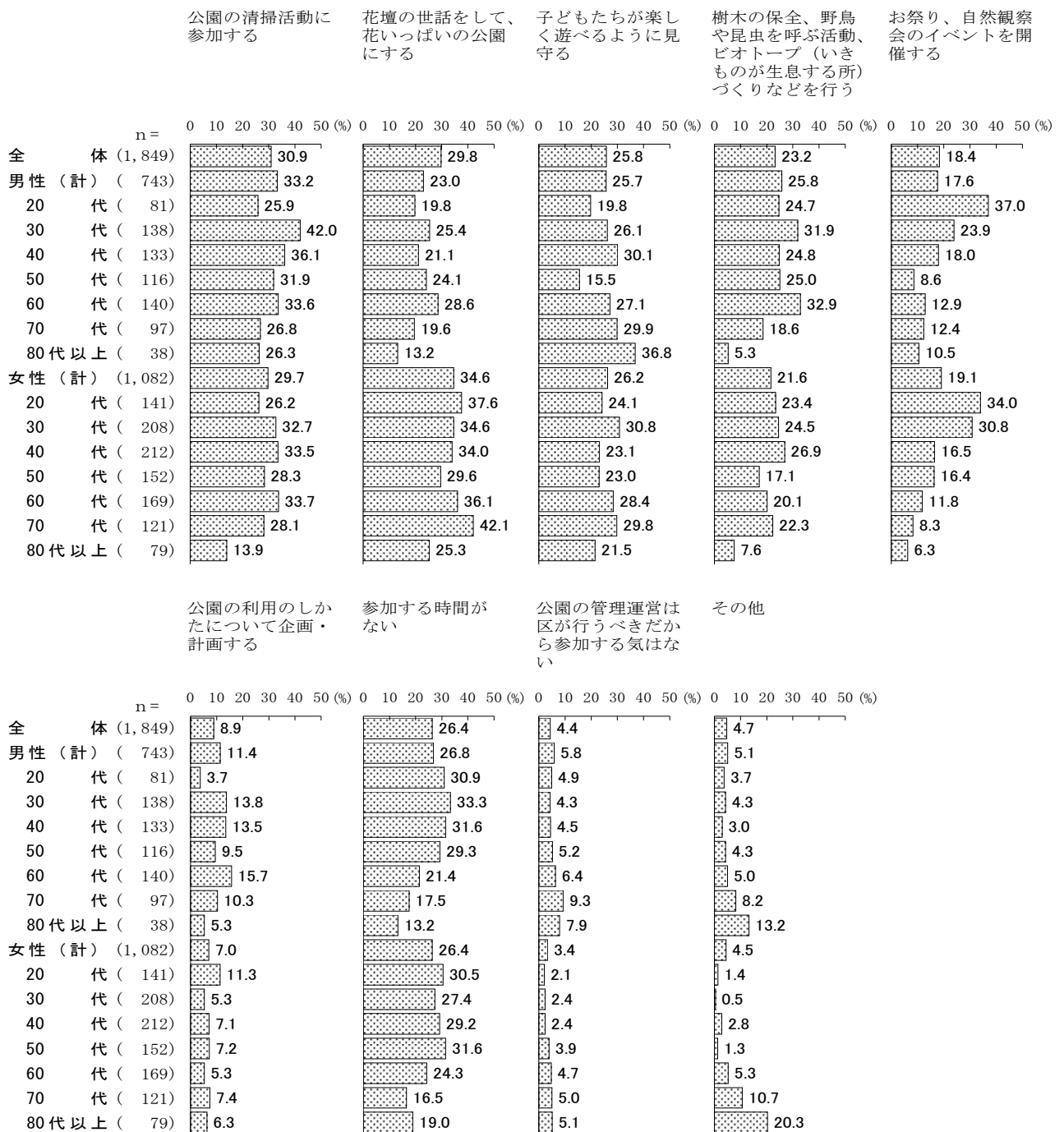
図 11-1-2 公園でのボランティア活動で参加してみたい活動（地区別）



### (3) 性・年代別

- ・「花壇の世話をして、花いっぱいの公園にする」は女性（34.6%）が男性（23.0%）に比べて12ポイント高くなっている。
- ・「公園の清掃活動に参加する」は男性30代（42.0%）で全体（30.9%）に比べて高くなっている。
- ・「花壇の世話をして、花いっぱいの公園にする」は女性の20代（37.6%）と70代（42.1%）で全体（29.8%）に比べて高くなっている。
- ・「子どもたちが楽しく遊べるように見守る」は男性80代以上（36.8%）で全体（25.8%）に比べて高くなっている。
- ・「お祭り、自然観察会のイベントを開催する」は男女ともに20代（男性37.0%、女性34.0%）、女性30代（30.8%）で全体（18.4%）に比べて高くなっている。

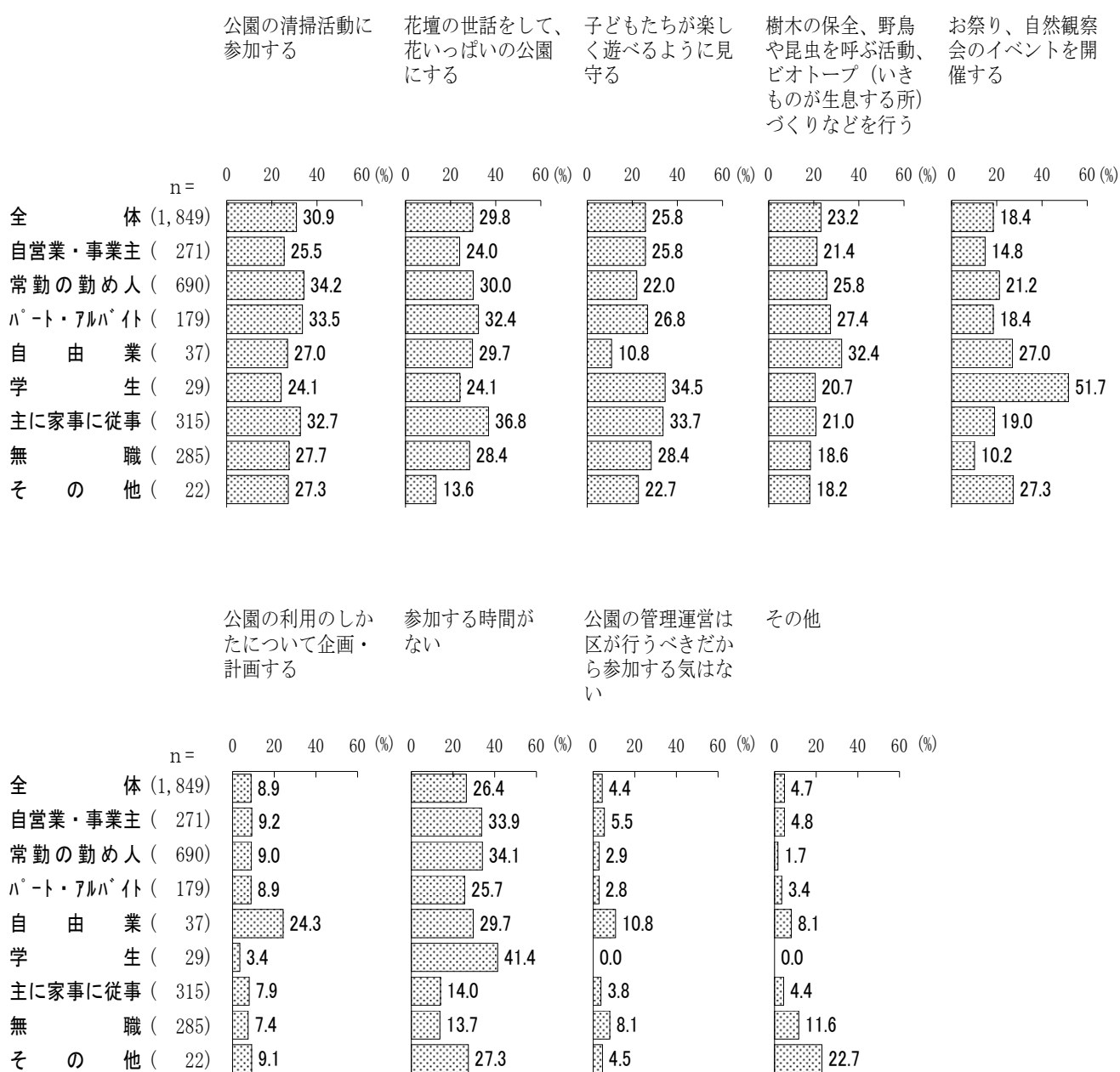
図 11-1-3 公園でのボランティア活動で参加してみたい活動（性・年代別）



#### (4) 職業別

- ・「花壇の世話をして、花いっぱい公園にする」は主に家事に従事（36.8%）で全体（29.8%）に比べて高くなっている。
- ・「お祭り、自然観察会のイベントを開催する」は学生（51.7%）で全体（18.4%）に比べて高くなっている。
- ・「公園の利用のしかたについて企画・計画する」は自由業（24.3%）で全体（8.9%）に比べて高くなっている。
- ・「参加する時間がない」は学生（41.4%）で全体（26.4%）に比べて高くなっている。

図 11-1-4 公園でのボランティア活動で参加してみたい活動（職業別）



## 11-2 公園の管理運営で望ましいボランティア

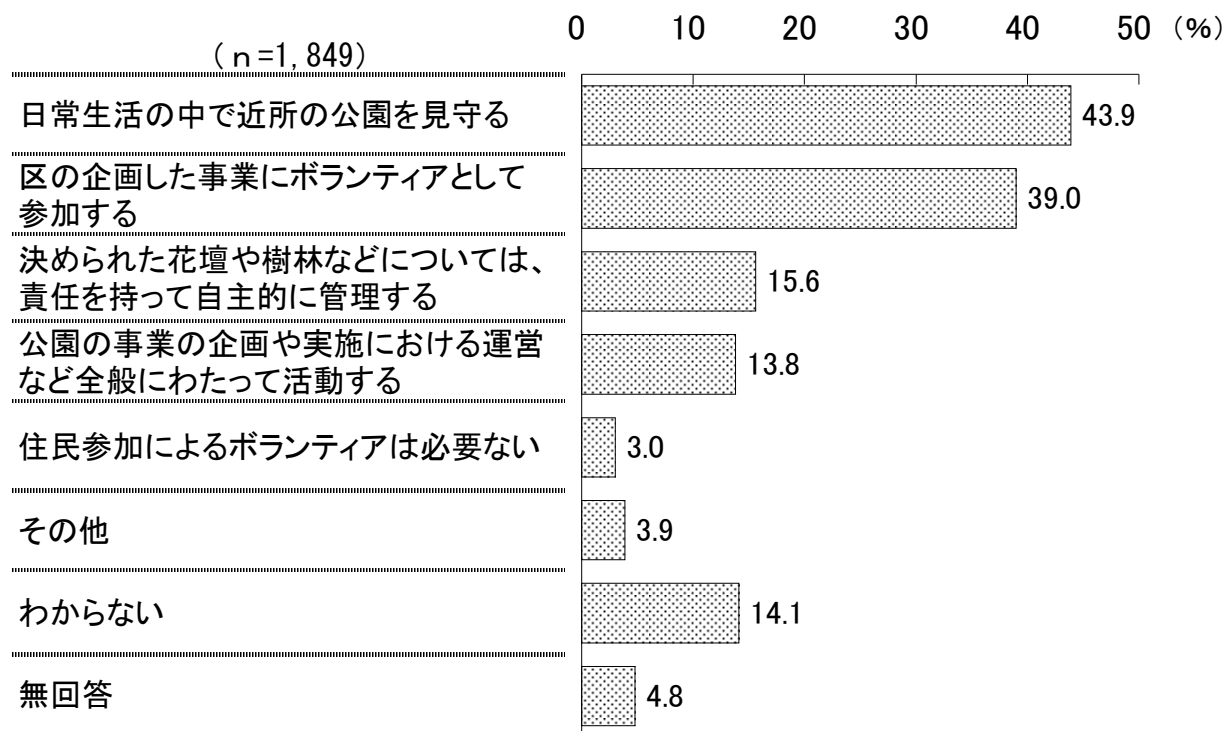
問27 公園の管理運営において、あなたが考える望ましいボランティアとはどのようなものですか。（〇はいくつでも）

- ・「日常生活の中で近所の公園を見守る」が4割を超え、「区の企画した事業にボランティアとして参加する」がほぼ4割で、この2項目が多くなっている。
- ・「日常生活の中で近所の公園を見守る」は主に家事に従事で高くなっている。
- ・「区の企画した事業にボランティアとして参加する」は女性が男性に比べて6ポイント高く、女性の30代と40代で高くなっている。また、学生で高くなっている。
- ・「公園の事業の企画や実施における運営など全般にわたって活動する」は男性40代で高くなっている。

### (1) 全体

- ・「日常生活の中で近所の公園を見守る」が43.9%、「区の企画した事業にボランティアとして参加する」が39.0%で、この2項目が多くなっている。

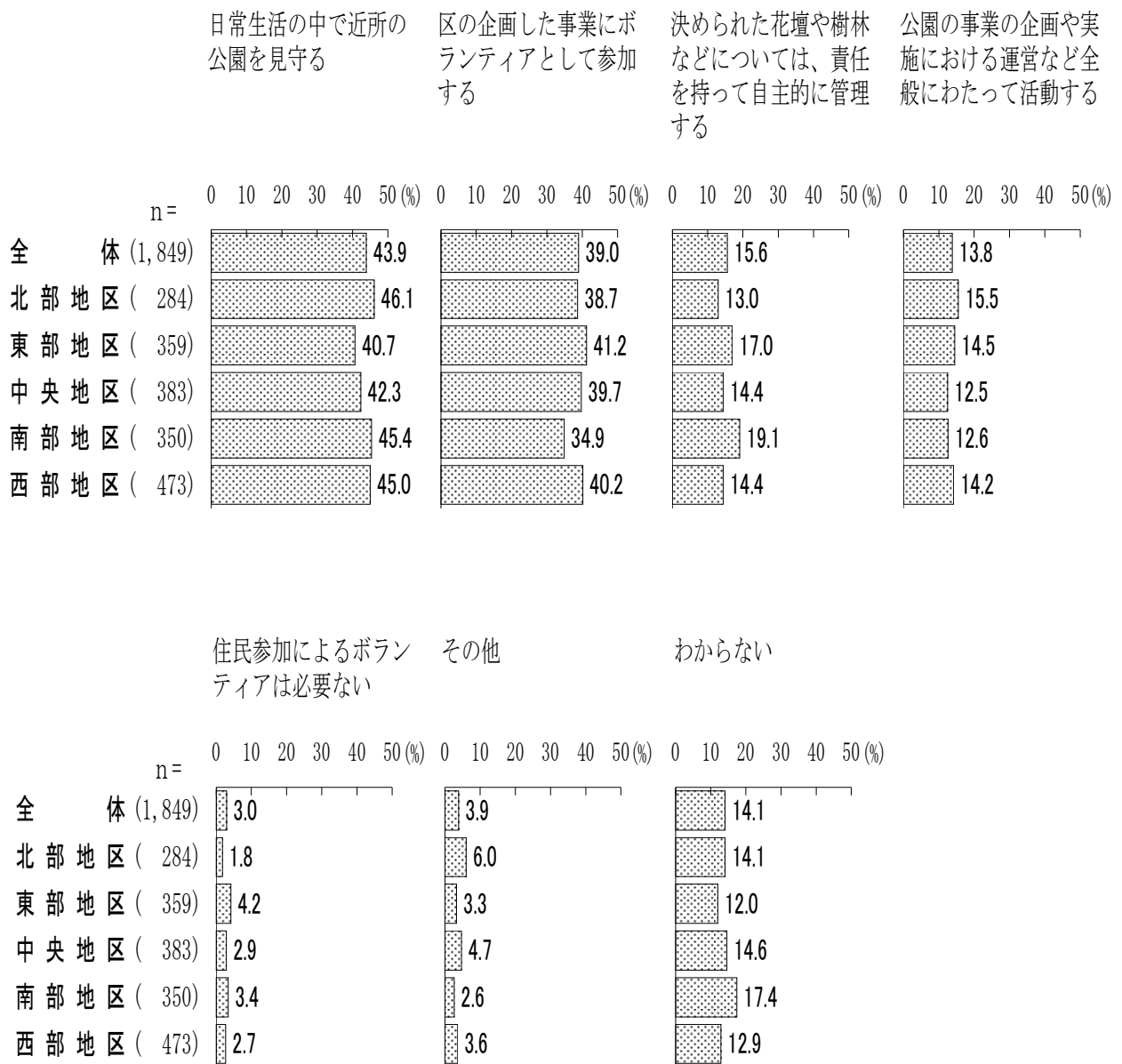
図 11-2-1 公園の管理運営で望ましいボランティア（全体）



(2) 地区別

- ・いずれの地区でも「日常生活の中で近所の公園を見守る」と「区の企画した事業にボランティアとして参加する」が4割前後と高くなっている。

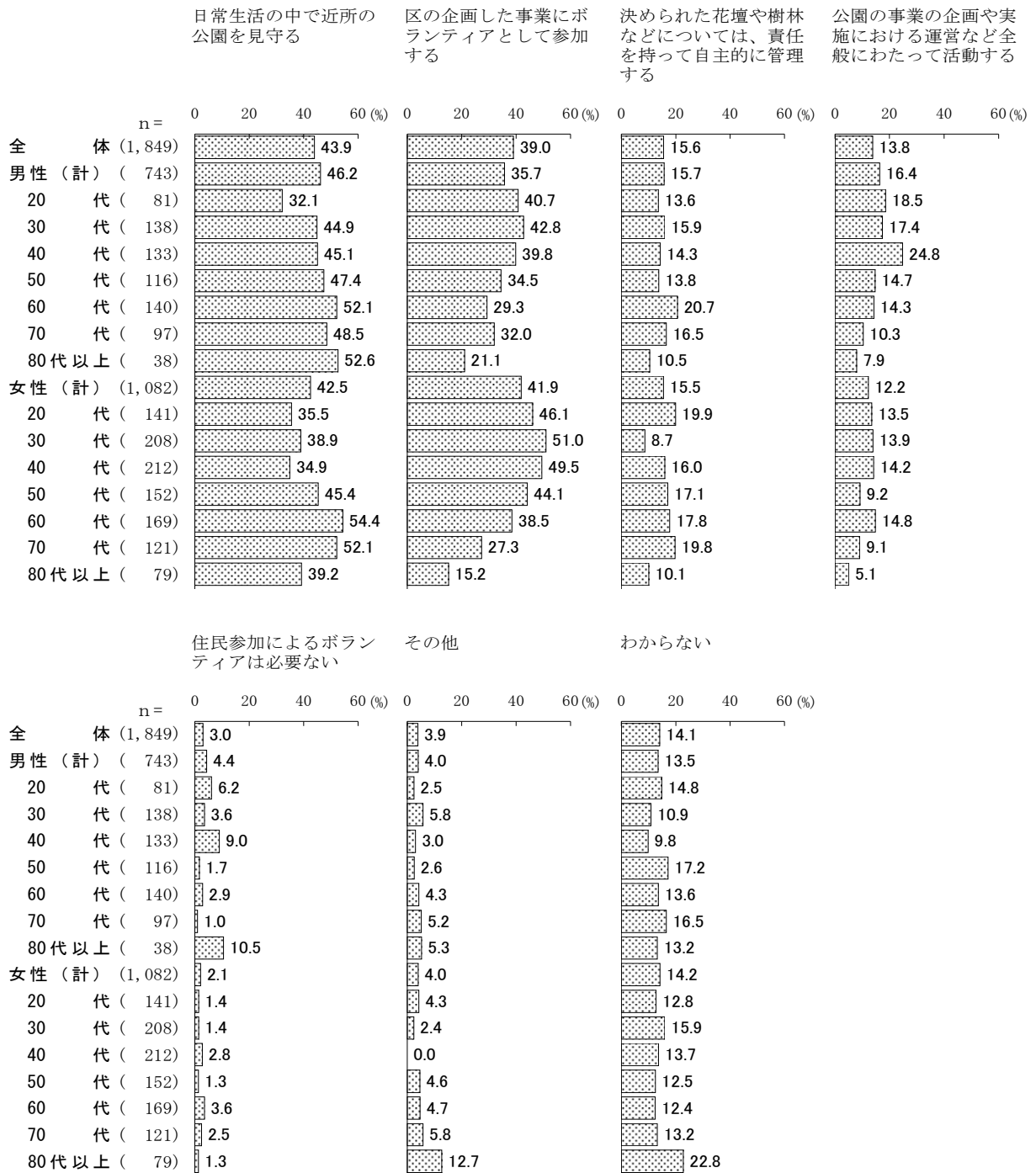
図 11-2-2 公園の管理運営で望ましいボランティア（地区別）



(3) 性・年代別

- ・「区の企画した事業にボランティアとして参加する」は女性（41.9%）が男性（35.7%）に比べて6ポイント高くなっている。
- ・「区の企画した事業にボランティアとして参加する」は女性の30代（51.0%）と40代（49.5%）で全体（39.0%）に比べて高くなっている。
- ・「公園の事業の企画や実施における運営など全般にわたって活動する」は男性40代（24.8%）で全体（13.8%）に比べて高くなっている。

図 11-2-3 公園の管理運営で望ましいボランティア（性・年代別）

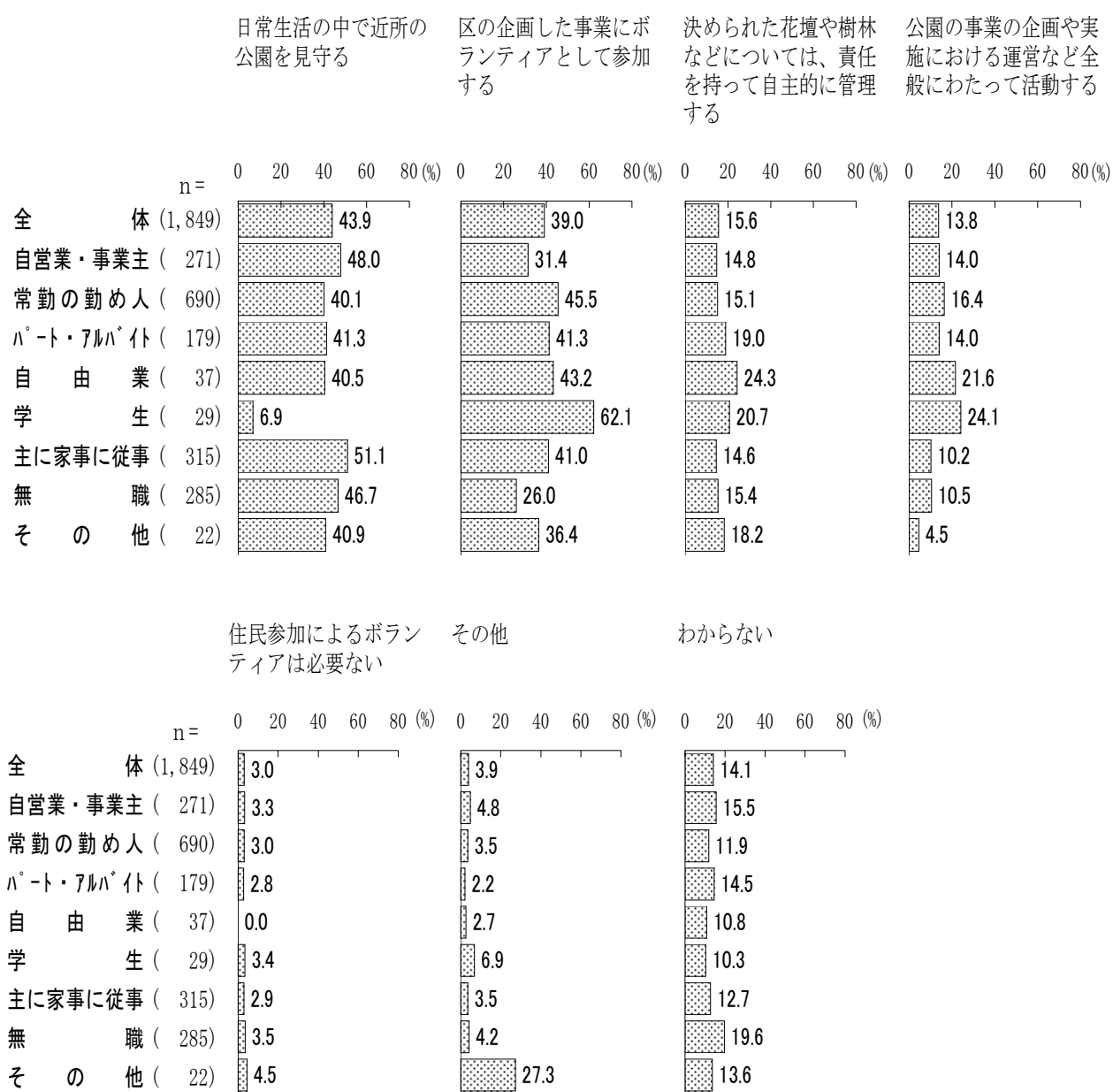




#### (4) 職業別

- ・「日常生活の中で近所の公園を見守る」は主に家事に従事（51.1%）で全体（43.9%）に比べて高くなっている。
- ・「区の企画した事業にボランティアとして参加する」は学生（62.1%）で全体（39.0%）に比べて高くなっている。

図 11-2-4 公園の管理運営で望ましいボランティア（職業別）



## 12. 窓口サービス

### 12-1 区の施設利用の有無

問28 あなたは、この1年間に、区の施設（総合庁舎、地区サービス事務所、図書館、体育館など）を利用したことがありますか。

- ・「利用したことがある（電話を含む）」人は8割近くとなっている。

#### (1) 全体

- ・「利用したことがある（電話を含む）」人は77.4%となっている。
- ・区の施設利用の有無の推移を見ると、前回（平成21年）とほぼ同じ傾向となっている。

図12-1-1 区の施設利用の有無（全体）

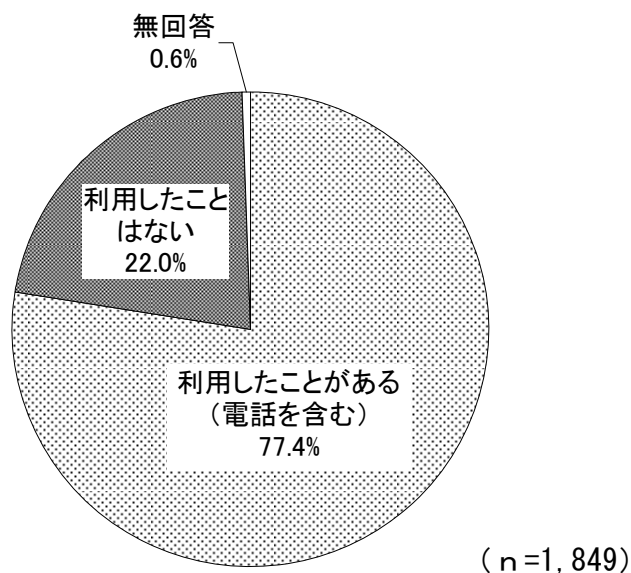
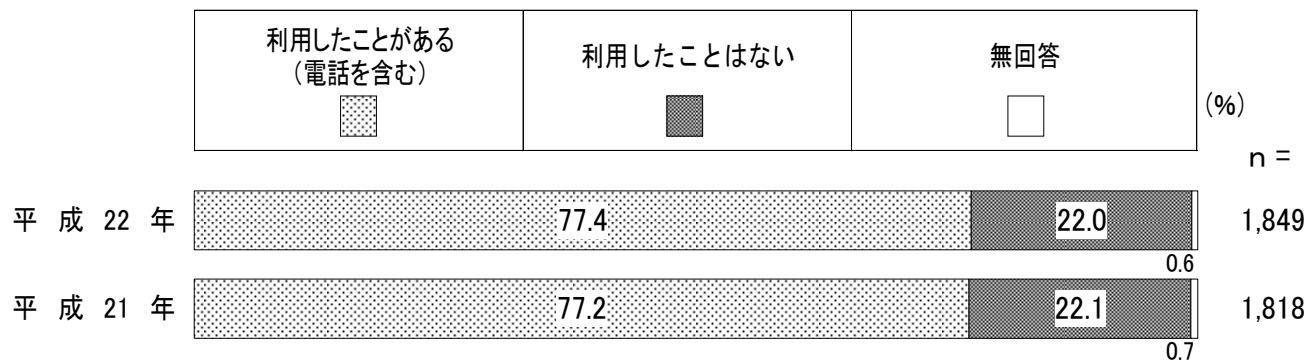


図12-1-2 区の施設利用の有無の推移（全体）



## 12-2 職員の対応・サービスの印象

(問28で、区の施設を「利用したことがある」と回答した方にお尋ねします)

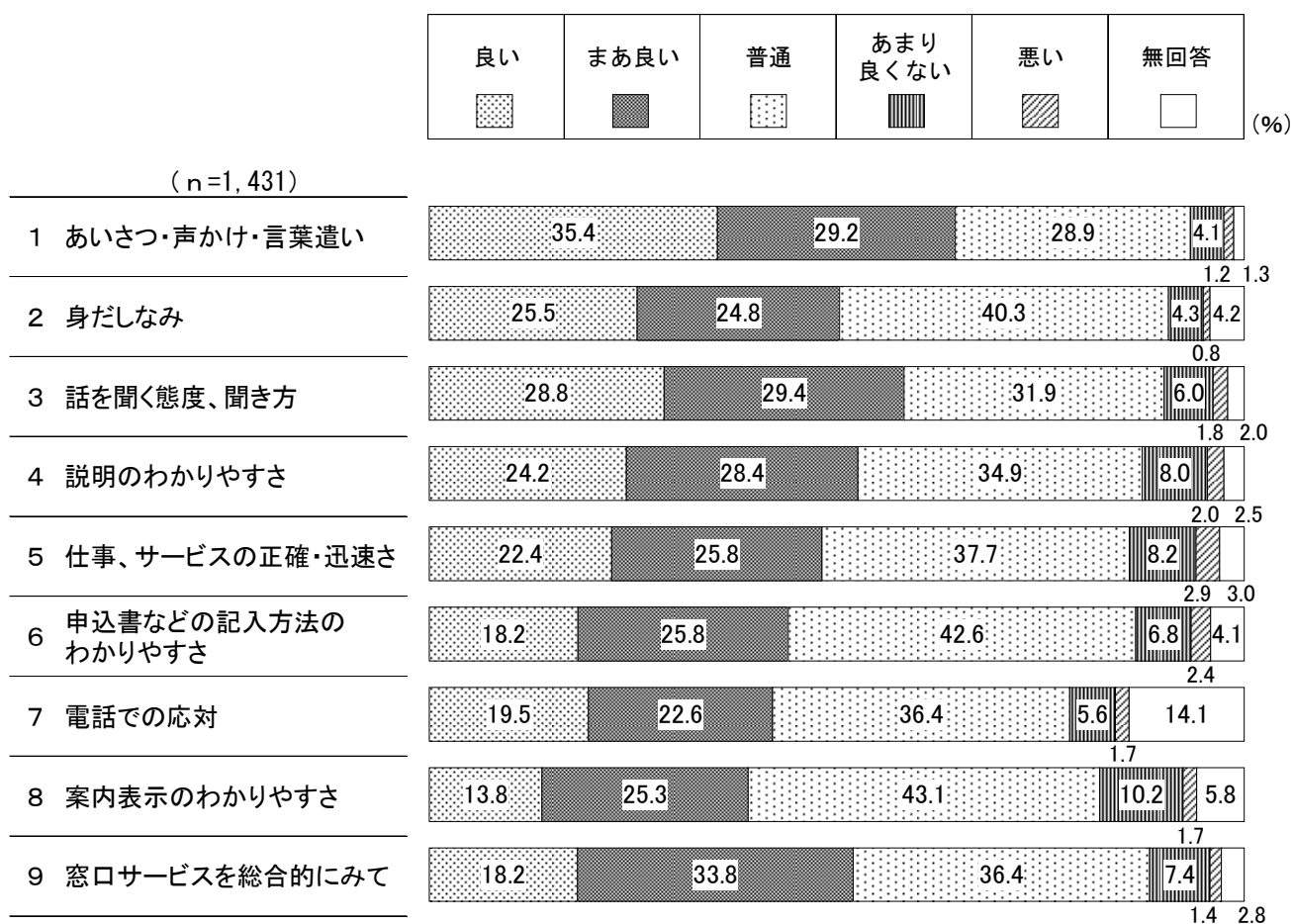
問28-1 区の施設を利用して、職員の対応・窓口サービスに対してどのような印象を持ちましたか。なお、電話のみのご利用の場合は「2 身だしなみ」「8 案内表示のわかりやすさ」を除き、ご回答ください。

- ・ [窓口サービスを総合的にみて] では「良い」と「まあ良い」を合わせた『良い』は5割を超え、「あまり良くない」と「悪い」を合わせた『悪い』は1割未満となっている。
- ・ [窓口サービスを総合的にみて] では『良い』は男性の70代と80代以上で高くなっている。
- ・ [窓口サービスを総合的にみて] では『悪い』は男女ともに20代で高くなっている。

### (1) 全体

- ・ [窓口サービスを総合的にみて] では「良い」と「まあ良い」を合わせた『良い』は52.0%、「あまり良くない」と「悪い」を合わせた『悪い』は8.8%となっている。

図 12-2-1 職員の対応・サービスの印象 (全体)

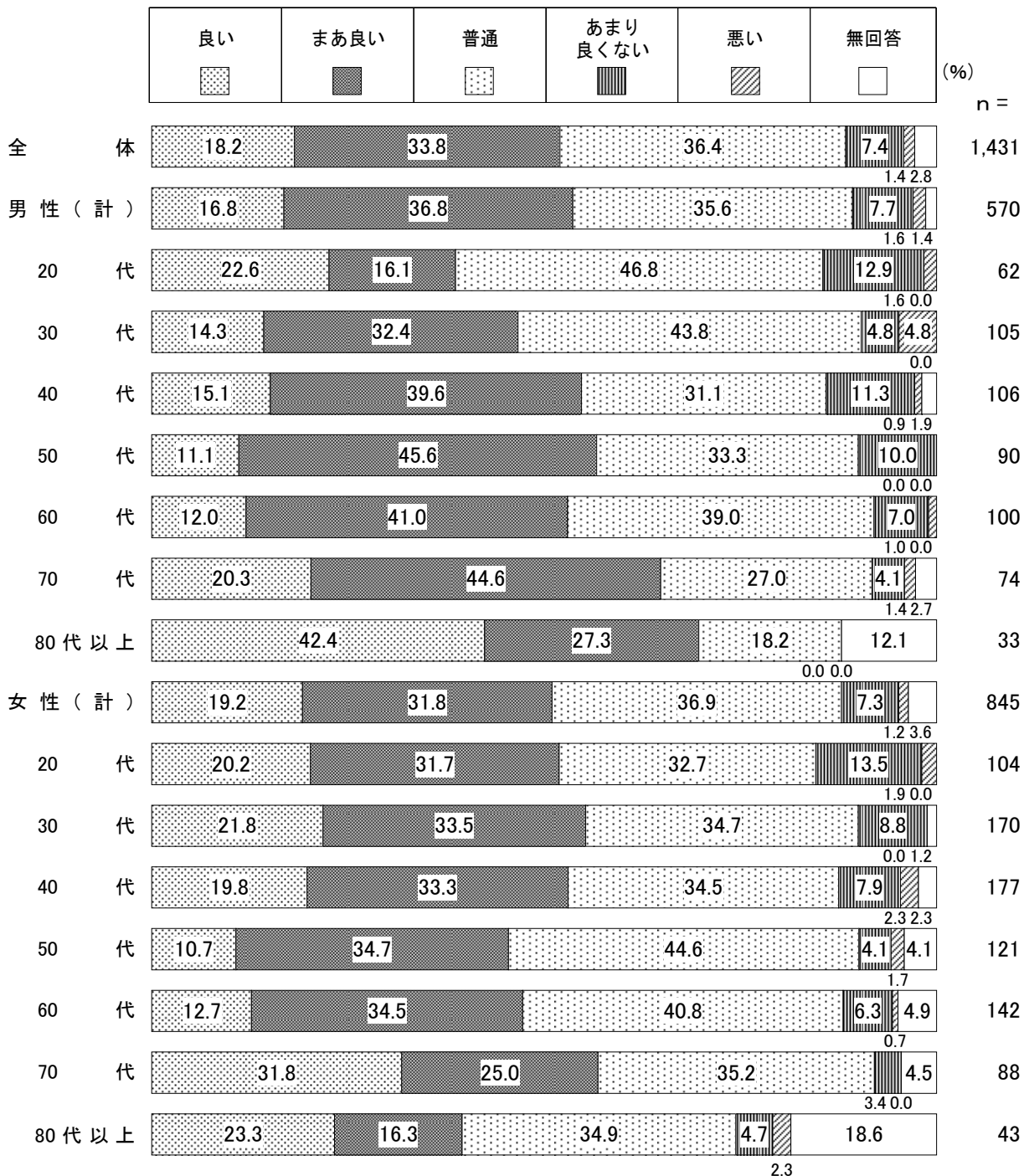


(2) 性・年代別

9. 窓口サービスを総合的にみて

- ・『良い』は男性の70代(64.9%)と80代以上(69.7%)で全体(52.0%)に比べて高くなっている。
- ・『悪い』は男女ともに20代(男性14.5%、女性15.4%)で全体(8.8%)に比べて高くなっている。

図 12-2-2 職員の対応・サービスの印象-9. 窓口サービスを総合的にみて(性・年代別)



(3) 地区別

9. 窓口サービスを総合的にみて

- ・『良い』はいずれの地区でも5割前後、『悪い』は1割未満となっている。

図 12-2-3 職員の対応・サービスの印象-9. 窓口サービスを総合的にみて (地区別)

